令和７年度 市営住宅若宮団地リフォーム工事（195～200号）

伊　那　市

株式会社　田原建築設計事務所

図面目録							
建築工事				電気設備工事		機械設備工事	
図番	図面名称	図番	図面目録	図番	図面名称	図番	図面名称
Ａ－01	建築工事特記仕様書（1）	Ａ－17	2LDK(195～200) 展開図1	Ｅ－01	電気設備特記仕様書	Ｍ－01	機械工事特記仕様書
Ａ－02	建築工事特記仕様書（2）	Ａ－18	2LDK(195～200) 展開図2	Ｅ－02	建築概要・付近見取図・配置図	Ｍ－02	機 器 表
Ａ－03	建築工事特記仕様書（3）	Ａ－19	2LDK(195～200) キープラン・建具表	Ｅ－03	分盤図・照明器具姿図	Ｍ－03	衛 生 器 具 表
Ａ－04	建築工事特記仕様書（4）	Ａ－20	2LDK(195～200) 基礎伏図	Ｅ－04	2LDK(195～200) 電灯コンセント設備配線図	Ｍ－04	凡例・桝リスト
Ａ－05	解体特記仕様書	Ａ－21	2LDK(195～200) 小屋伏図・補強図	Ｅ－05	2LDK(195～200) 幹線弱電設備配線図	Ｍ－05	2LDK(195～200号) 屋外給排水設備図
Ａ－06	構造特記仕様書（1）	Ａ－22	(195～200) 既存平面図			Ｍ－06	2LDK(195～200号) 給排水設備図
Ａ－07	構造特記仕様書（2）	Ａ－23	(195～200) 既存立面図			Ｍ－07	2LDK(195～200号) 換気設備図
Ａ－08	建物概要・付近見取図・配置図	Ａ－24	現況外構図			Ｍ－08	2LDK(195～200号) 既存撤去図
Ａ－09	敷地面積求積図	Ａ－25	外構図			Ｍ－09	現況配置図・付近見取図
Ａ－10	現況配置図	Ａ－26	外構詳細図			Ｍ－10	施工要領図－１
Ａ－11	建物求積図・法チェック図	Ａ－27	外構工作物			Ｍ－11	施工要領図－２
Ａ－12	2LDK(195～200) 仕上表	Ａ－28	(195～200) 既存立面図欠損部				
Ａ－13	2LDK(195～200) 平面図・屋根伏図	Ａ－29	仮設計画図				
Ａ－14	2LDK(195～200) 立面図						
Ａ－15	2LDK(195～200) 平面詳細図						
Ａ－16	2LDK(195～200) 矩計図						

令和７年度　市営若宮団地リフォーム工事（195～200号）仕様書

Ⅰ 工事概要

１．工事場所　伊那市若宮7314番地3ほか

２．敷地面積（㎡）

３．工事種目　改修工事

建物別	種別	構造	階数	梁間(m)	桁行(m)	建築面積(㎡)	延面積(㎡)
195～200号	改修工事	ﾌﾟﾚｷｬｽﾄ	1			307.01	307.01

Ⅱ 建築工事仕様（構造関係を除く）

１．共通仕様

（１）図面及び特記仕様に記載されていない事項は、全て国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）令和４年版」（以下「標仕」という。）による。

（２）標準仕様書で、「特記がなければ、」以下に具体的な材料・工法・検査方法等を明示している場合において、それらが関係法令等（条例を含む）と異なる場合には、具体的な対応策について監督職員と協議すること。

（３）電気設備工事及び機械設備工事を本工事に含む場合は、電気設備工事及び機械設備工事はそれぞれの標準仕様書を適用する。

２．特記仕様

（１）項目は、番号に○印の付いたものを適用する。

（２）特記事項は、●印の付いたものを適用する。
●印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。
●印と㊟印の付いた場合は、共に適用する。

（３）特記事項に記載の（．．）内の表示番号は、標仕の当該項目、当該図又は当該表を示す。

（４）特記事項に記載の（別．．）は（5.3.7）による別図「各部配筋」の当該項目を示す。

（５）製造所名は、五十音順とし「株式会社」等の記載は省略する。

章	項目	特記事項
1 一般共通事項	①適用基準等	●建築工事標準詳細図　国土交通省大臣官房官庁営繕部監修（令和4年版） ●公共住宅建設工事共通仕様書　公共住宅事業者等連絡協議会（令和4年版） ・建築鉄骨設計基準　国土交通省大臣官房官庁営繕部監修（令和4年版） ●工事写真の撮り方（改訂第二版）建築編　国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 ●長野県建築工事の手引　長野県建設部施設課監修 ●公共建築改修工事標準仕様書　国土交通省大臣官房官庁営繕部監修（令和7年版） ●木造建築工事標準仕様書　国土交通省大臣官房営繕部監修（令和7年版） ●建設工事公衆災害防止対策要綱（建築工事編）　建設省建設経済局建設業課・住宅局建築指導課監修 ●長野県建設リサイクル推進指針 ●公共住宅建設工事　共通仕様書（公共住宅事業者等連絡協議会編）
	②工事実績情報の登録	※ 適用する　・適用しない　(1.1.4)
	③品質計画	建築基準法に基づく風圧区分等を必要とする場合は次による　(1.2.2) ※ 風速（Vo＝ 30m/s ） ※ 地表面粗度区分（ ・Ⅰ ・Ⅱ ●Ⅲ ・Ⅳ） ※ 積雪区分　建告示第1455号　別表（ 27 ）
	4.電気保安技術者	※ 適用する　・適用しない　(1.3.3)
	5.施工条件明示項目	・　(1.3.5)
	⑥発生材の処理等	※ 別紙解体工事仕様書による　●構外搬出適正処理　・現場説明書による　(1.3.8) また、収集・運搬・中間処理・最終処分等の処理について予め監督職員と協議すること。 ・引渡しを要するもの ・再生資源の利用を図るもの
	⑦環境への配慮	化学物質を放散させる建築材料等　(1.4.1) 本工事の建物内部に使用する建築材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有すると共に、次の(1)から(5)を満たすものとする。 (1)合板、木質系ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ、構造用ﾊﾟﾈﾙ、集成材、単板積層材、MDF、ﾊﾟｰﾃｨｸﾙﾎﾞｰﾄﾞ、その他の木質建材、ﾕﾘｱ樹脂板、仕上げ塗材及び壁紙はﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。 (2)保温材、緩衝材、断熱材はﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ及びｽﾁﾚﾝを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。 (3)接着剤はﾌﾗﾎﾞ酸ｼﾞｰﾛｰﾌﾞﾁﾙ及びﾌﾗﾎﾞ酸ｼﾞｰ2-ｴﾁﾙﾍｷｼﾙを含有しない難揮発性の可塑剤を使用し、ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ、ｱｾﾄｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ、ﾄﾙｴﾝ、ｷｼﾚﾝ、ｴﾁﾙﾍﾞﾝｾﾞﾝを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。 (4)塗料はﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ、ﾄﾙｴﾝ、ｷｼﾚﾝ、ｴﾁﾙﾍﾞﾝｾﾞﾝを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。 (5)上記(1)、(3)及び(4)の建築材料等を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器等は、ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。 なお、ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞを放散させないものとは放散量が規制対象外のものを、ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞの放散が極めて少ないものとは放散量が第三種のものをいい、原則として規制対象外のものを使用するものとするが、該当する材料等がない場合は、第三種のものを使用するものとする。 規制対象外 ①JIS及びJASの F☆☆☆☆規格品 ②建築基準法施行令第20条の7第4項による国土交通大臣認定品 ③下記表示のあるJAS規格品 a．非ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ系接着剤使用 b．接着剤等不使用 c．非ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ系接着剤及びﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞを放散させない材料使用 d．ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞを放散させない塗料等使用 e．非ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ系接着剤及びﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞを放散させない塗料使用 f．非ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ系接着剤及びﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞを放散させない塗料等使用 第三種 ①JIS及びJASの F☆☆☆規格品 ②建築基準法施行令第20条の7第3項による国土交通大臣認定品 ③旧JISのEo規格品 ④旧JASのFco規格品

章	項目	特記事項
	⑧建築材料等	建築材料等　(1.4.2) 本工事に使用する建築材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能と同等以上のものを使用する。ただし、製造業者等が記載されている場合に同等以上のものとする場合は、あらかじめ監督職員の承諾を受ける。なお、JIS及びJASの表示のない材料及び製造業者等は、次の(1)～(6)の事項を満たすものとする。 (1)品質及び性能に関する試験ﾃﾞｰﾀが整備されていること (2)生産施設及び品質の管理が適切に行われていること (3)安定的な供給が可能であること (4)法令等で定める許可、認可、認定又は免許等を取得していること (5)製造又は施工の実績があり、その信頼性があること (6)販売、保守等の営業体制が整えられていること これらの材料を使用する場合は、設計図書に定める品質及び性能を有することの証明となる資料又は外部機関が発行する資料等の写しを監督職員に提出して承諾を受けるものとする。 なお、(社)公共建築協会で発行する「建築材料・設備材料等品質性能評価事業建築材料等評価名簿（最新版）」に指定された材料については上記(1)～(6)に該当するものとする。 また、備考欄に商品名が記載された材料については、当該商品同等の性能を有するものとし、監督職員の承諾を受けた材料とする。
	9.特別な材料の工法	標仕に記載されていない特別な材料の工法は、当該製品所の指定する工法による。
	⑩技能士	※ 適用する（一級技能士を採用している現場である旨の表示をすること。）　(1.5.2) ・適用しない

適用工事種別	技能検定作業
仮設工事	・とび作業
鉄筋工事	・鉄筋組立作業
ｺﾝｸﾘｰﾄ工事	・型枠施工　・ｺﾝｸﾘｰﾄ圧送工事作業
鉄骨工事	・構造物鉄工作業　・とび作業
ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ･ALCﾊﾟﾈﾙ・押出成形ｾﾒﾝﾄ板工事	・ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ工事作業 ・ｴｰｴﾙｼｰﾊﾟﾈﾙ工事作業
防水工事	・ｱｽﾌｧﾙﾄ防水工事作業　・ｳﾚﾀﾝｺﾞﾑ系塗膜防水工事作業 ・ｱｸﾘﾙｺﾞﾑ系塗膜防水工事作業　・合成ｺﾞﾑ系ｼｰﾄ防水工事作業 ・塩化ﾋﾞﾆﾙ系ｼｰﾄ防水工事作業　・ｾﾒﾝﾄ系防水工事作業 ●ｼｰﾘﾝｸﾞ防水工事作業　・改質ｱｽﾌｧﾙﾄｼｰﾄｰﾁ防水工事作業 ・FRP防水工事作業
石工事	・石張り作業
タイル工事	・ﾀｲﾙ張り作業
木工事	・大工工事作業
屋根及びとい工事	●内外装板金作業　・かわらぶき　・ｽﾚｰﾄ工事作業
金属工事	・鋼製下地工事作業　・内外装板金作業
左官工事	●左官作業
建具工事	・建具製作　●ｻｯｼ施工作業　●ｶﾞﾗｽ工事作業　・自動ﾄﾞｱ施工作業
ｶｰﾃﾝｳｫｰﾙ工事	・金属製ｶｰﾃﾝｳｫｰﾙ工事作業　・ｻｯｼ施工作業　・ｶﾞﾗｽ工事作業
塗装工事	●建築塗装作業
内装工事	・ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ系床仕上げ工事作業　・ｶｰﾍﾟｯﾄ系床仕上げ工事作業 ・ﾎﾞｰﾄﾞ仕上げ工事作業　・壁装作業
排水工事	・建築配管作業
舗装工事	・浴熱ﾍﾞｲﾝﾄﾊﾝﾄﾞﾏｰｶｰ工事作業　・加熱ﾍﾞｲﾝﾄﾏｼﾝﾏｰｶｰ工事作業
植栽工事	・造園
その他	・畳製作　・家具製作　・樹脂接着剤注入施工

章	項目	特記事項
	⑪化学物質の濃度測定	測定方法　※ ﾊﾟｯｼﾞ法（拡散法）　・ｱｸﾃｨﾌﾞ法（吸引法）　(1.5.9) 検査機関 ※ 環境計量証明事業の知事登録がある者で、監督員が承諾した者 測定物質 ※ ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ　※ ﾄﾙｴﾝ　※ ｷｼﾚﾝ　※ ｴﾁﾙﾍﾞﾝｾﾞﾝ　※ ﾊﾟﾗｼﾞｸﾛﾛﾍﾞﾝｾﾞﾝ　※ ｽﾁﾚﾝ 測定個所(室)　（195～200号）　ＬＤＫ、洋室１ 指示による　計　２　個所 ※ 試料採取に当たっては、監督員又は監督員が指定する者が立ち会いの下に行う。 化学物質の室内汚染濃度指針値

ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ	ﾄﾙｴﾝ	ｷｼﾚﾝ	ｴﾁﾙﾍﾞﾝｾﾞﾝ	ﾊﾟﾗｼﾞｸﾛﾛﾍﾞﾝｾﾞﾝ	ｽﾁﾚﾝ	備考
0.08ppm	0.07ppm	0.05ppm	0.88ppm	0.04ppm	0.05ppm	

章	項目	特記事項
	⑫完成図等（完成写真共）	※ 作成する　(1.7.1～1.7.3)(表1.7.1) 別添「伊那市営精工事に係る提出書類等一覧表」及び監督員の指示による。
	⑬設備工事との取合い	設備機器の位置、取合い等の検討できる施工図を提出して、監督職員の承諾を受ける。
	⑭設計GL	※ 図示　・
2 仮設工事	①足場その他	足場を設ける場合、「標仕」2.2.4(b)によるほか、設置においては、「手すり先行方法による足場の組立て等に関する基準」における2の(2)手すり据置方式又は(3)手すり先行専用足場方式により行うこと。(2.2.4)
	②監督員事務所	※ 設ける　●設けない　(2.3.1) 規模　※ 10㎡程度　・20㎡程度　・（　　）㎡程度
	③工事用水	構内既存の施設　●利用できる（ ※ 有償　・無償）　※ 利用できない　(2.3.1)
	④工事用電力	構内既存の施設　・利用できる（ ※ 有償　・無償）　※ 利用できない　(2.3.1)
	⑤請負者事務所	構内に設けることが　※出来る　・出来ない

章	項目	特記事項
3 土工事	①埋戻し及び盛土 ②建設発生土の処理	種別　・Ａ種　※Ｂ種　・Ｃ種　・Ｄ種　(3.2.3)(表3.2.1) ※ 構外搬出適切処理　(3.2.5) ・構内の造成に利用　・構内の指定場所にたい積　・構内の指定範囲に敷きならし
	3.建設発生土情報交換システム	本工事は、建設発生土情報交換システム（以下「システム」という）の登録対象工事であり、請負者は工事の実施に当たっては土量、土質、土工期等に変更があった場合、速やかに当該システムのデータ更新を行うものとする。なお、これにより難い場合には、監督職員と協議しなければならない。
	④根切土の仮置	構内に根切土の仮置が　※出来る　●出来ない（片道運搬距離 10 Ｋｍ）
4 地業工事		特記仕様書（構造関係）による
5 鉄筋工事		特記仕様書（構造関係）による
6 コンクリート工事		特記仕様書（構造関係）による
7 鉄骨工事		特記仕様書（構造関係）による
8 コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント板工事	①補強コンクリートブロック造	※ 空洞ブロック16　・空洞ブロック16-Ⅲ　(8.2.2) 各部の配筋　※ 図示　(8.2.5)
	2.コンクリートブロック塀壁及び塀	※ 標仕表8.3.1及び下表による　(8.3.2)

適用箇所			厚さ(mm)
・間仕切壁　・地下二重壁　・外壁			・
・塀	高さ	2m以下	・120
		2mを越える	・150
・衛生配管用裏積みブロック			・100 ・

章	項目	特記事項
		各部の配筋　※図示　(8.3.3)
	3.ALCパネル	(8.4.2～8.4.6)(表8.4.2～表8.4.4)

種類	単位荷重(N/㎡)	厚さ(mm)	取付け工法（種別）
・外壁パネル	・1180　・1960	※ 100　・	・Ａ種　・Ｂ種　・Ｃ種
・間仕切パネル		※ 100　・	・Ｂ種　・Ｃ種　・Ｄ種　・Ｅ種
・屋根パネル	・980	※ 100　・	※ Ｆ種(標仕8.4.5による)
・床パネル	・2350　・3530	※ 100　・150	

・床パネルの耐火性能（　・1時間　・2時間　）　(8.4.2)
外壁パネルの出隅及び入隅のパネル接合ならびにパネルと他部材との取り合い部の目地幅(mm)
※ 20　・　(8.4.3)
伸縮目地への耐火目地材の充てん　・適用する　(8.4.3)

章	項目	特記事項
	3.押出成形セメント板(ECP)	(8.5.2～8.5.5)(表8.5.1)(表8.5.2)

施工箇所	表面形状	厚さ(mm)	幅(mm)	工法種別
・外壁パネル	※Ｆ　・Ｆ－Ｒ			・Ａ種
	・Ｄ　・Ｄ－Ｒ			・Ｂ種
	・Ｔ　・Ｔ－Ｒ			
・間仕切パネル	※Ｆ　・Ｆ－Ｒ			・Ｂ種
	・Ｄ　・Ｄ－Ｒ			・Ｃ種
	・Ｔ　・Ｔ－Ｒ			

耐火性能　・有り（　　）　・無し

章	項目	特記事項
9 防水工事	1.アスファルト防水	(9.2.2)(9.2.3)(表9.2.3～表9.2.8)

種別	施工箇所
※ ＡＩ－２	
・Ａ－２	
・Ｄ－２	
・ＢＩ－２	床型枠用鋼製デッキプレートを使用したコンクリートスラブ
・	

アスファルト　※ ３種　・４種　(9.2.2)
断熱工法の断熱材　厚さ（mm）　※ 25　・　(9.2.2)
ただし、ノンフロンのものとする。
立上り部の保護
・れんがの種類　※ 見え隠れ部分は市販品のれんが又は、市販品のれんが形ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸとする。
・乾式保護材の材料　※ 押出成形セメント板（厚さ　15mm）　(9.2.5)
製造所　評価名簿による

章	項目	特記事項
	2.改質アスファルトシート防水	種別　・ＡＳ－１　・ＡＳ－２　厚さ（　　）　(9.3.2～9.3.4)(表9.3.1) 施工箇所　・
	3.合成高分子系ﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄ防水	(9.4.2)(9.4.3)(表9.4.1)

種別	厚さ(mm)	施工箇所	仕上げ塗料塗り	使用分類
・Ｓ－Ｆ１	※ 1.2　・		・シルバー	※ 非歩行
・Ｓ－Ｆ２	※ 2.0　・		・カラー	・軽歩行
・Ｓ－Ｍ１	※ 1.5　・			
・Ｓ－Ｍ２	※ 1.5　・			
・Ｓ－Ｍ３	※ 1.2　・			

章	項目	特記事項
	4.塗膜防水	(9.5.2)(9.5.3)(表9.5.1)(表9.5.2)

種別	施工箇所	備考
・Ｘ－１		仕上げ塗料塗り
・Ｘ－２		・シルバー
		・カラー
・Ｙ－１		Ｙ－２工法の保護シート
・Ｙ－２		※ 適用する　・適用しない

Ｘ－１の脱気装置
・設ける　材質（　　）　設置数量（　　㎡当たり１箇所）

（1～4についての保証）　防水工事施工者及び請負者連名の保証書（10年）を提出すること。

章	項目	特記事項
	⑤シーリング	下表以外は、標仕表9.6.1による。　(9.6.2)(表9.6.1)

施工箇所	シーリング材の種類（記号）
開口部廻り、壁塞ぎ廻り	MS-2　変性シリコン

章	項目	特記事項
	6.複合防水	

種別	施工箇所	備考
・ＦＲＰ＋ウレタン		
・メーカー仕様(責任施工)による　製品名		

章	項目	特記事項
10 石工事	1.石材	石の品質　(10.2.1)(表10.2.1)(表10.2.2) 床用石材　※２等品　・１等品（施工箇所　　） 壁及びその他の石材　※１等品　・２等品（施工箇所　　） ・天然石張り 天然石の種類・表面仕上げ

施工箇所	種類	産地・名称	厚さ(mm)	仕上げの種類
			100、45	本磨き

・テラゾ張り
種石の種類　※ 大理石　・　(10.2.1)(表10.2.2)
表面仕上げ　※ 本磨き　・
形状・寸法　※ 図示

章	項目	特記事項
	2.壁の石張り工法	外壁石張り　(10.3.2)(10.3.3)(10.5.2)(10.5.3) 工法 ・外壁湿式工法（ ※ 流し筋工法　・　　） ・乾式工法 石裏面処理　・行わない　・行う（　・小口共） 裏打ち処理　・行わない　・行う ドレインパイプ　※ ステンレスＳＵＳ３０４　・ 内壁石張り　(10.4.2)(10.4.3)(10.5.2)(10.5.3) 工法 ・内壁空積工法（ ※ あと施工アンカー横筋流し工法　・あと施工アンカー工法） ・乾式工法 石裏面処理　・行わない　・行う（　・小口共） 裏打ち処理　・行わない　・行う
	3.床及び階段の石張り	床石張りの裏面処理　・行わない　・行う　(10.6.2) 階段石張りの裏面処理　・行わない　・行う　(10.6.3) 屋内のワックス掛け　・行わない　・行う　(10.7.5)
11 タイル工事	1.陶磁器質タイル	タイルの種類　(11.2.1)

主な用途による区分・寸法 施工箇所	形状・寸法(mm)	吸水率による区分 Ⅰ類	Ⅱ類	Ⅲ類	うわぐすり 無釉	施釉	役物 有	無	色 標準	特注	再生材の適用	耐凍害性 有	無	備考
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	

役物：標準的な曲がり（小口、標準、二丁、屏風）の役物は一体成形とする
タイルの見本焼き　※ 行わない　・行う（※　外壁タイル　・　　）

章	項目	特記事項
	2.張り付け用材料	既製調合モルタル　(11.2.3)

保水率(%)	単位容積質量(kg/ｌ)	接着強さ(N/mm2) 標準時	温冷繰返し後	長さ変化率(%)	曲げ強さ(N/mm2)
70.0以上	1.20程度	0.60以上	0.40以上	0.20以下	4.0以上

接着剤のホルムアルデヒド放散量の等級　※ 規制対象外　・第三種　(11.2.3)

章	項目	特記事項
	3.壁タイル張りの工法	内装タイル　※ 壁タイル接着剤張り　・改良積上げ張り　(11.3.3)(表11.3.2) 外装タイル　※ 密着張り　・マスク張り 躯体表面の処理　・行わない　※ 行う（施工範囲　※ 図示　・　） 躯体表面の処理方法　ＭＣＲ工法又は目荒し工法 ＭＣＲ工法を行う場合は、せき板面にＭＣＲ工法用気泡ポリエチレンシート張りとし、仕上がり面を凹凸状態とする。 高圧水洗工法の目荒しを行う場合は、水圧50N/mm2以上かつ2.5ρ/㎡以上とし、施工計画書を監督職員に提出し承諾を受ける。また、目荒しの状態は、事前に監督職員に承諾を受ける。 下地モルタル塗り　※ 標仕15.2.2～15.2.5による タイルの試験張り　※ 行わない　・行う（ ※ 外壁タイル　・　　）　(11.2.1)
	4.陶磁器質タイル型枠先付け工法	(11.2.2)(11.4.2)(表11.4.1)

種別	適用タイル	タイル型枠先付け面のせき板
※ タイルシート法	・小口タイル	※ 標仕6.9.3[材料](b)(2)又は金属製ﾀｲﾙ先付け用パネル
・目地桟工法	・二丁掛タイル	
・桟木法	大型タイル	・

一級建築士事務所登録(伊那)Ｊ第2X201号
株式会社田原建築設計事務所
〒396-0022 伊那市御園1223-3　TEL0265-72-7171
一級建築士 登録第２７９７７５号
田　原　健　一

伊那市建設部

工事名	令和７年度　市営住宅若宮団地リフォーム　工事（195～200号）
年月日	R 07・04
図面名称	建築工事特記仕様書（１）
図面番号	Ａ－01

2012.06改訂

12 木工事

①木材

木材の品質
木材の工事現場搬入時の含水率　※ Ａ種　・Ｂ種
※ 標仕12.2.1による　・信州木材認証製品又は同等品　・市販品　(12.2.1)
・ 保存処理木材を適用する箇所（　　）
・ 間伐材等　・使用する（使用個所　　）
間伐材等：間伐材、林地残材又は小径木であること。

樹種
※ 標仕表12.2.3による　(12.2.1)(表12.2.3)
・ 代用樹種を適用しない箇所（　　）

②集成材等

(12.2.2)

種　別	施工個所	強度等級・材面の品質 性能・使用環境・樹種名・規格等	間伐材等の適用
・ 構造用集成材		※ 図示	・
・ 構造用単板積層材		※ 図示	・
◎ 造作用集成材	図示	※ 図示	・
・ 化粧ばり造作用集成材		※ 図示	・

ホルムアルデヒド放散量　※ 規制対象外　・第三種
間伐材等：間伐材、合板、製材工場から発生する端材等の残材、林地残材又は小径木の体積比割合が10%以上であること。

③接着剤

接着剤に含まれる可塑剤は、揮発性のものとする。(12.2.6)
ユリア樹脂、メラミン樹脂、フェノール樹脂、レゾルシノール樹脂又はホルムアルデヒド系防腐剤を用いた接着剤のホルムアルデヒド放散量　※規制対象外　・第三種

4.防腐・防蟻処理

防腐処理　※ 行う（ ※ 標仕12.8(C)による　・ 図示　）・ 行わない　(12.2.8)(12.2.9)
防蟻処理　・ 行う（ ※ 図示　・　）　・ 行わない
防腐、防蟻処理の種類、品質
表面処理用木材保存剤(防腐・防蟻剤)は監督職員の承諾するものとする。
（クロルピリホスを含むものを添加しないこと）

5.防虫処理

行う箇所（　　）(12.2.10)

⑥床板張り用合板及びその他の合板

(12.2.2)

種　別	施工個所	厚さ(mm)	接着の程度	表板の樹種名・品質・等級・性能等	防虫処理	その他の処理	間伐材等の適用
◎ 普通合板	床・壁		※ １類 ・２類	※ 図示	・あり ・なし	・難燃処理 ・防炎処理	・
・ 構造用合板			・ 特類 ※ １類	※ 図示	・あり ・なし	・難燃処理 ・防炎処理	・
・ 天然木化粧合板			・ １類 ・２類	※ 図示	・あり ・なし	・難燃処理 ・防炎処理	・
・ 特殊加工化粧合板			・ １類 ・２類	※ 図示	・あり ・なし	・難燃処理 ・防炎処理	・

間伐材等：間伐材、合板、製材工場から発生する端材等の残材、林地残材又は小径木の体積比割合が10%以上であること。

⑦建築材料

クロルピリホスをあらかじめ添加したものを使用しないこと。ただし、発散するおそれがないものとして、国土交通大臣が認める材料についてはこの限りでない。

13 屋根及びとい工事

①長尺金属板葺き

(13.2.2)(13.2.3)(表13.2.1)

屋根葺形式	材　種	塗装種別	板厚(mm)
・ 瓦棒葺（心木なし） ・ 立はぜ葺 ◎立平 ・あり掛） ・ 横葺（・定尺　・長尺） ※ 図示	※ 塗装溶融55%ｱﾙﾐﾆｳﾑ-亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯（CGLCCR-20-AZ150）	※ ふつ素 ・ 特殊高分子焼付	※ 0.4 ・ 0.5

下葺材料　※ ｺﾞﾑｱｽﾌｫｰﾙﾄﾌｨﾝｸﾞ　・

2.折板葺

(13.3.2)(13.3.3)(表13.2.1)

形　式	※ 重ね形　・ はぜ締め形　・ かん合形
形状(mm)	山高（　　）　山ピッチ（　　）　板　厚 ※ 0.6 ◎ 0.8 ・
材　料（規格等）	※ 塗装溶融55%ｱﾙﾐﾆｳﾑ-亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯(CGLCCR-20-AZ150) ・
軒先面戸板	※ 有り　・ 無し
断熱材	※ 有り（種別： ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ　厚さ： 4 mm）　・ 無し
耐火性能	※ ３０分耐火　・ 無し

（1及び2についての保証）
・ 長野県板金工業組合認定の施工図により施工したものは同組合及び請負者連名の保証書（10年）を提出すること。
・ 上記組合認定以外の施工図により施工したものはメーカー、屋根施工業者及び請負者連名の保証書（10年）を提出すること。

⑧とい

材　種　※ 配管用鋼管　・ 硬質塩化ビニル管VP　(13.5.2)(表13.5.1)
・ ステンレス鋼板　◎ 表面処理鋼板
・
鋼管製といの防露　※ 標仕表13.5.3 による　(13.5.3)(表13.5.4)
防露材のホルムアルデヒド放散量の等級　※ 規制対象外　・ 第三種　(13.5.2)
掃 除 口　※ 有り（図示）　・ 無し
※　引渡日から10年間の保証書(メーカー、施工業者、請負業者連名)を提出する。

⑨保証書

14 金属工事

1.ｽﾃﾝﾚｽの表面仕上げ

(14.2.1)

種　類	施　工　箇　所
※ ＨＬ程度	
・ No.2B程度	
・ 鏡面仕上げ	
・	

2.ｱﾙﾐﾆｳﾑ及びｱﾙﾐﾆｳﾑ合金の表面処理

(14.2.2)(表14.2.1)

種　別	施　工　箇　所
・ Ｂ－１種（無着色）	
・ Ｂ－２種（ ・ﾌﾞﾗｳﾝ系　・ﾌﾞﾗｯｸ　・ｽﾃﾝｶﾗｰ）	
・	

3.鉄の亜鉛めっき

(14.2.3)(表14.2.2)

表面処理方法	種 別	施　工　箇　所
溶融亜鉛めっき	・ Ａ種	
	・ Ｂ種	
	・ Ｃ種	
電気亜鉛めっき	・ Ｄ種	
	・ Ｅ種	
	・ Ｆ種	

④軽量鉄骨天井下地

天井のふところが屋内1.5m以上、屋外が 1.0 m以上の場合　(14.4.4)
※ 吊りボルトの補強を行う　・
天井のふところが3mを超える場合の補強　※ 図示
耐震性を考慮した補強　※ 図示
屋外の軒天井及びピロティ天井等における耐風圧性を考慮した補強　※ 図示

⑤軽量鉄骨壁下地

スタッドの高さが5mを超える場合　※ 図示　(14.5.3)(表14.5.1)

6.金属成形板張り

(14.6.2)(表14.2.1)

形　状	製　法	材　種	寸法 (mm)	厚 (mm)	表 面 処 理
・ ｽﾊﾟﾝﾄﾞﾚﾙ形	・ 押出し ・ ロール	※ ｱﾙﾐﾆｳﾑ製 ・ ・			・ Ｂ－１種 ・ Ｂ－２種（　　） ・
・ ﾊﾟﾈﾙ形	※ プレス ・				

伸縮調整継手　※ 設けない　・ 設ける（施工箇所は図示）　(14.6.3)

7.ｱﾙﾐﾆｳﾑ製笠木

(14.7.2)(表14.2.1)(表14.7.1)

種　類	呼称内厚(mm)	表面処理	固定間隔	備　考
・ ２５０形	１．６以上	※ Ａ－１又は Ｂ－１種 ・ Ｂ－２種（　　）	固定方法及び間隔は品質計画で定めたもの	隅角部及び突当たり部等の役物は本体製造所の仕様による。
・ ３００形	１．８以上			
・ ３５０形	２．０以上			
・ １００形				
・				

8.手すり及びタラップ

(14.2.1)(14.8.2)(14.8.3)(表14.2.2)

種　類	材料の種別	表　面　処　理
・ 手すり	※ ステンレスＳＵＳ３０４	※ ＨＬ程度　・ 鏡面程度　・
	・ 鉄	亜鉛めっき　外部 ※ Ｃ種　内部 ※ Ｅ種
	・ ｱﾙﾐ	※ ASA樹種被覆
・ タラップ	※ ステンレスＳＵＳ３０４	※ 研磨無し　・
	・ 鉄	亜鉛めっき　内外部 ※ Ｃ種 ・

9.キーボックス

※ 要（　　セット用）　・不要

15 左官工事

①モルタル塗り材料

吸水調整材　(15.2.2)

全固形分（%）	吸水量（g）	接着強度（N/mm2）	界面破断率（%）
表示値　±1.0	30分で1g以下	0.98以上	50以下

均質で有害と認められる異物の混入がないこと。

防水剤（防水モルタル塗りの混入剤）　(15.2.2)
防水剤の種類　建築用のモルタルに用いるセメント防水剤　(JIS A 1404による試験)

混合割合	凝結時間	曲げ及び圧縮強度比	吸水比	透水比
ｾﾒﾝﾄ重量の5%以下	JIS R5201の試験　8において始発　1時間以上 終結　10時間以内	70%以下	95%以下	80%以下 294.0KPa/h

安全性 膨張性のひび割れおよびそりがないこと。JIS R5201の試験9

②床ｺﾝｸﾘｰﾄの直均し仕上げ

下表以外は、標仕表6.2.4及び標仕15.3.2による　(表6.2.4)(15.3.1)(15.3.2)

施 工 箇 所	平 た ん 差 (mm)	備　考
ﾌﾘｰｱｸｾｽﾌﾛｱ（パネル構法）範囲	1mにつき10以下	塗料塗りの場合も含む
ﾌﾘｰｱｸｾｽﾌﾛｱ（溝構法）範囲	3mにつき7以下	

③仕上塗材仕上げ

(15.5.2)(表15.5.1)

種　類	呼 び 名	仕上げの形状等
・ 薄付け仕上塗材	・ 外装薄塗材Ｓｉ	・
	・ 可とう形外装薄塗材Ｓｉ	・
	・ 外装薄塗材Ｅ	・ 砂壁状　・ 着色骨材砂壁状
	・ 内装薄塗材Ｅ	砂壁状じゅらく
	・ 可とう形外装薄塗材Ｅ	・ 砂壁状　・ ゆず肌状　・ さざ波状
	・ 防水形外装薄塗材Ｅ	・ ゆず肌状　・ さざ波状　・ 凹凸状
	・ 外装薄塗材Ｓ	砂壁状
	・ 内装薄塗材Ｃ	・
	・ 内装薄塗材Ｌ	・
	・ 内装薄塗材Ｓｉ	・
	・ 内装薄塗材W	京壁状じゅらく
・ 複層仕上塗材	・ 複層塗材ＣＥ	
	・ 可とう形複層塗材ＣＥ	・ ゆず肌状　・ 凸部処理　※ 凹凸模様
	・ 複層塗材Ｓｉ	耐候性　※ ３種　・
	・ 複層塗材Ｅ	上塗材　溶媒　※ 水系　・ 溶剤系
	※ 複層塗材ＲＥ	樹脂　※ アクリル系　・
	・ 複層塗材ＲＳ	外観　※ つやあり　・ つやなし
	・ 防水形複層塗材ＣＥ	・ メタリック
	・ 防水形複層塗材Ｅ	防水形の増膜材　※ 行う
	・ 防水形複層塗材ＲＥ	
	・ 防水形複層塗材ＲＳ	
・ 軽量骨材仕上塗材	・ 吹付用軽量塗材	砂壁状
	・ こて塗用軽量塗材	平たん状

建築内部に使用するユリア樹脂等を用いた塗料のホルムアルデヒド放散量の等級
※ 規制対象外　・ 第三種

防火材料の指定
※ 屋内の壁、天井の仕上げ材は防火材料とする。

4.珪藻土

JIS A 6909（建築用仕上塗材）により、製造所において指定された色及びつや等に調合し、有効期間を経過したものは使用しない。

16 建具工事

1.見本の製作等

・ 特殊な建具の仮組（建具番号：　　）　(16.1.4)

2.防犯建物部品

・ 適用あり（図示）　(16.1.6)

③ｱﾙﾐﾆｳﾑ製建具

外部に面する建具　(16.2.2)(16.2.4)(表16.2.1)

種　別	耐風圧性	気密性	水密性	枠見込み (mm)	施　工　箇　所
・	Ｓ－３	※ Ａ－３	※ Ｗ－５	７０	※ 図示
◎ Ｂ種	Ｓ－４	◎ Ａ－４	・		
・ Ｃ種	Ｓ－６	Ａ－４	Ｗ－５	１００	

表面処理　※ Ｂ－１種　・ Ｂ－２種（ ※ ﾌﾞﾗｳﾝ系　・ﾌﾞﾗｯｸ　・ｽﾃﾝｶﾗｰ）　(表14.2.1)
防音ドアセット　・ 防音サッシ　・ 適用する　遮音性の等級（　）
断熱ドアセット　・ 断熱サッシ　・ 適用する　断熱性の等級（　）
耐震ドアセット　・ 適用する　面内変形追随性の等級（　）
屋内建具
表面処理　※ Ｃ－１種又はＢ－１種　(表14.2.1)
・ Ｃ－２種又はＢ－２種（ ・ﾌﾞﾗｳﾝ系　・ﾌﾞﾗｯｸ　・ｽﾃﾝｶﾗｰ）

④網　戸

防 虫 網
網の種別　※ ガラス繊維入り合成樹脂製　・ｽﾃﾝﾚｽ製(SUS316)　◎ 合成樹脂製(ｸﾘｱｱｰﾄ)　(16.2.3)
形　式　※ 外部可動式　・ 固定式

5.鋼製建具

簡易気密型ドアセット　(16.3.2)(表16.3.1)
※ 適用する（適用箇所は建具表による）　・ 適用しない
耐風圧性　(16.3.2)(表16.2.1)
※ 適用する（適用箇所は建具表による）　・ 適用しない
特定防火設備の戸　・ 適用する

標準型鋼製建具　・ 適用する　(16.3.6)

6.鋼製軽量建具

簡易気密型ドアセット　(16.4.2)
※ 適用する（適用箇所は建具表による）　・ 適用しない
片開き、親子開き及び両開き戸の1枚の戸の有効開口幅が950mm又は有効高さが2,400mmを超える場合の鋼製板類の厚さ　※ 図示　(16.4.4)
標準型鋼製軽量建具　・ 適用する　(16.4.5)

7.ｽﾃﾝﾚｽ製建具

簡易気密型ドアセット　(16.5.2)
※ 適用する（適用箇所は建具表による）　・ 適用しない
耐風圧性　(16.5.2)
※ 適用する（適用箇所は建具表による）　・ 適用しない
表面仕上げ　※ ＨＬ仕上げ　・ 鏡面仕上げ　・　(16.5.4)
曲げ加工　※ 普通曲げ　・ 角出し曲げ（補強あり）　(16.5.5)
特定防火設備の戸　・ 適用する　(16.5.1)

施工個所	鋼材の種類
屋外	※ SUS304又はSUS430JIL
屋内	※ SUS430　・ SUS304又はSUS430JIL

⑧木製建具

建物内部の木製建具に使用する表面材及び接着剤のホルムアルデヒドの放散量の等級　(16.6.2)
※ 規制対象外　・ 第三種
かまち戸の樹種　かまち（　）　鏡板（　）　(16.6.2)
ふすまの上張り　※ 新鳥の子又はビニル紙程度(押入等の裏面は除く)　・ 鳥の子　(表16.6.3)
縁仕上　・ 塗り縁　・ 生地縁（素地）　・ 生地縁（ウレタンクリヤー塗装）　(表16.6.9)

⑨建具用金物

マスターキー　※ 製作する　・ 製作しない　(16.7.4)
建築用金物　**(16.3.6)(16.4.6)**
錠類は、シリンダー箱錠（レバーハンドル）とする
なお、錠前類は建具製作所の指定するものとし、監督職員の承諾を受ける
吊り金物
◎T番（内部建具については、軸を鉄芯としてもよい）　・ﾋﾟﾎﾞｯﾄﾋﾝｼﾞ

10.自動ドア開閉装置

(16.8.2)(16.8.3)(表16.8.1～3)

開 閉 方 法	セ ン サ の 種 類
※ スライディングドア 種類 ・ SSLD-1　・ SSLD-2 ・ DSLD-1　・ DSLD-2 ・ スイングドア ・ SWD-1　・ SWD-2	・ 熱線スイッチ　・ マットスイッチ　・ ペダルスイッチ ・ 光電スイッチ　・ タッチスイッチ　・ 音波スイッチ ※ 光線反射スイッチ　・ 電波スイッチ　・ 押ボタンスイッチ ・ 多機能便所スイッチ

※ 凍結防止措置（適用箇所は建具表による）

11.自閉式上吊り引戸装置

材料　※ SUS304アルミニウム製等防錆性能を有するもの
・ 製造所標準仕様による　(16.9.2)(16.9.3)
性能等　※ 標仕16.9.1による
・ 製造所標準仕様による

12.重量ｼｬｯﾀｰ

(16.10.2)

シャッターの種類	
・ 一般重量シャッター	耐風圧性能（　）N/㎡
・ 外壁用防火シャッター	耐風圧性能（　）N/㎡
・ 屋内用防火シャッター	
・ 屋内用防煙シャッター	

開閉機能　※ 上部電動式（手動併用）　・ 上部手動式　(16.10.2)(表16.10.1)
危害防止機構
※障害物感知装置（自動閉鎖型）　・ ｼｬｯﾀｰの二段降下方式
一般重量ｼｬｯﾀｰのｼｬｯﾀｰｹｰｽ　※ 設ける　・ 設けない　(16.10.2)

13.軽量ｼｬｯﾀｰ

開閉形式　※ 手動式　・ 上部電動式（手動併用）　(16.11.2)(表16.11.1)
ｽﾗｯﾄ　材質　※ JIS G3312(塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯)又はJIS G3318
(塗装溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板及び鋼帯)　(16.11.3)
・ 鋼板
形状　※ ｲﾝﾀｰﾛｯｷﾝｸﾞ形　・ ｵｰﾊﾞｰﾗｯﾌﾟﾋﾝｸﾞ形　(16.11.4)
ｶﾞｲﾄﾞﾚｰﾙ等　※ 鋼板製　・ ｽﾃﾝﾚｽ製SUS304（厚さ1.0mm）　(表16.11.2)
耐風圧性能　（　）N/㎡

14.ｵｰﾊﾞｰﾍｯﾄﾞﾄﾞｱ

(16.12.2)(16.2.3)

ｾｸｼｮﾝ材料	開閉方式	収納形式	ｶﾞｲﾄﾞﾚｰﾙ
※ ｽﾁｰﾙﾀｲﾌﾟ ・ ｱﾙﾐﾆｳﾑﾀｲﾌﾟ ・ ﾌｧｲﾊﾞｰｸﾞﾗｽﾀｲﾌﾟ	※ ﾊﾞﾗﾝｽ式 ・ ﾁｪｰﾝ式 ・ 電動式	・ ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞ型 ・ ﾛｰﾍｯﾄﾞ形 ・ ﾊｲﾌﾘｯﾄ形 ・ ﾊﾞｰﾁｶﾙ形	・ 溶融亜鉛めっき鋼板 ※ ｽﾃﾝﾚｽ鋼板（SUS304）

耐風圧性能　（　）N/㎡

⑮ｶﾞﾗｽ

※ 建具表による　(16.13.2)(16.13.5)
・ ガラスブロック

表面形状	呼び寸法(mm)	色　調	防火性能
・ 正方形 ・ 長方形	・	※ クリア　・ 熱線反射 ・ 乳白　・ カラー（　）	※ 無し ・ 有り

⑯ｶﾞﾗｽ留め材及び溝

ｶﾞﾗｽ留め材　(16.13.2)(表9.6.1)

建具の種類	材　種
アルミニウム製	◎ シーリング材　◎ ガスケット（ＦＩＸ部はシーリング材）
鋼製及び軽量鋼製	※ シーリング材
ステンレス製	※ シーリング材

ただし、防火戸のガラス留め材は建築基準法に基づく防火性能を有するものとする。
板ガラスをはめ込む溝の大きさ　(16.13.3)
標仕16.13.3以外のｱﾙﾐﾆｳﾑ製建具及び板ｶﾞﾗｽの場合は（社）日本建築学会JASS17ｶﾞﾗｽ工事「3.1納まり寸法標準」によるほか、性能値が確認できる資料を監督職員に提出し、承諾を受ける

17.ｶﾞﾗｽ用ﾌｨﾙﾑ（内張り用）

用途による区分	記　号
・ ガラス飛散防止フィルム	※ GS-A-B
・ 日射調整フィルム/ガラス飛散防止フィルム	・ SC-A/GS-A-B　・ SC-B/GS-A-B
・ ガラス貫通防止フィルム	※ SF-A
・ 日射調整フィルム/ガラス貫通防止フィルム	・ SC-A/SF-A
・	

品質　JIS A5759による

17 カーテンウォール工事

1.ﾒﾀﾙｶｰﾃﾝｳｫｰﾙ

設計図書による規定の他、特記無き事項は（社）日本建築学会JASS14による。
ｶｰﾃﾝｳｫｰﾙ材料の種類　(17.2.2)

種　類	規　格　等
※ ｱﾙﾐﾆｳﾑ製	※ 標仕16.2.3のｱﾙﾐﾆｳﾑ製建具の材料による
・	・

ｶｰﾃﾝｳｫｰﾙ材料の方式
・ 方立方式
・ ﾊﾟｯｸﾏﾘｵﾝ方式（ ・ 単純２辺支持構法　・ ＳＳＧ構法）
・ ﾊﾟﾈﾙ方式
・ ｽﾊﾟﾝﾄﾞﾚﾙ方式
・ 小型ﾊﾟﾈﾙ組み合わせ方式（ ・ ﾉｯｸﾀﾞｳﾝ方式　・ ﾕﾆｯﾄ方式）

ｼｰﾘﾝｸﾞ材及びｶﾞﾗｽ取付材料　(9.6.2)(17.2.2)(表9.6.1)
下記以外は標仕表9.6.1による

被着体の組合せ		シーリング材の種別		
		記　号	主成分による区別	耐久性による区別
金　属	ガラス			
	石、タイル			
ガラス	ガラス			

構造用ｶﾞｽｹｯﾄ　※ 適用しない　(17.2.2)
・ 適用する　（施工箇所：　　）
断 熱 材　※ 適用しない　(17.2.2)
・ 適用する　（種類：　　厚さ(mm)：　　施工箇所　※図示）
製品のｻｲｽﾞ許容差　※ 標仕表17.2.1による　(17.2.3)(表17.2.1)
・ 製造所標準製作規定寸法許容差による

ｱﾙﾐﾆｳﾑの表面処理　(17.2.3)(表14.2.1)

種　別	色 彩 等
・ Ａ－１種　・ Ｂ－１種	無着色
・ Ａ－２種　・ Ｂ－２種	※ ﾌﾞﾗｳﾝ系　・ﾌﾞﾗｯｸ系　・ｽﾃﾝｶﾗｰ　・
・ 着色塗膜　塗装材料（　　）焼付け方法（　　）ｺｰﾄ（　　）ﾍﾞｰｸ	

耐風圧性能　(17.1.3)
性能値　※ 建築基準法施行令第87条及び建設省告示第1454号に定められた風圧力に対し安全であること
・ 正圧（　）N/㎡以上及び負圧（　）N/㎡以上に対して安全であること

主要部材のたわみ

支点間距離（h）	た わ み 量	状　態
※ ４ｍ以下	※ ±（１／１５０）×h かつ絶対量２０mm以下	※ 各部の破損、残留変形、有害な変形が起こらないこと
・ ４ｍを超える	・	

耐震性能　(17.1.3)
設計用震度　水平方向（ＫＨ）　※ 1.0　・
垂直方向（ＫＶ）　※ 0.5　・

構 造 種 別	層間変位量（h＝支点間距離）	状　態
鉄骨造	※ ±（１／１００）×h以上 ・	※ 部材の脱落、ｶﾞﾗｽの破損及び主要部材に有害な歪が起こらない。 ｼｰﾘﾝｸﾞは補修程度。
鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ造 鉄骨鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ造	※ ±（１／２００）×h以上 ・	

水 密 性　・ Ｗ－４　・ Ｗ－５　・　(17.1.3)
気 密 性　・ Ａ－３　・ Ａ－４　・　(17.1.3)
耐火性能　※ 適用しない　・ 適用する（　　時間、施工箇所：図示）
耐熱温度差性（℃）　・ ６０　・ ７０　・ ８０
遮 音 性　・ Ｔ３　・ Ｔ４　・ Ｔ５
断 熱 性　・ Ｈ－２　・ Ｈ－３　・ Ｈ－４　・ Ｈ－５
映像調整　※ 行わない　・ 行う（建具表による）
製造所　性能等の確認できる資料を提出し監督職員の承諾を受ける

一級建築士事務所登録(伊那)Ｊ第2X201号
株式会社 田原建築設計事務所
〒396-0022 伊那市御園1223-3　TEL0265-72-7171
一級建築士 登録第２７９７７５号
田　原　健　一

伊 那 市 建 設 部

工 事 名	令和７年度　市営住宅若宮団地リフォーム　工事（195～200号）	年月日 R 07・04
図面名称	建築工事特記仕様書（２）	図面番号 Ａ－02

2012.06改訂

17 カーテンウォール工事

2. PCｶｰﾃﾝｳｫｰﾙ

設計図書による規定の他、特記無き事項は(社)日本建築学会JASS14による。

コンクリートの種類及び品質 (17.3.2)

※ 標仕17.3.2による。

・ 下表による。ただし、下表以外は標仕17.3.2による。

コンクリートの種類	設計基準強度（Fc）	所用スランプ（cm）

鉄筋 ※ SD295A ・

取付け用金物の表面処理（鉄の亜鉛めっき）及び材質 (14.2.3)(表14.2.2)

下記以外はカーテンウォール製作所の仕様による

金物種類及び部位	内 部	外 部
ＰＣ版打込み金物	※ Ｅ種 ・	※ Ａ種 ・
ＰＣ版打込み取付ボルト	※ Ｅ種 ・	※ ステンレスボルト
二次ファスナー	※ Ｅ種 ・	※ Ａ種 ・
取付けボルト	※ Ｅ種 ・	※ Ａ種 ・
レベル調整ボルト	※ Ｅ種 ・	※ Ａ種 ・

シーリング材料 (9.6.2)(17.3.2)(表9.6.1)

下記以外は標仕表9.6.1による

施 工 箇 所	シーリング材の種別		
	記 号	主成分による区分	耐久性による区分
カーテンウォール板間目地			

耐火目地材 ・ 適用する ※ 図示

断 熱 材 ※ 適用しない

・ 適用する （種類： 厚さ(mm)： 施工箇所：※図示）

製品の寸法許容差 ※ 標仕表17.3.1による (17.3.3)(表17.3.1)

・ 製造所標準製作規定寸法許容差による

表面仕上げ （ ）

耐火材料

施 工 部 位	種 別	規格等
・ ファスナー部		
・ 取付ブラケット		
・ パネル目地部		
・ 層間ふさぎ		

耐風圧性能 (17.1.3)

性能値 ※ 建築基準法施行令第87条及び建設省告示第1454号に定められた風圧力に対し安全であること

・ 正圧（ ）N/㎡以上及び負圧（ ）N/㎡以上に対して安全であること

耐震性能 (17.1.3)

設計用震度 水平方向（KH） ※ 1.0 ・

垂直方向（KV） ※ 0.5 ・

構 造 種 別	層間変位量（h＝支点間距離）	状 態
鉄骨造	※ ±（1／100）×h以上 ・	※ 部材が損傷せず破損脱落もしない。 ガラス等の破損もない。 シーリングは補修程度。
鉄筋コンクリート造 鉄骨鉄筋コンクリート造	※ ±（1／200）×h以上 ・	

18 塗装工事

①材 料

屋内の壁、天井仕上げ材は防火材料とする (18.1.3)

ユリア樹脂等を用いた塗料のホルムアルデヒド放散量 (18.1.3)

※ 規制対象外 ・ 第三種

②塗装業者（保 証）

○ 日本塗装工業会の会員 ○ 監督職員の承諾する業者

※ 塗装業者、請負者連名の保証書（３年）を提出すること。

③素地ごしらえ

木部の素地ごしらえ (18.2.2)(表18.2.1)

種別 （・Ａ種 ○Ｂ種 ）

鉄鋼面の素地ごしらえ (18.2.3)(表18.2.2)

種別 （・Ａ種 ・Ｂ種 ※Ｃ種 ）

亜鉛メッキ鋼面の素地こしらえ (18.2.4)(表18.2.3)

種 別	施 工 部 位 別 及 び 塗 料 種 別
・Ａ 種	鋼製建具及び、２液形ﾎﾟﾘｳﾚﾀﾝｴﾅﾒﾙ塗り、常温乾燥形ふっ素樹脂ｴﾅﾒﾙ塗りの場合
・Ｂ 種	Ａ種、Ｃ種以外
・Ｃ 種	下塗りに変成エポキシ樹脂塗料を塗装する場合

モルタル面及びプラスター面の素地ごしらえ (18.2.5)(表18.2.4)

種別 ※ Ｂ種 ・ Ａ種（施工箇所： ）

コンクリート面及びＡＬＣパネル面の素地ごしらえ (18.2.6)(表18.2.5)

種別 ※ Ｂ種 ・ Ａ種（施工箇所： ）

2-UE、2-ASE、2-FUEの場合のｺﾝｸﾘｰﾄ面及び押出成形ｾﾒﾝﾄ板面の素地ごしらえ (18.2.6)(表18.2.6)

種別 ※ Ｂ種 ・ Ａ種（施工箇所： ）

せっこうボード面及びその他のボード面の素地ごしらえ (18.2.7)(表18.2.7)

種別 ※ Ｂ種 ・ Ａ種（施工箇所： 外部軒天ｹｲｶﾙ板 ）

④錆止め塗料塗り

鉄鋼面 (18.3.2)(18.3.3)(表18.3.1)(表18.3.3)

塗料の種別 屋 外（※ Ａ種 JIS K 5674 ） 屋 内（※ Ａ種 JIS K5674 ・ Ｂ種 ）

塗りの種別 見掛り部 ※ Ａ種 見隠れ部（※ Ｂ種 ・ ）

亜鉛めっき鋼面 (18.3.2)(18.3.3)(表18.3.2)(表18.3.4)

塗料の種別 ※ Ａ種 ・ Ｂ種 ・ Ｃ種

塗りの種別 鋼製建具 ※ Ａ種 ・ Ｂ種 ・ Ｃ種

その他 ・ Ａ種 ・ Ｂ種 ※ Ｃ種

5. 合成樹脂調合ﾍﾟｲﾝﾄ塗り（ＳＯＰ）

木部 (18.4.2)(18.4.3)(表18.4.1)

塗料の種類 ※ 1種 ・

塗りの種別 屋外 ※ Ａ種 ・ Ｂ種

屋内 ・ Ａ種 ※ Ｂ種

鉄鋼面 (18.4.4)(表18.4.2)

塗料の種類 ※ 1種 ・

塗りの種別 ・ Ａ種 ※ Ｂ種

亜鉛めっき鋼面 (18.4.5)(表18.4.3)

塗料の種類 ※ 1種 ・

6. ｸﾘｱﾗｯｶｰ塗り（ＣＬ）

塗りの種別 ※ Ａ種 ・ Ｂ種 (18.5.2)(表18.5.1)

7. ｱｸﾘﾙ樹脂系非水分散型塗料塗り（ＮＡＤ）

塗りの種別 ・ Ａ種 ※ Ｂ種 (18.6.2)(表18.6.1)

8. 耐候性塗料塗り（ＤＰ）

鉄鋼面の上塗り等級 (18.7.2)(表18.7.1)

等 級	塗 料 の 種 別
・ １級	ふっ素樹脂塗料
・ ２級	アクリルシリコン樹脂塗料
・ ３級	ポリウレタン樹脂塗料

亜鉛めっき鋼面の上塗り等級 (18.7.3)(表18.7.2)

等 級	塗 料 の 種 別
・ １級	ふっ素樹脂塗料
・ ２級	アクリルシリコン樹脂塗料
・ ３級	ポリウレタン樹脂塗料

コンクリート面及び押出成形セメント板面 (18.7.4)(表18.7.3)

塗りの種別 ・ Ａ種 ・ Ｂ種 ・ Ｃ種

⑨つや有合成樹脂ｴﾏﾙｼｮﾝﾍﾟｲﾝﾄ塗り（ＥＰ－Ｇ）

ｺﾝｸﾘｰﾄ面、ﾓﾙﾀﾙ面、ﾌﾟﾗｽﾀｰ面、せっこうﾎﾞｰﾄﾞ面、その他ﾎﾞｰﾄﾞ面等 (18.8.2)(表18.8.1)

塗りの種別 ・ Ａ種 ※ Ｂ種

鉄鋼面 (18.8.4)(表18.8.3)

塗りの種別 ・ Ａ種 ※ Ｂ種

⑩合成樹脂ｴﾏﾙｼｮﾝﾍﾟｲﾝﾄ塗り（ＥＰ）

塗りの種別 ・ Ａ種 ※ Ｂ種 (18.9.2)(表18.9.1)

11. 合成樹脂ｴﾏﾙｼｮﾝ模様塗料塗り（ＥＰ－Ｔ）

塗りの種別 ・ Ａ種 ※ Ｂ種 (18.10.2)(表18.10.1)

12. ｳﾚﾀﾝ樹脂ﾜﾆｽ塗り（ＵＣ）

塗りの種別 ・ Ａ種 ※ Ｂ種 (18.11.2)(表18.11.1)

⑬木材保護塗料塗り（ＷＰ）

塗りの種別 ○ Ａ種 ○Ｂ種 (18.13.2)(表18.13.1)

14. ﾏｽﾃｯｸ塗材塗り

塗りの種別 ・ Ａ種 ・ Ｂ種 (18.14.2)(表18.14.1)

15. 床用塗料塗り

材質 ウレタン樹脂系塗料（ ※ 標準色 ・ ）

仕上種別 ※ 平滑仕上げ ○ 防滑仕上げ

塗布量 プライマー塗りの上、主剤2回塗りとし、総塗布量は0.5kg/㎡以上とする

16. 防塵用塗料塗り

材質 水性アクリル系樹脂塗料（ ※ 標準色 ・ ）

仕上種別 コーティング（ローラー刷毛塗り）

塗布量 主剤2回塗りとし、総塗布量は0.25kg/㎡以上とする

19 内装工事

①接 着 剤

壁紙施工用でん粉系接着剤、ユリア樹脂等を用いた接着剤のホルムアルデヒド放散量

※ 規制対象外 ・ 第三種 (19.2.2)(19.3.3)(19.8.2)

※ 接着剤に含まれる可塑剤は、難揮発性のものとする

②ビニル床シート張り

(19.2.2)

種 類	記 号	色 柄	厚さ (mm)
※ 発泡層のないもの	※ ＮＣ ・	※ 無地 ○ マーブル柄	※ 2.0
・ 発泡層のあるもの		※ 柄物 ・ 無地	
・			
・			

工法 ※ 熱溶接工法 ・ 突付け（施工箇所： ） (19.2.3)

3. ビニル床タイル張り

(19.2.2)

種 類	記 号	厚さ (mm)	備 考
※ コンポジションビニル床タイル（半硬質）	ＣＴ	※ 2.0	
・ コンポジションビニル床タイル（軟 質）	ＣＴＳ	・	
・ ホモジニアスビニル床タイル	ＨＴ	・	
・			

4. 帯電防止床ﾀｲﾙ張り

(19.2.2)

種 類	厚さ(mm)	性 能
・ コンポジションビニル床タイル	※ 2.0 ・	体積抵抗値（JIS K 6911による）1.0×10^{9}Ω
・ ホモジニアスビニル床タイル	※ 4.0又は4.5	以下、又は漏えい抵抗値（JIS A 1454による）
・	・	1.0×10^{10}Ω未満

⑤ﾌﾛｱﾄ幅木

高さ（mm） ○ 60 ※ 75 ・ 100 ・ 330（階段ささら） (19.2.2)

6. ｶｰﾍﾟｯﾄ敷き

・ 織じゅうたん (19.3.3)(19.3.4)(表19.3.1)(表19.3.2)

種別	パイル形状	帯電性	色柄等	備考
・ Ａ種	・ カットパイル	人体帯電圧	※ 単一色（無地）	
・ Ｂ種	・ ループパイル	※ 3kV以下	・ 柄物（標準品）	
・ Ｃ種	・ カット、ループパイル併用	・	・	

・ タフテッドカーペット (19.3.3)(19.3.4)(表19.3.2)

パイル形状	パイル長(mm)	工法	帯電性
・ カットパイル	※ 5～7 ・	※ 全面接着工法	人体帯電圧
・ ループパイル	※ 4～6 ・	・ グリッパー工法	※ 3kV以下
・ カット、ループ併用	・		・

○ タイルカーペット (19.3.3)(表19.3.2)

パイル形状	種類	種類	総厚さ(mm)	備考
※ ループパイル	※ 第一種	※ 500×500	※ 6.5	
・ カットパイル	・ 第二種	・	・	
・ カット、ループ併用				

帯電性 ※ 人体帯電圧3kV以下（ﾌﾘｰｱｸｾｽﾌﾛｱｰ敷設範囲）

・

⑦合成樹脂塗床

(19.4.2)(19.4.3)(表19.4.1～表19.4.7)

種 別	仕 上 げ の 種 類
・ 弾性ｳﾚﾀﾝ樹脂系塗床材	※ 平滑仕上げ ・ 防滑仕上げ ・ つや消し仕上げ
・ ｴﾎﾟｷｼ樹脂系塗床材 ・ 水性系塗床材	※ 薄膜流し展べ仕上げ ○ 厚膜流し展べ仕上げ（ ※ 平滑 ○ 防滑） ・ 樹脂モルタル仕上げ（ ※ 平滑 ・ 防滑） ・ 防滑仕上げ

ユリア樹脂等を用いた塗料のホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 ・第三種

⑧ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ張り

(19.5.2～19.5.7)(表19.5.1～表19.5.4)

種 別	樹 種	工 法	仕上塗料等	間伐材等の適用
単層 ・ ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞﾎﾞｰﾄﾞ ・ ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞﾌﾞﾛｯｸ ・ ﾓｻﾞｲｸﾊﾟｰｹｯﾄ	※ なら ・ ひのき	・ ﾓﾙﾀﾙ埋込み工法 ・ 釘留め工法（Ａ種） ・ 釘留め工法（Ｂ種） ※ 釘留め工法（Ｃ種） ・ 接着工法	※ ｳﾚﾀﾝ樹脂ﾜﾆｽ塗り ・ ｵｲﾙｽﾃｲﾝ塗り のうえﾜｯｸｽ塗り ・ 生地のまま ﾜｯｸｽ塗り ・ 無塗装	・
複合 ・ 複合1種ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ ・ 複合2種ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ ・ 複合3種ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ				
				・
				・

複合ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞの化粧加工の方法は、天然木化粧とする。 (19.5.2)

ホルムアルデヒト放散量 ※ 規制対象外 ・ 第三種

・ ﾓﾙﾀﾙ埋込み工法のﾌﾛｰﾘﾝｸﾞﾌﾞﾛｯｸの厚さ （ mm） (19.5.4)

・ ﾓﾙﾀﾙ埋込み工法のﾌﾛｰﾘﾝｸﾞﾌﾞﾛｯｸの大きさ （ × mm）

・ 接着工法のﾓｻﾞｲｸﾊﾟｰｹｯﾄの厚さ （ mm） (19.5.6)

・ 接着工法のﾓｻﾞｲｸﾊﾟｰｹｯﾄの大きさ （ × mm）

接着工法のﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ裏面の緩衝剤 ※ 合成樹脂発泡ｼｰﾄ ・ (19.5.6)

9. 畳敷き

(19.6.2)(表19.6.1)

下地の種類	畳の種別	備 考
標仕表12.5.1による床組	※ Ｂ種 ・	
ポリスチレンフォーム床下地	※ Ｃ種 ・	

畳表及び畳床は揮発生有機化合物含有量が少ないものとする。

⑩ポリスチレンフォーム床下地材

ノンフロンのもの

畳下地 厚さ(mm) ※ ４０ ・ ６５ ・ ８０ （不燃）

フローリング類 厚さ(mm) ※ ８０ ・ ９５ （不燃）

⑪せっこうボードその他ボード張り

(19.7.2)(表19.7.1)

種 類	JISの記号	厚 さ（mm）、規格等
・ 硬質木毛セメント板	HM	・ 15 ・ 20 ・ 25 ・
・ 普通木毛セメント板	NM	・ 15 ・ 20 ・ 25 ・
・ 硬質木片セメント板	NF	・ 15 ・ 20 ・ 25 ・
○ けい酸カルシウム板	0.8FK	ﾀｲﾌﾟ２（無石綿）（ ○ 6 ・ 8 ・ ）
・ ロックウール化粧吸音板（内部用）	DR	※ ﾌﾗｯﾄﾀｲﾌﾟ（ ※ 9（不燃） ・ 12 ・ ）
・ ロックウール化粧吸音板（外部用）		※ ﾌﾗｯﾄﾀｲﾌﾟ（ ※ 9（不燃） ・ 12 ・ ） ・ 凹凸ﾀｲﾌﾟ（ ※ 12（不燃） ・ 15 ・ 19 ・ ）
○ せっこうボード	GB-R	○ 9.5（ ・ 不燃 ○ 準不燃） ○ 12.5（不燃）
・ 不燃積層せっこうボード	GB-NC	9.5（不燃） 化粧無（下地張り用） 化粧有（トラバーチン模様）
○ シージングせっこうボード	GB-S	○ 2.5（不燃）・12.5（準不燃） ・9.5（準不燃）
・ 強化せっこうボード	TSH	・ 9.5（不燃）
・ せっこうラスボード	GB-L	9.5
・ 化粧せっこうボード	GB-D	・9.5（ ※ 準不燃 ・ 不燃）
・ 化粧せっこうボード（木目）		12.5（不燃） 幅440程度 模様（ ※ 柾目 ・ 板目）専用下地材付き
○ 普通合板（難燃処理）		○ 生地、透明塗料塗り（ラワン合板程度） ・ 不透明塗料塗り（しな合板程度）
・ メラミン樹脂化粧板		JIS K6903による 厚さ1.2
・ ﾐﾃﾞｨｱﾑﾃﾞﾝｼﾃｨﾌｧｲﾊﾞｰﾎﾞｰﾄﾞ	MDF	・ 素地MDF(RS) ・ 化粧MDF(・DV ・DO ・PC) ・ 3 ・ 7 ・ 9 ・ 12
・ 単板張りパーティクルボード		・ 無研磨板VN ・ 研磨板VS ・ 10 ・ 12 ・ 15 ・ 18
・ ハードボード（素地）	HB	・ 素地 ・ RN-HB ・ RS-HB ・ 2.5 ・ 3.5 ・ 5 ・ 7
・ インシュレーションボード	IB	・ T-IB ・ A-IB ・ S-IB ・ 9 ・ 12 ・ 15 ・ 18

合板類、繊維板及びパーティクルボードのホルムアルデヒド放散量

※ 規制対象外 ・ 第三種

軽量鉄骨下地ボード遮音壁の遮音シール材 (19.7.2)(表9.6.1)

※ 適用する（ ・ シーリング材 ・ ジョイントコンパウンド）

・適用しない

せっこうボードの目地工法 (19.7.3)(表9.7.5)

目 地 工 法 の 種 類	せっこうボードのエッジの種類
・ 継目処理工法	※ テーパーエッジ ・ ベベルエッジ ・ スクエアエッジ
○ 突付け工法	・ テーパーエッジ ※ ベベルエッジ ・ スクエアエッジ
・ 目透し工法	・ テーパーエッジ ※ ベベルエッジ ・ スクエアエッジ

12. 吸音材

(表19.7.1)

種 類	JISの記号	厚 さ （mm）
・ ロックウール吸音ボード１号	RW-B	※ 25 ・
※ グラスウール吸音ボード３２Ｋ	GW-B	※ 25 ・

⑬壁紙張り

(19.8.2)

施 工 箇 所	壁 紙 の 種 類 紙	繊維(織物)	ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ(ビニル)	その他(化学繊維)	無機質	防火性能の級別	備考
壁	・	・	○	・	・	※ 不燃 ・ 準不燃 ・ 難燃	
天井	・	・	○	・	・	※ 不燃 ・ 準不燃 ・ 難燃	
	・	・	・	・	・	※ 不燃 ・ 準不燃 ・ 難燃	
	・	・	・	・	・	※ 不燃 ・ 準不燃 ・ 難燃	
	・	・	・	・	・	※ 不燃 ・ 準不燃 ・ 難燃	
	・	・	・	・	・	※ 不燃 ・ 準不燃 ・ 難燃	

素地ごしらえ (表18.2.4)(表18.2.7)

モルタル面、プラスター面 ※ Ｂ種 ・ Ａ種（施工箇所： ）

せっこうボート面 ※ Ｂ種 ・ Ａ種（施工箇所： ）

壁紙のホルムアルデヒド放散量 (19.8.2)

※ 規制対象外 ・ 第三種

⑭断熱材

(19.9.2)(19.9.3)

種 類	施 工 箇 所	厚さ(mm)	品 質 等
○ 押出法ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ保温板	※ ２種ｂ ・	※ 一般部 ・ 高基礎、ﾋﾟｯﾄ部分	※ 50 ・ 25	ノンフロンのもの
	※ ３種ｂ （ｽｷﾝ層付）	・ 接地部分 ・	※ 25 ○ 20	
・ ﾌｪﾉｰﾙﾌｫｰﾑ保温板	※ Ａ種	・	ノンフロンのもの	
○ 現場発泡断熱材（吹付硬質ｳﾚﾀﾝﾌｫｰﾑ）	※ Ａ種１ ○ Ａ種1H	※ 断熱材補修部分 ・ 一般部 ・	ノンフロンのもの ※ 40 ○ 外壁	※ 難燃性 土間一部
・ 断熱材兼用型枠	・ 木質系 ・ ｺﾝｸﾘｰﾄ系 ・ ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ系	※壁（図示の範囲） ・ 製造所 建設技術評価「建築物の断熱材兼用型枠工法の開発」において、評価を取得したもの。	※40以下 ・	断熱抵抗＝厚さ／熱伝導率＝0.676以上（㎡･K／W）

ﾛｯｸｳｰﾙ、ｸﾞﾗｽｳｰﾙ、ﾌｪﾉｰﾙﾎｰﾑ、ﾕﾘｱ樹脂又はﾊﾛﾝ樹脂を使用した断熱材のﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量

※ 規制対象外 ・ 第三種

○ 高性能ｸﾞﾗｽｳｰﾙ 厚100mm・厚155mm、熱伝導率0.038W/m・K 天井

15. 浴室天井

市販品

材 質	表面仕上げ	性 能	幅 (mm)	備 考
※ ｱﾙﾐﾆｳﾑ製	※ 焼付け塗装品 ・ アルマイト処理品	準不燃品	※ 200 ・ 100	廻り縁は縁付きとし、製造所の標準品とする。
・ 硬質塩ビ製	※ 塗装品 ・ 木目調		※ 300 ・ 100	

⑯単板羽目板張り

材種 ※ 信州産唐松（信州木材認証製品又は同等品）

・ 信州産杉 （信州木材認証製品又は同等品）

・

20 ユニット及びその他工事

1. フリーアクセスフロア

(20.2.2)

施 工 箇 所	構 法	仕上り高 (mm)	適用地震時水平力	耐荷重性能	表面仕上げ材
	・ ﾊﾟﾈﾙ構法 ・ 溝構法	・ ※ 50未満	・ 1.0Ｇ ・ 0.6Ｇ	・ 3,000Ｎ ・ 5,000Ｎ	・ 帯電防止ﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ ・ ﾀｲﾙｶｰﾍﾟｯﾄ
	・ ﾊﾟﾈﾙ構法 ・ 溝構法	・ ※ 50未満	・ 1.0Ｇ ・ 0.6Ｇ	・ 3,000Ｎ ・ 5,000Ｎ	・ 帯電防止ﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ ・ ﾀｲﾙｶｰﾍﾟｯﾄ
	・ ﾊﾟﾈﾙ構法 ・ 溝構法	・ ※ 50未満	・ 1.0Ｇ ・ 0.6Ｇ	・ 3,000Ｎ ・ 5,000Ｎ	・ 帯電防止ﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ ・ ﾀｲﾙｶｰﾍﾟｯﾄ

耐震性能5,000N、高さ300mm以上については、平成元年建設省告示第1322号「耐震型ﾌﾘｰｱｸｾｽﾌﾛｱの開発」の建設技術評価において評価を取得したもの又は同等品とする。

表面仕上げ材の品質・規格等は、19章内装工事による

スロープ及びボーダー ※ 製造所の標準仕様 ・ 図示

コンセント等の取付け対応 ※ 製造所の標準仕様（コンセント本体は別途設備工事）

コンセントの箇所数は図示

配線用取り出しパネル 配線取り出し開口： ﾊﾟﾈﾙ１枚につき40mm×80mm程度の開口１ヶ所以上

ﾌﾘｰｱｸｾｽﾌﾛｱ全体面積に対する設置割合 ※ 20～30% ・

空調用吹き出しパネル ※ 無し

・ 有り （※ 固定式 ・ 可変式 ：施工箇所は図示）

2. 可動間仕切

(20.2.3)

構 造 形 式	ﾊﾟﾈﾙ部の総厚さ(mm)	構 成 基 材	表 面 材 種 厚さ (mm)	仕 上 げ	遮音性能	防火性能
・ ﾊﾟﾈﾙ式 ・ ｽﾀｯﾄﾞ式 ・ ｽﾀｯﾄﾞﾊﾟﾈﾙ式	・	・	※ 鋼板 （※ 0.6 ・ 0.8）	※ ﾒﾗﾐﾝ樹脂又はｱｸﾘﾙ樹脂焼付 ・	・ 有 （ ） ・ 無	・ 有 ・ 無

3. 移動式間仕切

(20.2.4)

遮音性能	厚さ(mm)	表面材	表面仕上げ	パネルの操作方法	圧接装置
・ 一般タイプ		※ 鋼板 ・	・ 焼付け塗装 ・ 壁紙張り	・ 手動式 ・ 電動式 ・ 部分電動式	・ ﾊﾝﾄﾞﾙ式 ・
・ 遮音タイプ （ dB以上(500Hz)）		※ 鋼板 ・	・ 焼付け塗装 ・ 壁紙張り	・ 手動式 ・ 電動式 ・ 部分電動式	・ ﾊﾝﾄﾞﾙ式 ・

表面仕上げの壁紙張りの品質は19章内装工事による

遮音性能はJIS A 6512の遮音試験に準拠する

ﾊﾝｶﾞｰﾚｰﾙ取付け下地の補強方法（ ）

ﾊﾝｶﾞｰﾚｰﾙの固定の際のあと施工ｱﾝｶｰ （種類： 材質： 寸法： ）

4. トイレブース

表面仕上げ材 ※ メラミン樹脂化粧板（標準色 アルミ製コーナーエッジ付き） (20.2.5)

○ ポリエステル樹脂系化粧板

構成基材 ・ ＭＤＦ（ mm） ・ ﾍﾟｰﾊﾟｰｺｱﾊﾟｰﾃｨｸﾙﾎﾞｰﾄﾞ(9.0mm) ○ ﾌﾗｯｼｭ

足形状 ※ 幅木型 ・ 足金物型

5. 階段滑止め

材種 ＳＵＳ３０４ (20.2.6)

形状 ビニルタイヤ入り

両端フラットエンド ・ 無 ※ 有（ ・ ＳＵＳ３０４ ※ ビニル製）

幅（mm） 約３５

取付け工法 ※ 接着工法 ・ 埋込み工法

6. 階段手すり

※ 集成材クリアラッカー仕上げ（ ・ 市販品 径 mm ・ mm）

・ ビニル製ハンドレール（幅約 mm）

7. 黒板及びホワイトボード

(20.2.8)

	種 類	寸法 (mm)	色 彩	備 考
・ 黒板	※ 焼付け		※ 緑 ・ 黒 ※ 緑 ・ 黒	※ 平面 ・ 曲面 ・ ｽｸﾘｰﾝ付引分
・ ﾎﾜｲﾄﾎﾞｰﾄﾞ	※ ほうろう		※ 白 ※ 白	※ 平面 ・ 曲面 ・ ｽｸﾘｰﾝ付引分

8. 鏡

寸法(mm) ・ 図示 (20.2.9)

厚さ(mm) ※ 5

9. 表示

衝突防止表示 ※ 図示（市販品 ※ ステンレス製 径約３０mm ・ ） (20.2.10)

（ ・ 両面 ・ 片面）

・ 無し

表示標識 案内用図記号についてはJIS Z 8210 による

誘導標識、非常用進入口表示等は市販品とし、その他は共通詳細図による。 ○ 室名札

一級建築士事務所登録(伊那) J 第2X201号

株式会社 田原建築設計事務所

〒396-0022 伊那市御園1223-3 TEL0265-72-7171

一級建築士 登録第２７９７７５号

田 原 健 一

伊 那 市 建 設 部

工 事 名	令和７年度 市営住宅若宮団地リフォーム 工事（195～200号）	年月日 R 07・04
図面名称	建築工事特記仕様書（３）	図面番号 A－03

2012.06改訂

20 ユニット及びその他工事

10. 煙突ﾗｲﾆﾝｸﾞ

・ 煙突用成形ﾗｲﾆﾝｸﾞ材 (20.2.11)
最高使用温度 ・ 400℃ ・ 650℃
・ ｷｬｽﾀﾌﾞﾙ耐火材
工法 ※ こて押さえ (20.2.11)
最高使用温度 ※ 400℃

11. ブラインド (20.2.12)

形式	種類	スラットの材質	スラットの幅(mm)
※ 横型	※ ギア式 ・ コード式 ・ 操作棒式	※ アルミニウム合金製 ・	※ 25 ・
・ 縦型	・ １本操作コード ※ ２本操作コード	・ アルミスラット ・ クロススラット	・ 80 ・ 100

12. ロールスクリーン

防炎性能 ※ 有り ・ 無し (20.2.13)

操作方式	幅(mm)	高さ(mm)	材種	品質	備考

13. カーテン (20.2.14)

施工箇所	形式		装置			ひだの種類	性能	備考
	片引	引分	電動	紐引	手引			
休憩室		○						

⑭ カーテンレール

材種 ※ アルミニウム製 ⊙ ステンレス製 (20.2.14)
形式 ・ 片引き ⊙ 引分け（ ※ 暗幕用は300mm以上の召合せの重掛けとする）

15. ブラインドボックス及びカーテンボックス

・ 市販品（アルミニウム製 押出し型材）
溝幅×深さ（mm） ・ 90×150 ※ 120×80 ・ 120×150 ・ 150×80 ・
色彩 ※ Ｂ－１ ・ Ｂ－２（ ※ ブラウン系 ・ ブラック ・ ステンカラー）
・ 図示

16. 耐震スリット

方向	タイプ	耐火性能	防水性能
・ 垂直方向	※ 完全（全貫通型）スリット	・ 耐火型	・ 有り
・ 水平方向		・ 非耐火型	・ 無し

目地	内壁（幅×深さ）	外壁（幅×深さ）
目地材	シーリング材（見え掛かりのみ）	シーリング材（内外とも）
目地寸法（mm）	※ ２０×１０ ・	※ ２０×１０ ・

17. 止水板

形状 ・ 差込式 ・ 据置式 ・ 壁張り式
寸法

⑱ 天井点検口

材質 アルミニウム製（ ※ 額縁タイプ ・ 目地タイプ）

⑲ 床点検口

材質 アルミニウム製 受け枠（ ※ アルミ製 ・ ステンレス製）

20. 鋼製書架及び物品棚

種類	規格等	JISによる種類
・ 鋼製書架	JISS 1039の規格による	・ 1種 ・ 2種 ・ 3種
・ 鋼製物品棚		・ 4種 ・ 5種 ・ 6種 ・

㉑ 鍵箱

市販品
形式 ・ 30組用 ・ 60組用 ・ 120組用 ・

22. 靴ふきマット

市販品
材質 ・ 塩化ビニル製（コイル状 ステンレス製受枠） ・ ビニル製（ステンレス製受枠）
・ 硬質アルミニウム製（受枠とも） ・ ステンレス製（受枠とも）

23. 流し台ユニット

種類	寸法（Ｌ＝mm）	適用内容	規格・品質等
・ 流し台	※ 1200 ・ 1500 ・ 1800	ﾄﾗｯﾌﾟ付き	※ 優良住宅部品
・ コンロ台	※ 600 ・ 750 ・ 1000	ﾊﾞｯｸｶﾞｰﾄﾞ ※ 有り	⊙ 市販品
・ つり戸棚	※ 1200 ・ 900 ・ 700		
・ 水切り棚	※ 1200 ・ 900 ・	ｽﾃﾝﾚｽ製 ※ １段式	※ 市販品
・ ﾐﾆｷｯﾁﾝ			

24. 屋内掲示板

枠の材質 ※ アルミニウム製 ・
表面の材質 ※ 塩ビ発泡シート張り ・

25. 洗面カウンター

材種 ・ メラミン樹脂化粧板張り（芯材：集成材） ・ 人工大理石（品質 ※ 図示）
奥行き（mm） ・ 約450 ・ 約600

26. 防煙垂れ壁

・ 固定式

材質	厚さ(mm)	高さ(mm)	備考
※ 網入り磨板ガラス ・ 線入り磨板ガラス	※ 6.8 ・	※ 500 ・	アルミ製枠付き

・ 可動式

種類	材質	高さ(mm)	備考
・ 垂直降下式（巻取り型）	※ 不燃布（不燃認定品）	※ 500 ・ 800 ・	ガイドレール ※ 固定式（壁埋込型） ・ 可動式（天井収納型）
・ 回転降下式	鋼板製又はアルミ製	※ 500 ・ 800 ・	表面仕上げ ※ 天井材張り ・

降下機構 煙感知器連動及び手動開放装置（埋込型）

27. 誘導用及び注意喚起用床材

ﾌﾞﾛｯｸﾊﾟﾀｰﾝはJIS T 9251による (19.2.2)
色彩は黄色を原則とする
屋内 ※ 塩化ビニル製 ・ 磁器又はせっ器質タイル（ ※ 300 ・ ）
・ レジンコンクリート製
屋外 ※ レジンコンクリート製 ・ 磁器又はせっ器質タイル（ ※ 300 ・ ）

28. 旗竿

材質 ※ アルミニウム合金製
形式 ※ テーパー型 ・ 同一断面型
地上高さ（m） ・ 6 ・ 8 ・ 10 ・ 12
操作方法 ※ ハンドル式 ・ ロープ式
固定方法 ・ 埋込式 ・ ベース式 ・バンド式

29. 旗竿受金物

材種 SUS304

30. フェンス

・ エキスパンドフェンス（ ※ 樹脂塗装 ・ 溶融亜鉛めっき）
・ メッシュフェンス （ ※ 樹脂塗装 ・ ）

31. 屋外掲示板

照明器具 ※ 有り ・ 無し
施錠 ※ 有り ・ 無し

32. 車止め支柱

ステンレス製（上下式鎖内蔵型） 径114.3mm t＝2.5mm H＝GL＋700mm
※ スプリング付き ・ スプリング無し

33. 収納家具

材質 ※ 図示 ・
形状・寸法 ※ 図示
ホルムアルデヒド放出量 ※ 規制対象外 ・ 第三種

34. エキスパンション・ジョイント金物

材質 ⊙ アルミ ・ ステンレス
クリアランス ・ 50 ⊙ 100 ・ 150 ・
耐火性能 ・ 有り（ ） ⊙ 無し
防水型 ※ 適用する ・ 適用しない

21 排水工事

1. 排水管

排水管用材料 (21.2.1)(表21.2.1)(21.3.3)

材種	管の種類	管形状（接合方法）
※ 遠心力鉄筋コンクリート管	※ 外圧管（ ※ １種 ・ ２種）	Ｂ形（ゴム接合）
・ 硬質塩化ビニル管	※ ＶＰ ・ ＶＵ	
・ ﾘｻｲｸﾙ硬質ﾎﾟﾘ塩化ﾋﾞﾆﾙ発泡三層管	・ ＲＳ－ＶＵ ・ ＲＳ－ＶＰ	

車道部の排水管の敷設 ※ 図示 (21.3.1)(21.3.3)
・ 砂基礎（地業厚さ20cm以上 材料 山砂の類）

② 排水桝及びふた

鋳鉄製マンホールふた (21.2.2)

種類		適用荷重	
・ 水封形	・ 密閉形（テーパー・パッキン式）	・ T－2用	・ T-6用
・ 簡易気密形（パッキン式）	・ 中蓋付密閉形	・ T-14用	・ T-20用

グレーチングふた (21.2.2)

材質	形式	種類	適用荷重	メンバーピッチ	上面形状
⊙ 鋼製 ・ ステンレス製	※ 受枠付き ・	⊙ 溝ふた用 ・ 桝ふた用	・ 歩行用 ・ Ｔ－2用	※ 細目	※ 凹凸形
	ボルト固定 ※ 無し ・ 図示	・ 嵩上げ用 ・ Ｕ字溝用	・ Ｔ－6用 ・ Ｔ－14用 ・ Ｔ－20用	※ 普通目 ・ 細目	※ 平形 ・ 凹凸形

③ 浸透管及び浸透桝

製造所 ｺﾝｸﾘｰﾄ2次製品450角

4. その他の材料

地業の材料 ※ 標仕4.6.2による (21.2.3)
コンクリート発注強度 ※ 18N/mm² ・ (21.2.3)
鉄筋の種別 ※ SD295A ・ (21.2.3)(表5.2.1)
埋戻し土 ※ B種 ・ (21.2.3)(表3.2.1)

22 舗装工事

① 盛土に用いる材料

・ A種 ※ B種 ・ C種 ・ D種 (22.2.3)(表3.2.1)

2. 遮断層及び凍上抑制層の材料

・ 遮断層 ※ 川砂、海砂又は良質な山砂 ・ (22.2.2)(22.2.3)
・ 凍上抑制層 ※ 再生ｸﾗｯｼｬﾗﾝ ・ ｸﾗｯｼｬﾗﾝ ・ 切り込み砂利 ・ 砂
厚さは図示

3. 路床安定処理

※ 添加材料による安定処理 (22.2.2)(22.2.3)(表22.2.2)
種類 ・ 普通ポルトランドセメント ・ フライアッシュセメントＢ種
・ 生石灰（ ） ・ 消石灰（ ）
添加量 kg/m³（目標ＣＢＲ ※ 5以上 ・ ）

4. 路床土の支持力比試験

※ 行う （ ※ 乱した土 ・ 乱さない土） (22.2.5)

5. 路床締固め度の試験

※ 行う (22.2.5)

6. 砂の粒度試験

※ 行う

⑦ 路盤材料

※再生クラッシャラン（ＲＣ－４０） (22.3.3)
・クラッシャラン鉄鋼スラグ（ＣＳ－４０）
・クラッシャラン（Ｃ－４０）又はクラッシャランスラグ（ＣＳ－４０）
透水性アスファルト舗装にもちいる場合は透水性の高いもの

8. 路盤の締固め度の試験

※行う

9. アスファルト舗装

車道部の基層 ※ 無 ・ 有（厚さ ※ 50 ・ 40 ） (22.4.2)(表22.4.1)
アスファルト ※ 再生アスファルト ・ ストレートアスファルト (22.4.3)
加熱アスファルト混合物の種類 (22.4.4)(表22.4.6)

区分	※ 一般地域	・ 寒冷地域
表層	※ 密粒度アスファルト混合物（１３） ・ 細粒度アスファルト混合物（１３）	※ 密粒度アスファルト混合物（１３Ｆ） ・ 細粒度ギャップアスファルト混合物（１３Ｆ）
基層	・ 粗粒度アスファルト混合物（２０）	

シールコート ※ 行わない ・ 行う（施工範囲 ） (22.4.5)
アスファルト混合物の抽出試験 ※ 行わない ・ 行う (22.4.6)

10. コンクリート舗装

早強セメント ※ 使用しない ・ 使用する (22.5.3)
注入目地材料 ※ 低弾性タイプ ・ 高弾性タイプ (22.5.3)(表22.5.3)
溶接金網 ※ 有り ・ 無し (22.5.3)(22.5.4)
厚さ試験 ※ 行わない ・ 行う (22.5.6)

11. カラー舗装

(22.6.2)(22.6.3)(表22.6.1)(表22.6.2)

種類	材料	区分	車道部の基層
※ 加熱系	・ 有色骨材(焼成) ・ 着色骨材(樹脂被覆) ・ 自然石	・ 車道	※ 無 ・ 有
・ 常温系	・	・ 歩道	

12. 透水性アスファルト舗装

アスファルト混合物 (22.7.3)(表22.7.1)
※ ポリマー改質アスファルトⅠ型 ・ ポリマー改質アスファルトⅡ型
アスファルト混合物の抽出試験 ※ 行わない ・ 行う (22.7.6)

13. 排水性アスファルト舗装

アスファルト混合物 (22.8.3)(表22.7.1)
・ ポリマー改質アスファルトⅠ型 ※ ポリマー改質アスファルトⅡ型
タックコート用ゴム入りアスファルト乳剤の種類 (22.8.3)(表22.8.2)

適用時期	種類
下記以外	ＰＫＲ－Ｔ１
冬期	ＰＫＲ－Ｔ２

アスファルト混合物の抽出試験 ※ 行わない ・ 行う (22.8.6)

14. ブロック系舗装

・ コンクリート平板舗装（コンクリート平板は、JIS A 5371の平板） (22.9.2)(22.9.3)

種類	寸法（mm）	厚さ（mm）	目地材
※ 普通平板（Ｎ）	※ 300角	※ ６０	※ 砂
・ 透水平板（Ｐ）	・		・ モルタル

・ インターロッキングブロック舗装 (22.9.2)(22.9.3)

種類	厚さ（mm）	色彩及び表面加工等
※ 普通ブロック（Ｎ）	車道部 ※ ８０ ・	※ 標準品
・ 透水性ブロック（Ｐ）	歩道部 ※ ６０ ・	・
・ 誘導、注意喚起用ブロック		誘導、注意喚起用は黄色系とする
・ 植生ブロック（Ｖ）	※ ８０ ・ １００	

インターロッキングブロック（JIS A 5371）

項目		品質・性能
材料	セメント	JIS R 5210 ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ、JIS R 5211 高炉ｾﾒﾝﾄ、JIS R 5212 ｼﾘｶｾﾒﾝﾄ、JIS R 5213 ﾌﾗｲｱｯｼｭｾﾒﾝﾄ、白色ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄとする。
	骨材	清浄、強硬、耐久性で、適当な粒度をもち、ごみ、泥、有機物、薄い石片、細長の石片を含んでいない。
	混和材料	ｲﾝﾀｰﾛｯｷﾝｸﾞﾌﾞﾛｯｸの品質に有害な影響を及ぼさない。
	着色材料	無機質材料を用い、耐候性に優れ、かつｲﾝﾀｰﾛｯｷﾝｸﾞﾌﾞﾛｯｸの品質及び環境上有害な影響を及ぼさない。
外観		使用上有害なきず、ひびわれ、欠け、変形等がない。

寸法許容差（mm）	長さ	幅	厚さ
普通タイプ	±３	±３	±３
透水性タイプ	±３	±３	＋５～－１
植生用タイプ	±３	±３	±３

項目	タイプ	性能
曲げ強度（Ｎ／mm²）	普通タイプ	５．０以上
	透水性タイプ	３．０以上
	植生用タイプ	４．０以上
透水係数（cm／sec）	透水性タイプ	１×１０⁻² 以上
圧縮強度（Ｎ／mm²）	普通タイプ	３２．０以上
	透水性タイプ	１７．０以上

・ 舗石舗装（石材は、JIS A 5003の2等品） (22.9.2)(22.9.3)

種類	厚さ（mm）	施工方法	基層
※ 小舗石（花こう岩）	※ ８０～１００ ・	※ うろこ張り	※ ｺﾝｸﾘｰﾄ舗装
・	・	・	・ ｱｽﾌｧﾙﾄ舗装

⑮ 砂利敷き

⊙ Ａ種 ・ Ｂ種 (22.11.2)(22.11.3)

16. 路面標示用塗料

JIS K 5665（路面標示用塗料）による

種類	施工	適用	色	幅(mm)	塗布厚さ(mm)	揮発性有機溶剤の含有率
・ 1種	常温	液状	※ 白	※ 150	※ 1.0	塗料総質量に対して5%以下
・ 2種	加熱		・	・	・	
※ 3種1号	溶融	粉体状				

23 植栽工事及び屋上緑化工事

1. 樹木の植栽基盤整備

芝及び地被類 (23.2.2)(23.2.3)(表23.2.1)(表23.2.2)

適用	有効土層の厚さ(cm)	工法	整備範囲
※ 行う ・ 行わない	※ 20 ・	※ B種 ・	※ 植栽範囲 ・ 図示

樹木 (23.2.2)(23.2.3)(表23.2.1)(表23.2.2)

樹木の樹高	有効土層の厚さ（cm）	工法	整備範囲
・ 12以上	※ 100 ・ 120 ・ 150	※ Ａ種	・ 葉張りの範囲
・ 7以上～12未満	※ 80 ・ 100	・ Ｂ種	ただし、低木は植栽範囲
・ 3以上～7未満	※ 60 ・ 80	・ Ｃ種	・ 図示
・ 3未満	※ 50	・ Ｄ種	

工法Ｄ種以外の工法で、現状地盤高と計画地盤高が同一でない場合は、計画地盤高からを有効土層とする。
ただし、計画地盤高が現状地盤高より高い場合は、計画地盤高まで植え込み用土で盛土を行う。

2. 植込み用土

※ 現場発生土の良質土 ・ 客土（ ※ 畑土 ・ 黒土） (23.3.2)

3. 土壌改良材

※ 適用する (23.2.3)(23.2.4)
施工箇所 ※ 植栽範囲 ・ 図示
バーク堆肥
有機物の含有量（乾物）：70%以上
炭素窒素比（C/N比）：35以下 窒素全量（現物）：0.5%以上
陽ｲｵﾝ交換容量（乾物）：70meq/100g以上 リン酸全量（現物）：0.2%以上
pH ：5.5～7.5 アルカリ全量（現物）：0.1%以上
水分 ：55～65%
幼植物試験の結果 ：生育阻害その他の異常を認めない

発酵下水汚泥コンポスト
「金属等を含む産業廃棄物に係る判定基準を定める省令」の別表第一の基準に適合する原料を使用したもので、植害試験の調査の結果、害が認められないものとする。
有機物の含有量（乾物）：35%以上 窒素全量（現物）：0.8%以上
炭素窒素比（C/N比）：20以下 リン酸全量（現物）：1.0%以上
pH ：8.5以下 アルカリ全量（現物）：15%以下
水分 ：50%以下 （ただし、土壌の酸度を矯正する目的で使用する場合はこの限りでない）

4. 支柱材

※ 杉、ひのき又はから松（皮はぎもの、間伐材） ※加圧式防腐処理 (23.3.2)
・ 真竹（良質な2年生以上）

5. 幹巻き用材料

※ 幹巻き用テープ ・ わら及びこも (23.3.2)

6. 芝張り

種類 ※ こうらい芝 ・ 野芝 (23.4.2)
工法 ・ 目地張り ・ べた張り

7. 枯補償等

新植樹木の枯補償の期間 ※ １年 ・ (23.3.4)
移植樹木の枯損処理の期間 ※ １年 ・ (23.3.6)
芝及び地被類の枯補償の期間 ※ １年 ・ (23.4.7)(23.3.4)

8. 屋上緑化

植栽基盤及び材料 (23.5.2)(23.5.3)
・ 屋上緑化システム
土壌層の厚さ ・ 図示 ・ 管理型
保水・排水層 ・ 軽量骨材（層の厚さ： ） ・ 板状成形品
植込み用土 ※ 改良土 ・ 人工軽量土
樹木の樹種、寸法、株立数、寸法等 ※ 図示 ・

・ 屋上緑化軽量システム
芝及び地被類の樹種並びに種類等 ※ 図示 ・
見切り材、舗装材、水抜き管、マルチング材等 ※ 図示 ・

工法 (23.5.4)
支柱 ・ 設置する （種類 ・ 図示 ・ ）
かん水装置 ・ 設置する （工事区分は図示による）

24 その他

1. 工事現場の環境改善について

工事現場のイメージアップ
・ 仮囲い周辺の美化 ・

地域住民への情報提供
・ 完成予想図の設置 ・ 情報掲示板の設置 ・ パンフレットの作成

地域住民とのコミュニケーション
・ 現場見学会の開催 ・

住民に対する災害防止関係
・ 現場出入口周辺への誘導員の配備 ・

② 不具合の確認

工事しゅん工後3ヶ月、12ヶ月に不具合の確認を行い、その結果を書面で施設担当課長あて報告する。
（施設管理者からの聞き取り調査を含め、調査には必ず施設管理者の立会いを要する。）

③ 設備工事との取合区分

他工事との取合い		建築工事	電気設備工事	機械設備工事
はり、床、壁貫通部	補強	○	・	・
	スリーブ	・	○	○
埋込分電盤、端子盤、ﾌﾟﾙﾎﾞｯｸｽ	補強	○	・	・
	仮枠	・	○	○
軽量鉄骨下地天井、壁ボート類の切込み	補強有りの場合（補強供）	・	・	・
	補強なしの場合	・	・	・
床デッキプレート	切込み	・	・	・
既製間仕切壁の位置ﾎﾞｯｸｽ、及びその取付け		・	・	・
発電機の基礎		・	・	・
配電盤、制御盤等の基礎	屋内	・	・	・
	屋外	・	・	・
自立型テレビアンテナの基礎（屋上）		・	・	・
避雷針の基礎（屋上）		・	・	・
配線ピット及びふた		・	・	・
自動閉鎖装置を取付ける防火戸の切込み補強及びドアチェック、フロアーヒンジ		・	・	・
照明用器具、幹線等の吊りボルト用インサート		・	○	○
別途機器などへの接続（直接に接続するもの）		・	○	○
機器付属の制御盤以降の配管配線（接地等）		・	○	○
機器付属の制御盤への電源供給及び操作回路の渡り配管配線		・	○	・
天井吊り型ＦＣＵ及び全熱交換型換気扇と操作スイッチとの渡り配管配線		・	・	・
煙感知器から連動制御盤を経て防煙ﾀﾞﾝﾊﾟに至る配管配線		・	・	・
小便器用節水装置の制御盤以降の配管配線		・	・	・
自動扉及び電動シャッターなどの制御装置に至る配管配線（一次側のみ）		・	・	・
防油提		・	・	・
天井点検口・床点検口		○	・	・
流し台セット		○	・	・
洗面カウンター		・	・	・
鏡		・	・	○
WC内手摺（ＨＣ・ＷＣのみ）		・	・	○
消火器・消火器ボックス		・	○	・
給気口(ガラリ、レジスター)		・	・	○

一級建築士事務所登録（伊那）Ｊ第2X201号
株式会社 田原建築設計事務所
〒396-0022 伊那市御園1223-3 TEL0265-72-7171
一級建築士 登録第２７９７７５号
田 原 健 一

伊 那 市 建 設 部

工事名	令和７年度 市営住宅若宮団地リフォーム 工事（195～200号）	年月日	R 07・04
図面名称	建築工事特記仕様書（４）	図面番号	Ａ－04

2012.06改訂

令和７年度 市営住宅若宮団地リフォーム建築工事（195～200号）　解体特記仕様書

Ⅰ 解体工事概要

1. 工事場所　伊那市若宮7314番地3ほか

2. 敷地面積（㎡）　㎡

3. 除却対象物　⊙ 建築物　⊙ 工作物　⊙ 建築設備　⊙ 家具等　⊙ 樹木　⊙ その他

除却対象建築物等	構造	階数	梁間（m）	桁行（m）	建築面積（㎡）	延面積（㎡）
195～200号	ﾌﾟﾚｷｬｽﾄ	1			307.01	307.01

Ⅱ 解体工事共通仕様

章	項目	特記事項
A 一般共通事項	1. 適用範囲	(1)本仕様書は伊那市の発注に係る建築物、工作物、建築設備、家具（建築物等に造り付けられたものに限る。）及び樹木等（以下「建築物等」という。）の解体工事に適用する。 (2)本仕様書に規定する事項は以下の定めある場合を除き、請負者の責任において履行すべきものとする。 (3)すべての設計図書は、相互に補完するものとする。ただし、設計図書間に相違がある場合の優先順位は、次の①から④の順番のとおりとし、これにより難い場合は、6.による。 ① 現場説明書及び現場説明に対する質問回答書 ② 本仕様書Ⅲ解体工事特記仕様 ③ 図面 ④ 本仕様
	2. 適用基準	建築解体工事共通仕様書・同解説（国土交通省） 公共建築改修工事標準仕様書（建築、電気、機械設備） 建設副産物適正処理推進要綱(以下「推進要綱」とい。)　平成10年12月1日建設省経建発第333号 工事現場の環境改善及び建設副産物の適正処理実施要領　長野県住宅部制定 建設工事公衆災害防止対策要綱　建築工事編　平成5年1月12日建設省経建発第1号 長野県公共建築工事の手引　長野県住宅部施設課監修 長野県建設工事写真撮影要領　長野県住宅部施設課制定 公共住宅建設工事共通仕様書（公共住宅事業者等連絡協議会編）
	3. 用語の定義	本仕様書において用いる用語の定義は、次のとおりとする。 ①「監督職員」とは、契約書に規定する監督職員をいい、監督員指定通知書により請負者に通知された監督員を総称していう。 ②「請負者等」とは、当該工事請負契約の請負者又は契約書の規定により定められた現場代理人をいう。 ③「監督職員の承諾」とは、請負者等が監督職員に対し書面で申し出た事項について、監督職員が書面をもって了解することをいう。 ④「監督職員と協議」とは、協議事項について、監督職員と請負者等が結論を得るために合議し、その結果を書面に残すことをいう。 ⑤「特記」とは、1．の(3)の①から④に指定された事項をいう。 ⑥「書面」とは、発行年月日が記載され、署名又は捺印された文書をいう。 ⑦「解体工事」とは建築物等の除却及び撤去を目的とする、仮設物設置、取壊し、解体材の分別、保管、収集、運搬、再生、処分、電気・機械設備等の処置及び整地等を総称していう。
	4. 官公庁その他への届出手続等	(1) 解体工事の着手、施工、完成に当たり、関係機関への必要な届出手続等を遅滞なく行う。 (2) 前項に規定する届出手続等を行うに当たっては、届出内容について、あらかじめ監督職員に報告する。
	5. 工事実績情報（工事ｶﾙﾃ）の登録	工事請負額が５００万円以上の工事については、工事実績情報（工事カルテ）の登録をすること。 （ただし工事請負代金額５００万円以上２，５００万円未満の工事については、受注時・訂正時のみ登録するものとする。） 登録する場合は、あらかじめ監督職員の確認を受け、次に示す期間内に(財)日本建設情報総合センター(JACIC)に登録の手続きを行うとともに、登録されたことを証明する資料を監督職員に提出する。 なお、変更時と完成時の間が１０日間に満たない場合は、変更時の提出を省略できるものとする。 ① 工事受注時　契約締結後１０日以内 ② 登録内容の変更時　変更契約締結後１０日以内 ③ 工事完成時　工事完成後１０日以内 （ 連絡先：(財)日本建設情報総合センター　℡03-3505-2973 ）
	6. 疑義に関する協議等	設計図書に定められた内容に疑義が生じたり、現場の納まり又は取合い等の関係で、設計図書によることが困難又は不都合な場合が生じたときは、監督職員と協議する。
	7. 文化財その他の埋蔵物	解体工事の施工に当たり、文化財その他の埋蔵物を発見した場合は、直ちにその状況を監督職員に報告する。その後の措置については、監督職員の指示に従う。また、当該埋蔵物の発見者としての権利は、法律の定めるところにより、発注者が保有する。
	8. 解体材の処理等	(1) 請負業者自ら解体材の処理（分別、保管、収集、運搬、処分の一連の行為をいう。以下同じ。）を行う場合は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」（以下「廃棄物処理法」という。）に基づき、適正に行うこと。 (2) 解体材の処理の一部を下請人に委託するときは、廃棄物処理法に基づく処理を業として許可を取得している者に委託すること。 (3) 解体材の分別を徹底し再利用及び再生資源化に努める。 (4) 解体材の処理は次による。 ① 解体材のうち、発注者に引渡しを要するもの並びに特別管理産業廃棄物の有無及び処理方法は、特記による。 ② 解体材のうち、現場において再利用を図るもの及び再生資源化を図るものは、特記による。 ③ ①の引渡しを要するものと指定されたものは、監督職員の指示を受けた場所に整理のうえ、調書を作成して監督職員に提出する。 ④ ②の再生資源化を図るものと指定されたものは、分別を行い、所定の再生資源化施設等に搬入した後、調書を作成して監督職員に提出する。 ⑤ 構外に搬出すべきものは、「再生資源の利用の促進に関する法律」(以下「リサイクル法」という)、「廃棄物処理法」、その他関係法令によるほか、「推進要綱」に従い適切に処理し、処理状況を調書により監督職員に報告する。
	9. 施工体制台帳及び施工体系図の作成	現場施行体制において、請負者は施工体制台帳を作成し、工事期間中工事現場に備え付けるとともに、監督職員に写しを提出すること。 また、工事現場における施工の分担関係を明示した「施工体系図」を作成し、これを工事関係者及び公衆の見やすい場所に掲示を行うこと。 ※施工体制台帳に記載すべき内容 ・建設業法施行規則　第１４条の２第１項に掲げる事項 ・安全衛生責任者名、安全衛生推進者名、雇用管理責任者名

章	項目	特記事項
B 工事関係図書	1. 計画工程表	(1) 解体工事の着手に先立ち、計画工程表を作成し、監督職員の承諾を受ける。 (2) 計画工程表の内容を変更する必要が生じた場合は、監督職員と協議するとともに、各種工程等に支障がないよう適切な措置を講ずる。 (3) 監督職員の指示を受けた場合は、計画工程表の補足として、週間又は月間工程表、工種別工程表等を作成し、監督職員に提出する。
	2. 施工計画書	解体工事の着手に先立ち、次の内容を記載した施工計画書を作成し、監督職員の承諾を受ける。 ① 施工計画 ア 騒音、振動及び粉塵等の防止対策 イ 除却手順、作業時間、除却工法、使用機械類及び作業人員 ウ 現場組織図（担当者の連絡先電話番号記載） エ 工法及び仮設計画図（施工図、器具図等、使用機械類） オ 作業員名簿（下請契約がある場合は下請業者届として別途作成。また、施工業者においては許可証等の写し及び工事担当者においては資格者証等の写し添付） ② 安全管理計画 ア 騒音、振動及び粉塵等の防止対策 イ 重機・車両災害防止、建落飛散落下防止及び防火対策 ウ 工事関係車両に起因する混雑・交通渋滞の防止対策(周辺道路等も含む。) エ 関係車両通行経路図及び駐車計画図 オ 工事関係車両誘導員の配置計画 カ 緊急連絡組織計画 キ その他監督職員が安全対策上必要と認め指示するもの ③ 解体材処理計画 ア 廃棄物として搬出される解体材の種類、数量及びその処理計画 イ アの廃棄物のうち、建設発生土1,000m³以上若しくはコンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊、建設発生木材、建設汚泥及び建設混合廃棄物の合計が200t以上の場合又は工事規模が1,000万円以上の工事の場合は「リサイクル法」による再生資源利用促進計画書 ウ 収集運搬車の許可証及び許可車両一覧の写し（収集運搬を委託する場合） エ 収集運搬車両の最大積載重量のわかる書類（車検証等） オ 最終処分場の許可証の写し（中間処理にあっては中間処理施設の許可証の写し） カ 最終処分場の案内図（中間処理にあっては中間処理施設の案内図） キ 最終処分場の処理能力あるいは中間処理の再生方法及び処理能力 ク その他監督職員が解体材処理の適正化上必要と認める指示するもの ④ その他の計画 ア 地上及び地下（周辺範囲も含む）の既設構造物、既設配管等に対する施工方法（防護等） イ 設備（給排水、ガス、電気、通信等）撤去計画
	3. 工事の記録及びしゅん工書類	(1) 監督職員と協議した結果について、記録を整備する。 (2) 解体工事の全般的経過を記載した書面を作成する。（工事日誌等） (3) 解体工事の経過の詳細を記載した工事写真を整備する。［詳細は4.(3)］ (4) 竣工書類は、監督員の指示によること。（伊那市営精工事に係る提出書類一覧）
	4. 解体材処理状況記録及び工事写真	(1) 搬出された解体材の処理状況記録 ① 処理の一部を委託した場合 ア 収集運搬車両ごとの産業廃棄物管理票（以下「ﾏﾆｭﾌｪｽﾄ」という。）A票、B2票、D票及E票（建Ⅱの場合は84票を加える。）の写し、建設廃棄物処理委託契約書の写し並びに搬出解体材の数量集計表 イ 最終処分場の案内図及び処分状況の写真（中間処理にあっては中間処理施設の案内図及び中間処理状況の写真） ② 請負者が自ら処理した場合 ア ﾏﾆｭﾌｪｽﾄに準じた解体材の種類ごとの数量集計表 イ 最終処分場の案内図及び処分状況の写真（中間処理にあっては中間処理施設の案内図及び中間処理状況の写真） ③ 特別管理産業廃棄物の場合 ①又は②に準ずる。ただし産業廃棄物管理票とあるを特別管理産業廃棄物管理票と読み替える。 (2) 解体材の再資源化実施状況記録 ※ 再生資源利用促進実施書に記載する事項 ・発生量、搬出先名称、区分、施工条件の内容、搬出先名称、運搬距離、搬出先の種類等 (3) 工事写真 ① 解体工事着手前の現場全景、周辺及び対象建築物等の現況写真 ② 仮設物、安全措置状況及び工程写真（除却作業状況、埋設配管等及び基礎類は入念に撮影する。） ③ 使用機械類 ④ 解体材収集運搬車両への積込み時、運搬時及び積降し時の写真 ⑤ 整地後の全景写真（着手時と同一アングルとする。） ⑥ その他監督職員の指示による ﾏﾆｭﾌｪｽﾄにおけるB2票及び D票はﾏﾆﾌｪｽﾄ交付90日（特別管理産業廃棄物は60日）、E票は180日以内に提出するものとし、工期内に提出できない場合は、監督員と協議すること。
C 解体工事現場管理	1. 施工管理	解体工事全般での施工管理体制を確立し、工程、安全等の施工管理を行う。 (1) 作業時間 ① 日曜日及び官公庁の休日に工事を行わない。ただし、設計図書に定めがある場合又はあらかじめ監督職員の承諾を受けた場合は、この限りでない。 ② 設計図書に作業時間が定められている場合で、その時間を変更する必要がある場合は、あらかじめ監督職員の承諾を受ける。 ③ 設計図書に作業時間が定められていない場合は、周辺状況及び施工状況等考慮したうえで、監督職員と協議する。
	2. 施工条件	(2) 解体工事の施工に当たっては、施工箇所及びその周辺にある地上・地下の既設構造物・配管等について、あらかじめ十分調査し、支障を来さないような施工方法等を定める。 (3) 地下構造部等の残存物がないことを確認後、後片付け、清掃及び整地を行う。 (4) 杭の引き抜き工事は、特記による。 (5) 上記以外の施工条件は、特記による。
	3. 施工中の安全確保及び環境保全	(1) 建築基準法、労働安全衛生法、環境基本法、騒音規制法、振動規制法、大気汚染防止法その他関係法令によるほか、「対策要綱」及び「推進要綱」に従い、解体工事の施工に伴う災害の防止及び環境の保全に努める。 (2) 施工中の安全確保に関しては、「建築工事安全施工技術指針」（平成７年５月25日建設省営監発第13号）を参考に、常に工事の安全に留意し、現場管理を行い、災害及び事故の防止に努める。 (3) 工事現場の安全衛生に関する管理は、現場代理人が責任者となり、建築基準法、労働安全衛生法、その他関係法令に従ってこれを行う。 (4) 気象予報又は警報等について、常に注意を払い、災害の防止に努める。 (5) 火気の使用や溶断作業等を行う場合は、火気の取り扱いに十分注意するとと共に、適切な消火設備、防炎シート等を設ける等、火災の防止措置を行う。 (6) 火薬類を用いた取り壊し作業を行ってはならない。 (7) 除却作業に使用する機械は低振動・低騒音・低排ガス型解体機種とする。また、同作業に当たっては騒音振動の減に努める。下請けとする場合は、この旨を指示し遵守させる。 (8) 除却作業中は必ず散水等を十分に行い、粉塵等の飛散防止に努める。 (9) 解体現場構内及び進入口付近路面の清掃に努める。 (10) 解体工事現場の工事関係車両進入口への交通誘導員の配置は、特記による。 (11) 現場内では解体材等の焼却は行わない。
	4. 近隣住民対応等	(1) 解体工事の施工に当たっての近隣等との折衝は次による。また、その経過について記録し、遅滞なく監督職員に報告する。 ① 近隣住民等と解体工事の施工上必要な事前説明（工事概要に関する）及び折衝を行うものとし、あらかじめその内容を監督職員に報告する。 ② 解体工事に関して、近隣住民等から説明の要求又は苦情があった場合は、直ちに誠意をもって対応する。 ③ 近隣家屋等には損傷を与えないよう十分注意し、損傷が発生した場合は監督職員と協議するとともに、速やかに誠意をもって対応する。 ④ 工事関係車両の通行による道路の損傷には十分注意し、損傷が発生した場合は道路管理者と協議の上、請負者の責任において速やかに修復する。 (2) 建設事業及び建設業のイメージアップのために、作業環境の改善、作業現場の美化等に努める。
	5. 災害時の安全確保	災害及び事故が発生した場合は、人命の安全確保を最優先するとともに、二次災害の防止に努め、その経緯を監督職員に報告する。
D その他	1. 収集運搬車両	解体工事の施工に伴う解体材、土砂及び工事用資材等（以下「解体材等」という）を収集及び運搬する車両の使用に当たっては、交通事故及び交通災害の防止に努めるとともに次の事項を遵守する。 ① 運搬を委託する場合は許可を得た車両を使用させ、許可証の写しを常備させる。 ② 廃棄物の性状に応じ、飛散、流失しない適切な構造の運搬車両を使用する。 ③ 積載重量制限を超えて解体材等を積み込まず、また積み込ませない。 ④ さし枠装着車、不表示車等に解体材を積み込まず、また積み込ませない。 ⑤ タイヤ又は車体に廃棄物を付着させたままで運搬をさせないよう、洗車、清掃を行う。 ⑥ 運搬経路の選定として運行上の安全と街路周辺環境に配慮する。
	2. 保険等	工事期間中請負者の責任において労災保険に加入し、その負担は請負者とする。
	3. その他	(1) 暴力団関係者から工事妨害による被害を受けた場合は、被害届を速やかに警察に提出すること。 (2)下請負契約締結後、速やかに下請負人通知書を提出すること。 (3) 下記業種等については、建設工事に関連性をもち、元請負人の指揮、調整のもと行われるものであるため施工体制台帳、施工体系図、契約書及び下請負人通知書等整備すること。また、下記業種同等と考えられるものについても、同様に整備すること。 ・交通整理員、ガードマン ・産業廃棄物処理業者 ・ダンプ運転（１人親方のダンプ運転手） ・１日で完了する請負契約、小額な作業・雑工・労務のみ単価契約の請負契約 ・クレーン作業、コンクリートポンプ打設等日々の単価契約で行っているもの ・クレーン等の重機オペレーターを機械と一緒にリース会社から借上げる場合 ・他の会社から応援者を借上げ、請負契約を締結した場合（臨時雇用関係である場合を除く） (4) 本工事について、公共工事労務費調査、資材調査、建設副産物実態調査等無から調査依頼があった場合は、これに協力すること。 (5) 施行途中において、発注機関の長が指定する職員による、抜打ち検査を実施する場合においては、これに協力すること。

Ⅲ 解体工事特記仕様

(1) 項目は、番号に○印のついたものを適用する。
(2) 特記事項に⊙印がつかない場合は、※印がついたものを適用する。
(3) 特記事項に⊙印と◎印のついた場合は共に適用する。

章	項目	特記事項
A 一般事項	①適用基準	・既存建築物の吹付ｱｽﾍﾞｽﾄ粉じん飛散防止処理技術指針 （同指針資料１　吹付けｱｽﾍﾞｽﾄ除去処理工事ﾏﾆｭｱﾙ）　建設省住宅局建築指導課監修 ○建設・解体工事に伴うｱｽﾍﾞｽﾄ廃棄物処理に関する技術指針　建設大臣官房官庁営繕部監督課監修 （通称　アスベスト廃棄物処理ガイドライン）　厚生省水道環境部産業廃棄物対策室監修 （社）日本廃棄物対策協会作成
	②用語の定義	○「廃石膏ボード」とは、解体材となった石膏ボードをいい、特定廃石膏ボードを除く。 ○「特定廃石膏ボード」とは、次の工場で製造された石膏ボード製品が解体材となったもの。 ア　小名浜吉野石膏㈱いわき工場　商品名「タイガーボード」 工場名の表示「吉野石膏ＯＹ」 製造期間　昭和４８年～平成９年４月の製造品 ＪＩＳ許可番号　２７７０５７．２６５０２４ イ 日東石膏ボード(株)八戸工場　商品名「アドラせっこうボード」 会社名の表示「日東石膏ボード株式会社」 製造期間　平成４年１０月～平成９年４月の製造品 ＪＩＳ許可番号　２６５０２３．２６５０２４ ⊙「飛散性廃アスベスト等」とは、吹付け石綿（吹付けロックウールの内、石綿を含むものを含む。）及び石綿を含む石綿保温材、けいそう土保温材、パーライト保温材で飛散するおそれのあるもの並びに石綿が付着しているもの。 ○「非飛散性アスベスト含有建材」とは、アスベストを含有している成形板で、石綿セメント板、ビニール床タイル、珪酸カルシウム板、ロックウール化粧吸音板、化粧石膏ボード等（以下「アスベスト成形板」という。）があり、切断及び粉砕により飛散する恐れがあるもの。
	③特別管理産業廃棄物	・特別管理産業廃棄物の有無　⊙有　・無　・　廃PCBの調査 廃業物の種類　・燃えやすい廃油　・廃酸（pH2以下）　・廃アルカリ（pH12.5以上） 特定有害産業廃棄物（・廃ＰＣＢ　・ＰＣＢ汚染物　○廃石綿等　・　）
	④廃石膏ボード等及びアスベスト成形板	○廃石膏ボードの有無　⊙有　・無　⊙解体工事着手時に材料の履歴を調査確認 （使用箇所　） ○特定廃石膏ボードの有無　⊙有　・無　⊙解体工事着手時に材料の履歴を調査確認 （使用箇所　） ○アスベスト成形板の施工調査　※行う　・行わない （調査箇所　施工調査による）
	5. シーリング	・ＰＣＢ含有シーリング調査　※行う　・行わない ・１次分析（ＰＣＢ含有分析の要否判定） 工事に先立ち、工事範囲のシーリング材を各部位毎に採取し、シーリング材種についての判定を行うこと。なお、判定結果は速やかに監督職員に報告し、ＰＣＢ含有分析が必要な場合は協議する。 ・２次分析（ＰＣＢ含有分析） ＰＣＢの含有について分析を行うこと。なお、分析結果は速やかに監督職員に報告すること。 (1)採取箇所　計　箇所 (2)採取方法　分析機関の指定する方法により採取する。 (3)分析方法　ＧＣ－ＥＣＤ法による(JIS K0114) シーリングにＰＣＢが含有していた場合の措置 (1)除去方法　改修標仕3.7.5(a)による (2)処置方法　関係法令により適切に処理すること。また、密封できる容器に保管し、採取時期、使用部位、ＰＣＢが含有していること等を明記の上、施設管理者へ引き渡す。
	⑥特殊な廃業物	⊙特殊な廃業物の有無　・有　・無　⊙解体工事着手時に調査確認 廃業物の種類　・ＣＣＡ処理木材　・蛍光管又は水銀灯　・臭化リチウム使用冷凍機　・複合素材　・フロン・ハロン使用製品　・オイルタンク内オイル　・ピット汚泥　・便槽、グリーストラップ汚泥
	⑦解体材の処理等	※ 場外搬出適正処理（特別管理産業廃業物を除く） ・引渡しを要するもの ・現場において再利用を図るもの ⊙再生資源化を図るもの　⊙コンクリート塊　⊙アスファルト・コンクリート塊　⊙木くず　⊙金属くず　・電線類　・建設発生土　・その他（　） ・処理方法について監督職員と協議を要するもの　・コンクリート塊　・アスファルト・コンクリート塊　・木くず　・遊具　・プール等　・小動物飼育小屋　・記念碑等に類する工作物　・伐採木　・伐採根　・その他 ・ 特別管理産業廃業物 ・ 廃油、廃酸、廃アルカリ　[・施設管理者が対処　・　] ・ ＰＣＢ使用部品、廃ＰＣＢ等、ＰＣＢ汚染物→施設管理者が保管する。 ・　[・施設管理者が集積済　・請負者が取り外し] ・「飛散性廃アスベスト等」　→１．適用基準中の「既存建築物の吹付けアスベスト粉じん防止処理技術指針（この項で以下「指針」という。）に基づく除去処理工法により除去し、場外適正処理。 [・別途発注　・指針に基づく適切な施工業者に再委託] 注　「飛散性廃アスベスト等」にあっては、工事現場には廃業物処理法に基づく特別管理産業廃業物管理責任者の設置及び指針に基づく特定化学物質等作業主任者の選任を要する。 ○「アスベスト成形板」　→平成１２年３月３１日、建設省営計発第４４号別紙１（現場説明書）により除却し、場外適正処理。 [※ 安定型処分場へ処分　・　] ○廃石膏ボード　[・管理型最終処分場に処分　・紙を除去の上、安定型最終処分場に処分] ○特定廃石膏ボード　[・管理型最終処分場に処分　] ・特殊な廃業物　廃業物名　・蛍光管　・ [・管理型最終処分場に処分　・　]
	8. 埋蔵文化財調査	「周知の埋蔵文化財包蔵地」の該当　・該当する　・該当しない 掘削作業時の教育委員会等の立会い　・有　・無 埋蔵文化財調査の時期　・解体工事終了後　・解体工事途中
	9. 騒音、振動調査	調査の有無　※無　・有 調査の方法は設計図書による
B 仮設	①監督職員事務所	※ 設置しない　・設置する　規模　※10㎡程度　・20㎡程度　・（　）
	②工事用水	構内既存施設　⊙利用できる（※有償　・無償）　※利用できない
	③工事用電力	構内既存施設　・利用できる（※有償　・無償）　※利用できない
	④仮囲い	(1) 関係法令に従い、適切な構造とする。なお、支柱は地中に十分打込んだ単管等に連結すると共に、控え及び筋違い等により、強風にも耐えられる構造とする。 (2) 範囲、種類　※ 設計図書による　・ (3) 防塵養生シートの設置　※ 設計図書による　・
	⑤工事表示板	※「長野県公共建築工事の手引」（工事現場における表示板について）のうち、監督職員の指示したもの
C 除却工事	①施工条件	(1) 作業時間　※ 午前８時から午後５時の間　・土日祭日　（共通仕様Ⅱ-C-2.-(1)） (2) 施設利用者登退庁等（登下校等）のための作業制限　・有（　時 ～ 時 ）⊙無 ・近隣学校施設通学路（登下校等）のための通行制限　⊙有（　時 ～ 時 ）・無 (3) 地上及び地下の既設配管等の処理　※ 設計図書による　・工事着工時の調査による (4) 整地　※ 除却の建築物等周囲２ｍ程度の範囲まで水はけよく地均しする　・ (5) 杭の引き抜き　・有（工法 ※ 設計図書による　・　）　※無 (6) 引渡しを要する既存設備等の取扱い　（共通仕様Ⅱ-A-8.-(4)-①） ※再使用を前提とした取り外し （物品名　） (7) 機械設備（給排水管設備、消火設備、ガス設備等）及び電気設備（構内配電線等）の切替・遮断等の工事を行う者 ※ 請負者が同工事の許可業者でない場合は、同工事の許可を取得している者に委託する。 （長野県建設工事入札参加資格者のうちから監督職員と協議し、委託する） 散水方法　※ 高圧ポンプ等（散水員１名以上常駐）　・
	2. 防塵対策	※ 配置する（・常駐　・車両出入時のみ）　・　（共通仕様Ⅱ-C-3.-(8)）
	3. 交通誘導員の配置	（交通誘導員を配置した場合は、工事日誌等にその人員数を記載する）　（共通仕様Ⅱ-C-3.-(10)）
D その他	1. 工事現場の環境改善について	工事現場のイメージアップ　（共通仕様Ⅱ-C-4.-(2)） ・仮囲い周辺の美化　・ 地域住民への情報提供 ・情報掲示板の設置　・パンフレットの作成　・ 地域住民とのコミュニケーション ・
	②アスベスト成形板の処理等について	※ アスベスト成形板の撤去に当たり、あらかじめ事前の施工調査を次の事項について行う。調査結果は、図面により記録し、監督職員に提出すること。 (1)　アスベスト成形板の使用部位の確認 (2)　アスベスト成形板の種別、厚さ等の確認 (3)　アスベスト成形板使用数量の確認 (4)　施工範囲等の確認
	3. 土壌調査	調査項目 ・土壌調査　・土壌調査（含有量試験）　・ﾉﾙﾏﾙﾍｷｻﾝ抽出調査　・廃棄物含有調査 土壌汚染に係る環境基準に準拠すること。
	④ISO 14001関係	(1)現場で使用する機械は、低騒音、低排ガス、低振動型施工機械とする。 (2)夜間、早朝等の稼動を避けること。ただし、監督職員の承諾を受けた場合はこの限りでない。 なお、運搬ルートの選定に当たっては影響の少ないルートを選定すること。 (3)汚水、汚濁、土砂の流出防止に努めること。また、表土復元等環境の回復に努めること。
	5. ｱｽﾍﾞｽﾄ粉塵濃度	ｱｽﾍﾞｽﾄ粉塵濃度測定を行う。位置は、設計書による。

一級建築士事務所登録(伊那)Ｋ第7X201号
株式会社 田原建築設計事務所
〒396-0022 伊那市御園1223-3　TEL(0265)72-7171
一級建築士 登録第 279775 号　田原　健一（管理建築士）
一級建築士 登録第 279775 号　田原　健一

担当	製図	備考	CONSTRUCTION NAME	DRAWING NAME	SCALE	PLACE	DATE	SHEET NO
			令和７年度 市営住宅若宮団地リフォーム工事（195～200号）	解体特記仕様書	No Scale	伊那市	R 07・04	A－05

特記仕様書（構造関係）

Ⅰ 建物構造概要等

1．建物概要

工事名称	令和７年度　市営住宅若宮団地ﾘﾌｫｰﾑ工事（195～200号）		
工事場所	伊那市若宮７３１６番地ほか２		
主要用途	集合住宅	延べ面積	（195～200号）307.01ｍ2
階数	地上 1 階　地下　階　塔屋　階		
建物高さ	（195～200号）4.222ｍ	軒 高	（195～200号）2.95ｍ
工事種別	・ 新築　・ 増築　◉ 改築　・ 移転		
増築計画	・ 有り　◉ 無し		
構造種別	地上 1 階　木 造　地下　造		
架構形式	Ｘ方向	ラーメン　構造	
	Ｙ方向	ラーメン　構造	
耐震構造方式	・ 耐震構造　・ 免震構造　・ 制震構造		
耐震安全性の分類	・ Ⅰ類（Ⅰ＝1.50）　・ Ⅱ類（Ⅰ＝1.25）　・ Ⅲ類（Ⅰ＝1.00）		

2．構造計算条件

a　耐震設計条件

地震荷重	建物一次固有周期	（　　）秒	
	地盤種別	第（　　）種地盤	
	地域係数	Ｚ＝	
計算ルート	Ｘ方向	※ 許容応力度計算（ルート 1-2 ）	
		・ その他	
		・	
	Ｙ方向	※ 許容応力度計算（ルート 1-2 ）	
		・ その他	
		・	
設計層間変形角	Ｘ方向	一次設計	
		二次設計	
	Ｙ方向	一次設計	
		二次設計	

b　耐風設計条件

基準風速（Ｖ0）	（　　）ｍ／秒
地表粗度区分	・Ⅰ　・Ⅱ　・Ⅲ　・Ⅳ

c　耐積雪設計条件

建設地の標高	（　　）ｍ
多雪区域の指定	・ 有り　・ 無し
設計垂直積雪量	（　　）ｃｍ

Ⅱ 建築工事仕様（構造関係）

1．共通仕様

（１）図面及び特記仕様に記載されていない事項は、全て国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）令和４年版」（以下「標仕」という。）による。

（２）標仕で、「特記がなければ、」以下に具体的な材料・工法・検査方法等を明示している場合において、それらが関係法令等（条例を含む）と異なる場合には、具体的な対応策について監督職員と協議すること。

2．特記仕様

（１）項目は、番号に◉印の付いたものを適用する。

（２）特記事項は、◉印の付いたものを適用する。
　◉印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。
　◉印と◉印の付いた場合は、共に適用する。

（３）特記事項に記載の（．．．）内の表示番号は、標仕の当該項目、当該図又は当該表を示す。

（４）特記事項に記載の（別 ．．．）は（5.3.7）による別図「各部配筋」の当該項目を示す。

（５）製造所名は、五十音順とし「株式会社」等の記載は省略する。

章	項　目	特　記　事　項
㉑ 地業工事	◉支持力又は支持地盤の確認	支持地盤の位置及び種類　(4.3.4)(4.3.5)(4.5.4)(4.5.5) ・ 杭基礎（基礎ぐいの先端の位置含む） ・ 構造図（　　）による ◉ 直接基礎（基礎底部の位置含む） ・ 構造図（　　）による 長期設計支持力度　（　　）kN/㎡ 試験 杭の載荷試験　(4.2.1)(4.2.3)(4.2.5) ・ 行わない ・ 行う ・ 構造図（　　）による 地盤の載荷試験（平板載荷試験）　(4.2.1)(4.2.4)(4.2.5) ・ 行わない ・ 行う 載荷荷重等仕様　・ 構造図（　　）による　・
	2.液状化対策	・ 行う（工法、施工範囲、仕様及び計測、試験等は構造図による） ・ 行わない
	3.既製コンクリート杭地業	種類等　(4.3.2) ・ 遠心力高強度プレストレストコンクリート杭（PHC杭） ・ 外殻鋼管付きコンクリート杭（SC杭） SC杭の鋼管材料　・ SKK400　・ SKK490　・ ・ 材料 寸法、継手、性能等　(4.3.2)

	杭径 (mm)	杭長(m)及び種別				セット数	コンクリート強度 (kN/m²)	長期設計支持力(kN/本)	備　考
			種類の記号	板厚(mm)	杭長(m)				
試験杭		上杭							
		中杭							
		下杭							
本　杭		上杭							
		中杭							
		下杭							

		試験杭　(4.2.2)(4.3.4) 試験杭の位置、本数及び寸法　・ 構造図（　　）による　・ 杭先端部形状　・ 開放形　・ 半閉放形　・ 閉そく形 施工方法　(4.3.2) ・ セメントミルク工法 アースオーガーの支持地盤への掘削深さ　・ 1.5m程度　・　(4.3.3～4.3.5) 杭の支持地盤への根入れ深さ　・ 1.0m以上　・　(4.3.4) 杭の精度 水平方向の位置ずれ　・ 杭径の1/4かつ100mm以下　・ 杭の傾斜　・ 1/100以内　・ ・ 特定埋込杭工法　(4.3.5) ・ H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力式でα=250を採用できる工法 ・ H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力式の内 α、β、γが下記の値を採用できる工法 α=(　　)、β=(　　)、γ=(　　) 工法 ・ プレボーリング拡大根固め工法 ・ 中堀り拡大根固め工法 ・ 杭周固定液　・ 使用する　・ 使用しない 杭の精度 水平方向の位置ずれ　・ 杭径の1/4かつ100mm以下　・ 杭の傾斜　・ 1/100以内　・ 評定条件又は認定条件による ・
		杭継手工法　(4.3.6) ・ アーク溶接継手 ・ 無溶接継手（継手部に接続金具を用いた方式のもの） 工法　※ 審査（評定又は大臣認定）を受けた工法 検査　※ 審査（評定又は大臣認定）により定められた項目 施工　※ 審査（評定又は大臣認定）された施工管理基準による ・ 杭頭の処理（切断方法）　(4.3.7) ・ 処理しない ・ 処理する 切断方法　・ 構造図（　　）による　・ 杭頭の中詰め材料　・ 基礎のコンクリートと同調合のもの　・
	4.鋼杭地業	材料 寸法、継手、性能等　(4.4.2)(表4.4.1)

	杭径 (mm)	杭長(m)及び種別				セット数	コンクリート強度 (kN/m²)	長期設計支持力(kN/本)	備　考
			種類の記号	板厚(mm)	杭長(m)				
試験杭		上杭							
		中杭							
		下杭							
本　杭		上杭							
		中杭							
		下杭							

		試験杭　(4.2.2)(4.4.3) 試験杭の位置、本数及び寸法　・ 構造図（　　）による　・ 杭先端部形状　・ 開放形　・　(4.4.2) 施工方法 ・ 特定埋込杭工法　(4.4.4) ・ H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力式でα=250を採用できる工法 ・ H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力式の内 α、β、γが下記の値を採用できる工法 α=(　　)、β=(　　)、γ=(　　) 工法 ・ 中堀り拡大根固め工法 ・ 杭の精度 水平方向の位置ずれ　・ 杭径の1/4かつ100mm以下　・ 杭の傾斜　・ 1/100以内　・ 評定条件又は認定条件による ・ 杭の現場継手　(4.4.5) ・ アーク溶接継手 ・ 無溶接継手（継手部に接続金具を用いた方式のもの） 工法　※ 審査（評定又は大臣認定）を受けた工法 検査　※ 審査（評定又は大臣認定）により定められた項目 施工　※ 審査（評定又は大臣認定）された施工管理基準による ・ 杭頭の処理（切断方法）　(4.4.6) ・ 処理しない ・ 処理する 切断方法　・ 構造図（　　）による　・ 杭頭の中詰め材料　・ 基礎のコンクリートと同調合のもの　・
	5.場所打ちコンクリート杭地業	セメントの種類　・ 高炉セメントB種　・　(4.5.3) コンクリートの種別　・ A種　・ B種　(4.5.3)(表4.5.1) コンクリートの設計基準強度　（　　）N/mm2　(4.5.3)(4.5.4)(4.5.5) 構造体コンクリートの強度と供試体の強度の差を考慮した割り増し　(4.5.3) ・ 行わない ・ 行う ・ 3N/mm2

	軸径 (mm)	拡底径 (mm)	杭長 (m)	セット数	長期設計支持力 (kN/本)	備　考
試験杭						
本　杭						

		試験杭　(4.5.3) 試験杭の位置、本数及び寸法　・ 構造図（　　）による 掘削工法　(4.5.1)(4.5.4)(4.5.5) ・ アースドリル工法（安定液　・ 使用する　・ 使用しない） ・ リバース工法 ・ オールケーシング工法（孔内の水張り　・ 行う　・ 行わない） 併用する工法　(4.5.1)(4.5.5) ・ 場所打ち鋼管コンクリート杭工法 鋼管巻き材料　・ SKK400　・ SKK900　・ STK400　・ STK490　・ 鋼管径、板厚、長さ等　・ 構造図（　　）による ・ 拡底杭工法（安定液　・ 使用する　・ 使用しない） ・
㉒ 鉄筋工事		帯筋　(4.5.3) ・ 構造関係共通図（配筋標準図）6.2帯筋(a)③丸形(D)による ・ 構造図（　　）による 鉄筋かごの補強　(4.5.3) ・ 杭径1.5m以下の場合は鋼板6×50(mm)、1.5mを超える場合は鋼板9×50×75(mm)の補強リングを3m以下の間隔で、かつ、1節につき3箇所以上入れ、リングと組立用の鉄筋との接触部を溶接する ・ 鉄筋の最小かぶり厚さ　(4.5.3) ・ 100mm　・ 鉄筋の重ね継手長さ、主筋の基礎底盤への定着長さ　(4.5.3) ・ 構造図（　　）による ・ 孔壁測定　(4.5.4)(4.5.5) ・ 行わない ・ 行う 測定方法　・ 超音波測定器　・ 測定箇所数及び測定位置 ・ 試験杭（　）箇所及び本杭（　）箇所とし、位置は構造図（　　）による ・ 杭の精度　(4.5.4)(4.5.5) 水平方向の位置ずれ　・ 100mm以下　・ 杭の傾斜　・ 1/100以内　・ 評定条件又は認定条件による
	◉鉄筋の種類	(5.2.1)(表5.2.1)

規格の名称	種類の記号	呼び径 (mm)	適用箇所	備考
鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ用棒鋼（異形鉄筋）	・ SD295A	※ D16以下		
	・ SD345	※ D19以上		

	2.溶接金網	形状等　(5.2.2)

種類	種類の記号	網目の形状、寸法、鉄線の径 (mm)	適用箇所
・ 溶接金網			
・ 鉄筋格子			

	3.圧接完了後の試験	外観試験　※ 行う（全数）　・ 抜取試験　(5.4.9) ・ 超音波探傷試験　(5.4.9) 試験の箇所数等　・ 標仕5.4.9、5.4.10による　・ ・ 引張試験 試験片の採取数は、1ロットに対して（ ※ 3本　・ 5本）とする 試験ロット：1組の作業班が1日に行った圧接箇所とする なお、200箇所を超えるときは200箇所ごととする 試験片を採取した箇所の処置：標仕5.4.9による
	◉鉄筋の継手	継手方法　(5.3.4)(5.5.2)

適用箇所	継手方法と適用径の範囲
・ 柱主筋	・ ガス圧接（D19以上）
・ 梁主筋	・ ガス圧接（D19以上）
・ 耐力壁	・ 重ね継手
・ 基礎スラブ、耐圧スラブ、土圧壁など	・ ガス圧接（　　）
	・ 重ね継手（　　）
・ 杭主筋	・ 重ね継手

	◉主筋の継手位置等	カットオフ鉄筋の長さ　(5.3.4) ・ 構造関係共通図（配筋標準図）5.1、6.1、7.1、7.3による（・全て　・下記以外全て） ・ 上記以外の位置 ・ 構造図（　　）による 基礎梁主筋の継手 ・ 構造関係共通図（配筋標準図）図5.2による（ ・ 全て　・ 構造図による　・　） ・ 構造関係共通図（配筋標準図）図5.3による（ ・ 全て　・ 構造図による　・　） ・ 構造関係共通図（配筋標準図）図5.4による（ ・ 全て　・ 構造図による　・　） ・ 構造図（　　）による
	◉鉄筋のかぶり厚さ及び間隔（溶接金網含む）	最小かぶり厚さ（目地底から算出を行う）　(5.3.5) ・ 構造関係共通図（配筋標準図）表4.1による ・ 構造図（　　）による ・ 柱及び梁の主筋にD29以上の使用の有無 ・ 無し ・ 有り　適用箇所（　　） 主筋のかぶり厚さ ・ 最小かぶり厚さ（　　）mm ・ 特殊な要求性能におけるコンクリートの部分（耐久性上不利な部分） ・ 無し ・ 有り　適用箇所（　　） ・ 構造関係共通図（配筋標準図）表4.1に加える厚さ　（　　）mm ・
	7.既製ｺﾝｸﾘｰﾄ杭の杭頭補強	・ 構造図（　　）による
	8.特殊な鉄筋継手	適用箇所　(5.5.2) ・ 構造図（　　）による 性能（H12建告第1463号に適合するもの）　(5.5.2) ・ A級 機械式継手の種類（　　）　(5.5.2) カプラー等の接合部分の相互のあき、最小かぶり厚さ　(5.3.5) ・ 構造図（　　）による 品質の確認方法、不良となった継手の修正方法等　(5.5.2) ・ 構造図（　　）による
	◉各部配筋	・ 構造関係共通図（配筋標準図）による　(5.3.7) ・ 構造図（　　）による
	◉帯筋	組立の形の種別 ・ 構造関係共通図（配筋標準図）6.2（　　形）による ・ 構造図（　　）による
	◉壁開口部の補強	一般壁 ・ 構造関係共通図（配筋標準図）8.4（　　形）による ・ 構造図（　　）による ・ 耐震壁 ・ 構造図（　　）による ・
	◉梁貫通孔の補強	補強形式 ・ 構造関係共通図（配筋標準図）11.2（　　形）による ・ 構造図（　　）による 梁貫通孔径（部材記号含む）及び配筋種別リスト ・ 構造図（　　）による
	13.機械吊上げ用フック	・ A種　・ B種　・ C種　（　　ヶ所）　(別7.3)
㉓ コンクリート工事	◉ｺﾝｸﾘｰﾄの使用骨材による種類及び強度	※ 普通コンクリート　(6.1.3)(6.1.4)(6.2.1～6.2.3)

設計基準強度 Fc (N/mm2)	気乾単位容積質量 (t/m3)	スランプ (cm)	適用箇所
・ 21 ※ 24	2.3程度	15又は18	
		15又は18	
・ 18	2.3程度	15又は18	

	◉ﾚﾃﾞｨｰﾐｸｽﾄｺﾝｸﾘｰﾄ	種別　(6.1.5)(表6.1.1) ※ Ⅰ類　・ Ⅱ類
	◉ｾﾒﾝﾄの種類	(6.3.2)(表6.3.1)

セメントの種類	適用箇所
※ 普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種	下記以外全て
・ 高炉セメントB種	・ 1FL より下部（立ち上がり部含む）
・ フライアッシュセメントB種	・

普通ポルトランドセメントの品質は、JIS R 5210に示された規定の他、次の規定の全てに適合するものとする。ただし、無筋コンクリートに用いる場合を除く。

水和熱	7日	352J/g以下
	28日	402J/g以下

	◉骨材の種類	使用骨材のアルカリシリカ反応による区分　(6.3.3)(6.11.2) ・ A ・ B（コンクリート中のアルカリ総量Rt=3.0kg/m3以下）

一級建築士事務所登録(伊那)K第7X201号
株式会社 田原建築設計事務所
〒396-0022 伊那市御園1223-3　TEL(0265)72-7171
一級建築士 登録第 279775 号　田 原　健 一（管理建築士）
一級建築士 登録第 279775 号　田 原　健 一

担当	製図	備考	CONSTRUCTION NAME	DRAWING NAME	SCALE	PLACE	DATE	SHEET NO
			令和７年度 市営住宅若宮団地リフォーム工事（195～200号）	構造特記仕様書（１）	A2:NON SCALE A3:71%縮小	伊那市	R 07・04	A－06

⑥ コンクリート工事

⑤混和材料

・ 混和剤（JIS A 6204に適合するAE剤、AE減水剤又は高性能AE減水剤とし、 (6.3.5)
化学混和剤の塩化物イオン量による区分はⅠ種とする。）
・ 混和材（JIS A 6201に適合するフライアッシュのⅠ種又はⅡ種、JIS A 6206に適合する
高炉スラグ微粉末又はJIS A 6202に適合する膨張材）

6.無筋コンクリート

コンクリートの種類 (6.14.1～6.14.3)
※ 普通コンクリート

設計基準強度 Fc（N/mm2）	スランプ（cm）	セメントの種類	適用箇所
※ 18	※ 15 又は18	・ 普通ポルトランドセメント 又は混合セメントのA種	
・	・	・ 高炉セメントB種	
		・ フライアッシュセメントB種	

7.高い強度のｺﾝｸﾘｰﾄ

設計基準強度Fc（N/mm2） (6.15.3)
・ 27 ・ 30 ・ 33 ・ 36
適用箇所（ ）

⑦打継ぎ目地の寸法、位置及び形状

目地寸法 (6.6.3)(6.9.2)(9.6.3)
・ 標仕9.6.3による
間隔 (6.9.2)
・ 意匠図による
位置 (6.9.2)
・ 意匠図による
※ ひび割れ誘発目地、打継目地の深さ寸法は、躯体外側の打ち増し厚さ部で処理する

⑧コンクリートの仕上り

合板せき板を用いるコンクリートの打放し仕上げ (6.2.5)(6.6.6)(6.9.3)(表6.2.3)

種別	適用箇所
・ A種	
・ B種	
・ C種	

⑨打増し厚さ

打増し厚さ (6.9.2)
・ 打放し仕上げの打増し厚さ（外部に面する部分に限る）
・ 20mm
・ 打放し仕上げの打増し厚さ（外部に面する部分に限る）
・ 10mm ・ 20mm
・ 外装タイル後張り面の打増し処理
・ 20mm
・ 床型枠用鋼製デッキプレートの梁側面部の打増し処理
プレートが支持される梁の側面について下記の打増しを行う
・ 10mm ・ 20mm
打増し範囲
・ 意匠図による
・

11.コンクリート躯体表面の処理

外装タイル後張り面の躯体表面の処理
MCR工法は、せき版面にMCR工法用気泡ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝｼｰﾄ張りとし、仕上がり面は凹凸状態とする。
高圧水洗工法の目荒しは、水圧50N／mm²以上かつ2.5分／㎡以上とし、施工計画書を監督職員に提出し承諾を受ける。また、目荒しの状態は、事前に監督職員に承諾を受ける。
コンクリートの増打ち厚さ ※ 20mm ・
※施工範囲は図示による

⑫型枠

せき板の材料 (6.9.3)
・ 合板
塗装の有無 ※無 ・有 ・オーバーレイ
材質 ※複合合板 ・針葉樹合板 ・南洋材合板
厚さ ※12mm ・
・ 床型枠用鋼製デッキプレート
使用箇所等 ※ 構造図による
・ 断熱材兼用型枠 適用及び適用箇所について（特記仕様書 19.14による）
・
スリーブの材種 (6.9.3)(表6.9.1)
・ 標仕6.9.3(i)(2)及び標仕 表6.9.1による
・

⑬型枠の存置期間及び取外し

標仕6.9.5による (6.9.5)

⑭コンクリートの養生方法

標仕第6章第7節による (6.7.1～6.7.3)

⑮コンクリート強度及び試験方法

標仕6.5.5、6.10.3、6.10.4、6.10.5による (6.5.5)(6.10.3～6.10.5)

⑯生コンの品質管理

打ち込み量50m³以上となるｺﾝｸﾘｰﾄ工事においては担当技術者を配置し、監督職員に報告すること。
供試体には、請負者がサインしたＱＣ版（供試体型枠側面に張り付ける確認版）を入れる。

⑰コンクリートの単位水量測定

・ 行わない
・ 行う
実施要領
(1)単位水量の測定は、150m3に1回以上及び荷下し時に品質の異常が認められた時に実施する
(2)単位水量の上限値は、標準仕様書6.2.4(1)による
(3)単位水量の管理目標値は次のとおりとして施工する
1)測定した単位水量が、計画調合書の設計値（以下、「設計値」という）±15kg/m3の範囲にある場合はそのまま施工する
2)測定した単位水量が、設計値±15を超え±20kg/m3の範囲にある場合は、水量変動の原因を調査するとともに生コン製造者に改善を指示し、その運搬車の生コンは打設する。その後、設計値±15kg/m3以内で安定するまで、運搬車の3台毎に1回、単位水量の測定をする
3)設計値±20kg/m3を超える場合は、生コンを打込まずに持ち帰らせ、水量変動の原因を調査するとともに生コン製造者に改善を指示しなければならない。その後の全運搬車の測定を行い、設計値±20kg/m3以内であることを確認する。更に、設計値±15kg/m3以内で安定するまで、運搬車の3台毎に1回、単位水量の測定を行う
4)3)の不合格生コンを確実に持ち帰ったことを確認する
(4)単位水量管理についての記録を書面（計画調合書、製造管理記録、打込み時の外気温、コンクリート温度等）と写真により提出する
(5)単位水量の測定方法は、高周波誘電加熱乾燥法（電子レンジ法）、エアメータ法又は静電容量測定法による。また、試験機関は該当コンクリート製造所以外の機関とする

⑦ 鉄骨工事

①鉄骨の製作工場

製作工場の加工能力 (7.1.3)
※ 建築基準法第77条の45第1項に基づき国土交通大臣から性能評価機関として認可を受けた（株）日本鉄骨評価センター及び（株）全国鉄骨評価機構（旧（社）全国鐵構工業協会）の「鉄骨製作工場の性能評価基準」に定める「（ ）グレード」として国土交通大臣から認定を受けた工場又は同等以上の能力のある工場。
・ 監督職員の承諾する製作業者

②施工管理技術者

※ 適用する (7.1.3)(7.1.4)(7.6.2)(7.12.2)
・ 適用しない

③製作精度

※ （社）日本建築学会「JASS 6 鉄骨工事」 付則6「鉄骨精度検査基準」による (7.3.3)

④建方精度

※ （社）日本建築学会「JASS 6 鉄骨工事」 付則6「鉄骨精度検査基準」 (7.10.2)
付表5「工事現場」による

⑤鋼材

鋼材の材質 (7.2.1)(表7.2.1)

種類の記号	適用箇所	規格等
		※ JIS規格による
		※ JIS規格による
		※ JIS規格による
		※ JIS規格による
		※ JIS規格による
		※ JIS規格による

6.高力ボルト

区分 (7.2.2)(7.3.2)
・ トルシア形高力ボルト 2種（S10T）
・ JIS形高力ボルト 2種（F10T）
高力ボルトの径
※ 構造図による
すべり係数試験 (7.4.2)
※ 行わない ・ 行う

7.縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等

高力ﾎﾞﾙﾄ、普通ﾎﾞﾙﾄ及びｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄの縁端距離、ﾎﾞﾙﾄ間隔、ﾎﾞﾙﾄ径、ｹﾞｰｼﾞ等 (7.2.2)(7.3.2)
※ 構造関係共通図（鉄骨標準図）1 縁端距離及びﾎﾞﾙﾄ間隔による

8.溶融亜鉛めっき高力ボルト

セットの種類 (7.2.2)
・ 1種（F8T相当）
摩擦面の処理 (7.12.4)
※ ブラスト処理（表面粗度50μmRz以上）
・ りん酸塩処理
すべり耐力等の確認方法
・ 構造図による

材質 (7.2.4)
・ 構造用
・ SNR400B ・ SNR490B
・ 建方用
・ SS400
アンカーボルト及びナットのねじの種類の規格、ねじの等級の規格及び仕上げ
・ 構造用
※ JSS Ⅱ 13-2004「（社）日本鋼構造協会規格/建築構造用転造ねじｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄ・ﾅｯﾄ・座金のｾｯﾄ」
・
・ 建方用
※ 普通ボルトによる
・
保持及び埋込み工法 (7.10.3)(表7.10.1)
・ 構造用
※ 構造図による
・ 建方用
・ 標仕 表7.10.1（ ・ A種 ・ B種 ・ C種）による

10.柱底均しモルタル

モルタルの種別 (7.2.9)
・ 無収縮モルタル
無収縮モルタルの材料及び調合
材料、調合等
・ 標仕7.2.9による
品質及び試験方法
・ 標仕 表7.2.6による
工法の種別
・ 標仕 表7.10.2
・ A種［モルタル厚さ50］ ・B種［モルタル厚さ30］
・

11.ターンバックル

種類 (7.2.6)
建築用ターンバックル胴
・ 割枠式
建築用ターンバックルボルト
・ 羽子板ボルト
ねじの呼び (7.2.6)
・ 構造図（ ）による

12.デッキプレート

工法の種別 (7.2.7)
・ 合成スラブ
・ 床型枠用
・
材質、形状及びせ法
・ 構造図（ ）による
鉄骨部材への溶接方法
・ 構造図（ ）による
耐火認定
・ あり ・ なし

13.スタッドボルト (7.2.5)

径（呼び名）	長さ（呼び長さ）（mm）	適用箇所
16φ	・ 80 ・ 100 ・ 120	
19φ	・ 80 ・ 100 ・ 130 ・ 150	
22φ	・ 80 ・ 100 ・ 130 ・ 150	

14.入熱、パス間温度の溶接条件

鋼材と溶接材料の組合せと溶接条件
・ 構造図（ ）による
・ 構造関係共通図（鉄骨標準図） (5(7)鋼材と溶接材料の組合せと溶接条件）による
・
適用箇所
・ 構造図（ ）による
・ 柱、梁、ブレースのフランジ端部の完全溶け込み溶接部

15.溶接接合

スカラップの形状 (7.6.7)
・ 改良型
エンドタブの切除
・ 行う
適用箇所
・ 全て ・ 構造図（ ）による
・ 行わない

16.溶接部の試験

完全溶込み溶接部の超音波探傷試験 (7.6.11)
・ 行わない
・ 行う
・ 工場溶接の場合
AOQL（%）
・ 4.0 ・ 2.0

節	・ 全て	・	・	・
検査水準	・ 第6水準	・	・	・

・ 現場溶接の場合
・ 4.0 ・ 2.0
突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査
独立行政法人建築研究所監修
「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」による
・ 抜き取り検査①
※ 抜き取り検査②

17.錆止め塗装

塗料の種別 (7.8.3)(18.3.2)
鉄鋼面

種別	適用箇所
・ 標仕 表18.3.1 A種	・ 屋外（標仕7.8.2の範囲以外）
・ 標仕 表18.3.1 B種	・ 屋内（標仕7.8.2の範囲以外）
・	・

亜鉛めっき面

種別	適用箇所
・ 標仕 表18.3.2 A種	・ 屋外、屋内
・	・

鋼製スリーブの内側（鉄骨に溶接されたもの）

種別	適用箇所
・ 標仕 表18.3.1 B種	・
・	・

18.耐火被覆

種別等 (7.9.2～7.9.7)

種別	材料・工法	適用箇所（部位・部分）
・ 耐火材吹付け	・ 乾式吹付けロックウール	
	・ 半乾式吹付けロックウール	
	・ 湿式吹付けロックウール	
	・	
	・	
・ 耐火板張り	・ 繊維混入けい酸カルシウム板	
	・	
・ 耐火材巻付け	・ 高耐熱ロックウール	
	・	
・ ラス張りモルタル塗り	ー	

材料及び工法は、建築基準法に基づき指定又は認定を受けたものとする

性能

性能	適用箇所（部位・部分）
・ 30分耐火	
・ 1時間耐火	
・ 2時間耐火	
・ 3時間耐火	

その他

19.溶融亜鉛めっき

種別等 (7.12.3)(表14.2.2)

亜鉛めっきの種別	材料	適用箇所
・ A種(HDZ55)	最小板厚 6.0mm以上の形鋼、鋼板	※ 構造図による ・
・ B種(HDZ45)	最小板厚 3.2mm以上、6.0mm未満の形鋼、鋼板	
・ C種(HDZ35)	普通ボルト・ナット類、アンカーボルト類	
	最小板厚 1.6mm以上、3.2mm未満の形鋼、鋼板	

20.梁貫通孔の補強

補強方法
・ 補強プレート法
・ 補強トラス法
・
適用箇所
※ 構造図（ ）による

1.軽微な変更の対応（あらかじめ検討）

施工の関係上、やむを得ず発生する可能性の高い変更事項への対応方法について、
あらかじめの検討を行っている部分
本検討は、計画通知の変更を要しない範囲及び対応方法を定めるものであり、
品質管理上の施工誤差を許容するものではない

・ 杭の芯ずれを考慮した検討
あらかじめ検討の範囲及び対応方法 ※ 構造図による

・ 杭の長さの変更を見込んだ検討
あらかじめ検討の範囲及び対応方法 ※ 構造図による

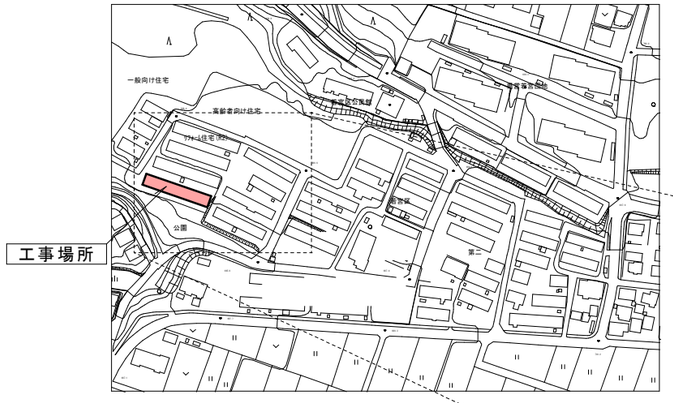
・ 梁貫通孔の大きさと位置の変更を見込んだ検討
あらかじめ検討の範囲及び対応方法 ※ 構造図による

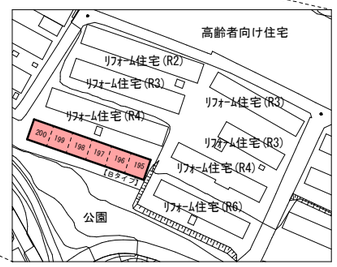
一級建築士事務所登録（伊那）K第7X201号
株式会社 田原建築設計事務所
〒396-0022 伊那市御園1223-3 TEL(0265)72-7171
一級建築士 登録第 279775 号 田 原 健 一（管理建築士）
一級建築士 登録第 279775 号 田 原 健 一

担当	製図	備考	CONSTRUCTION NAME	DRAWING NAME	SCALE	PLACE	DATE	SHEET NO
			令和７年度 市営住宅若宮団地リフォーム工事（195～200号）	構造特記仕様書（２）	A2:NON SCALE A3:71%縮小	伊那市	R 07・04	A－07

工事概要	令和７年度　市営住宅若宮団地リフォーム建築工事（195～200号）
工事場所	伊那市若宮7314番地3ほか
用途地域	都市計画区域内　指定なし
防火地域	指定なし
建ぺイ率 容積率	60% 200%
工事種目	大規模の修繕（195～200号）
195～200号	ﾌﾟﾚｷｬｽﾄｺﾝｸﾘｰﾄ造平家建て　屋根：ｶﾗｰ鉄板瓦棒葺き　外壁：ﾘｼﾝ吹付 屋根を撤去しGLｶﾗｰ鉄板に葺き替え、外部は補修し吹きなおし　内部は2LDKに改修
外構	樹木伐採抜根　整地　砕石敷

面積表		
住戸	195～200号	
建築面積	307.01m2	
1階床面積	307.01m2	
延床面積	307.01m2	

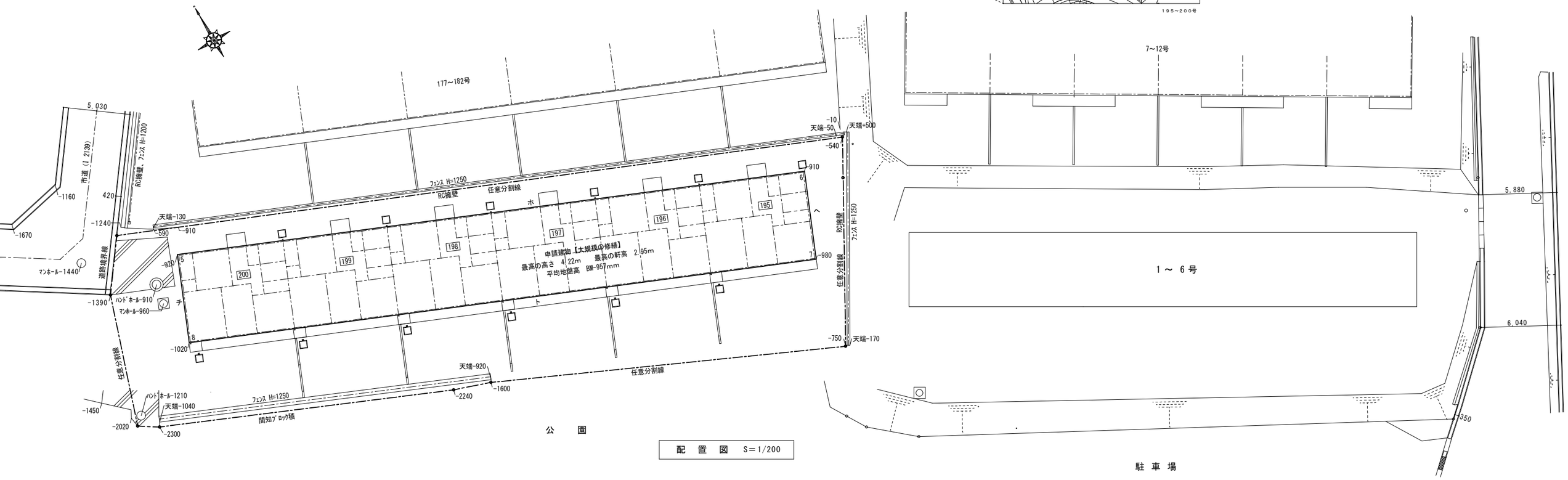




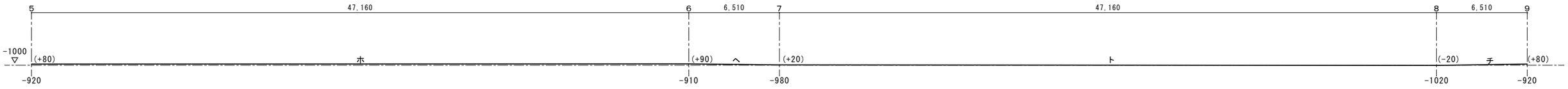
附 近 見 取 図

	長さ(m)	高さ(m)	面積(m2)
ホ	47.16	(0.08+0.09)*0.5 =0.085	4.009
へ	6.51	(0.09+0.02)*0.5 =0.055	0.358
ト	47.16	(0.02-0.02)*0.5 =0	0
チ	6.51	(-0.02+0.08)*0.5 =0.030	0.195
計	107.34		4.562

地盤面＝4.562/107.34
＝0.043m
1000-43＝957mm　BM-957mm



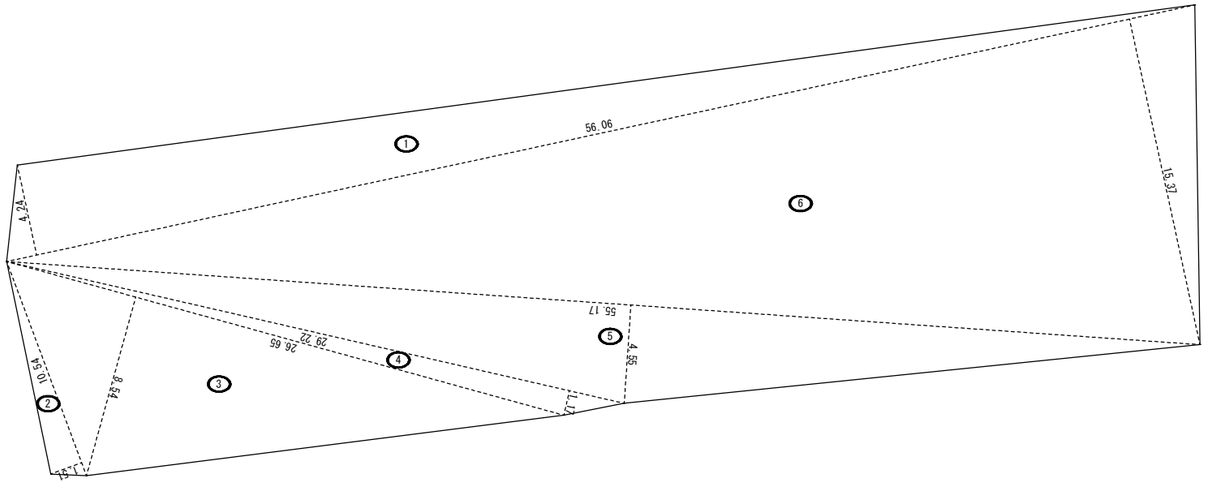
配　置　図　S＝1/200



一級建築士事務所登録(伊那)Ｋ第7X201号
株式会社 田原建築設計事務所
〒396-0022 伊那市御園1223-3　TEL(0265)72-7171
一級建築士 登録第 279775 号
田 原　健 一（管理建築士）
一級建築士 登録第 279775 号
田 原　健 一

担当	製図	備考	CONSTRUCTION NAME	DRAWING NAME	SCALE	PLACE	DATE	SHEET NO
			令和７年度 市営住宅若宮団地リフォーム工事（195～200号）	建物概要・付近見取図・配置図	A2:S=1/200 A3:71%縮小	伊那市	R 07・04	A－08

番号	底　　辺	高　　さ	倍　　面　　積	面　　積
1	56.06	4.24	237.6944	118.84720
2	10.54	1.51	15.9154	7.95770
3	26.65	8.54	227.5910	113.79550
4	29.22	1.17	34.1874	17.09370
5	55.17	4.55	251.0235	125.51175
6	56.06	15.37	861.6422	430.82110
合　　計				814.02695
敷地面積				814.02 m²

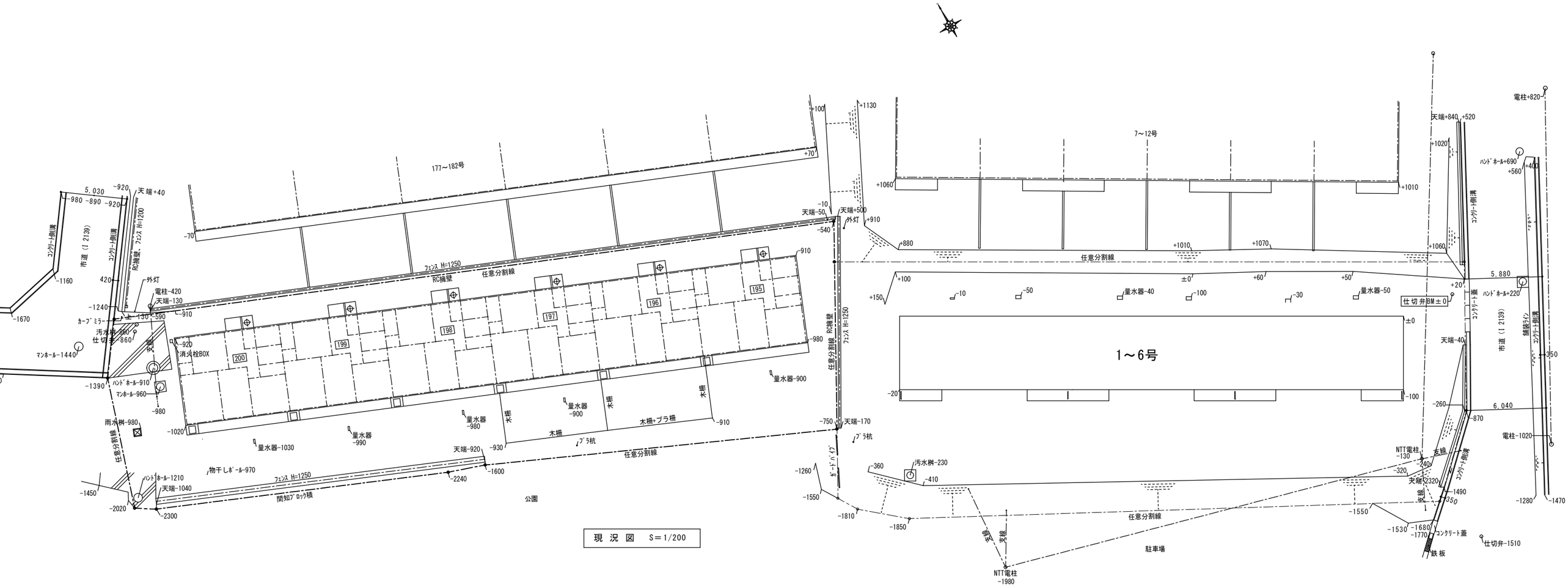


敷地面積求積図　S＝1/200

一級建築士事務所登録(伊那)K第7X201号
株式会社 田原建築設計事務所
〒396-0022 伊那市御園1223-3　TEL(0265)72-7171

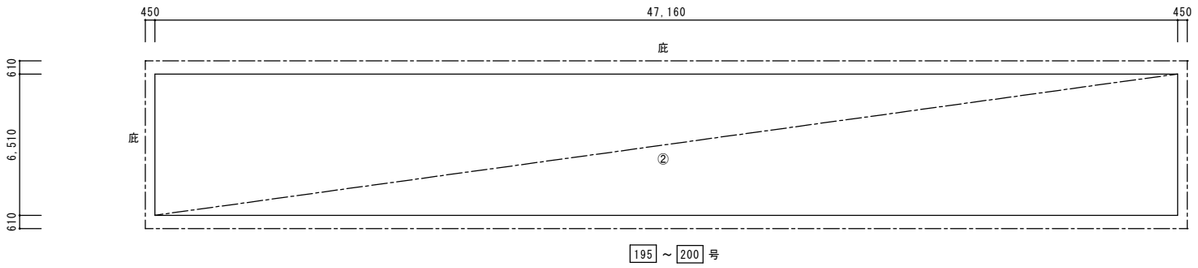
一級建築士 登録第 279775 号
田 原　健 一（管理建築士）
一級建築士 登録第 279775 号
田 原　健 一

担当	製図	備考	CONSTRUCTION NAME	DRAWING NAME	SCALE	PLACE	DATE	SHEET NO
			令和７年度 市営住宅若宮団地リフォーム工事（195～200号）	敷地面積求積図	A2:S=1/200 A3:71%縮小	伊那市	R 07・04	A－09

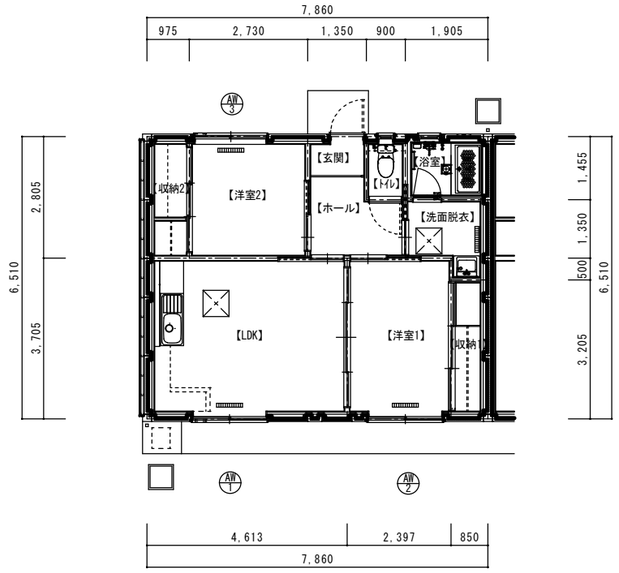


現 況 図　S＝1/200

一級建築士事務所登録(伊那)K第7X201号 株式会社 田原建築設計事務所 〒396-0022 伊那市御園1223-3 TEL(0265)72-7171	一級建築士 登録第 279775 号 田 原 健 一（管理建築士） 一級建築士 登録第 279775 号 田 原 健 一	担当	製図	備考	CONSTRUCTION NAME 令和７年度 市営住宅若宮団地リフォーム工事（195～200号）	DRAWING NAME 現況配置図	SCALE A2:S=1/200 A3:71%縮小	PLACE 伊那市	DATE R 07・04	SHEET NO A －10



面 積 計 算 書　S=1/200



2LDK平面図　S=1/100

2LDK（195～200号）採光・換気・排煙の検討

界壁　耐力壁で耐火構造の間仕切り壁：鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ造7cm以上（建設省告示第1399号）
遮音性能を有する界壁：厚さが8cm以上の木片ｾﾒﾝﾄ板（かさ比重が0.6cm以上のものに限る）の両面に厚さが1.5cm以上のﾓﾙﾀﾙ塗り以上（建設省告示第1827号）

	室名	床面積			必要採光面積	有効採光面積													採光基準判定	必要換気面積	有効換気面積				換気基準判定	必要排煙面積	有効排煙面積				排煙基準判定
		a	b	a×b	床面積×1/20	記号		窓の面積W				採光補正係数A						有効採光面積		床面積×1/20	w	h	箇所	S=w×h		床面積×1/50	w	h	箇所	w×h	
								w	h	箇所	W=w×h	d	h	α	β	A	A修正値	W×A修正値													
1階	LDK CH=2300	4.61	3.74	1		AW	1	1.67	1.80	1	3.01	5.52	1.32	10	1	40.82	3.0	3.01*3.0=9.03			1.67	1.80	1	1.67*1.80*0.5=1.503			1.67	0.3	1	1.67*0.5*0.30=0.2505	平成12年告1436号-4-ニ-3 100m2以内ごとに 準耐火構造の壁で区画 壁・天井の仕上準不燃
					0.86																										
					床面積×1/7																										
		合計		17.24	2.46	合計												9.03	OK	0.86	合計			1.50	OK	0.35	合計			0.25	
	洋室1 CH=2300	2.40	3.74	1	床面積×1/20	AW	2	1.67	1.80	1	3.01	5.52	1.32	10	1	40.82	3.0	3.01*3.0=9.03			1.67	1.80	1	1.67*1.80*0.5=1.503			1.67	0.3	1	1.67*0.5*0.30=0.2505	
					0.45																										
					床面積×1/7																										
		合計		8.98	1.28	合計												9.03	OK	0.45	合計			1.50	OK	0.18	合計			0.25	OK
	洋室2 CH=2300	2.73	2.81	1	床面積×1/20	AW	3	1.63	0.89	1	1.45	2.76	0.87	10	1	30.72	3.0	1.45*3.0=4.35			1.63	0.89	1	1.63*0.89*0.5=0.72535			1.63	0.3	1	1.63*0.3*0.5=0.2445	
					0.38																										
					床面積×1/7																										
		合計		7.67	1.10	合計												4.35	OK	0.38	合計			0.73	OK	0.15	合計			0.24	OK

一級建築士事務所登録(伊那)K第7X201号
株式会社 田原建築設計事務所
〒396-0022 伊那市御園1223-3 TEL(0265)72-7171
一級建築士 登録第 279775 号
田 原 健 一（管理建築士）
一級建築士 登録第 279775 号
田 原 健 一

担当	製図	備考	CONSTRUCTION NAME	DRAWING NAME	SCALE	PLACE	DATE	SHEET NO
			令和７年度 市営住宅若宮団地リフォーム工事（195～200号）	建物求積図・法チェック図	A2:S=1/100 A2:S=1/200 A3:71%縮小	伊那市	R 07・04	A－11

外　部　仕　上　表

屋　根	GLｶﾗｰ鉄板立平葺(働き巾455) t =0.4 勾配3.0/10　鋼板製軒先ｷｬｯﾌﾟ外付けﾀｲﾌﾟ（防水・立平ﾛｯｸ25型平ﾘﾌﾞﾀｲﾌﾟ同等）　、 野地板：針葉樹合板　t=12 N50-@150川の字張り+ｺﾞﾑｱｽﾙｰﾌｨﾝｸﾞ 幕板・破風巻き：木下地GLｶﾗｰ鉄板t=0.4、唐草・水切・雨押えGLｶﾗｰ鉄板t=0.4 雪止金具： L-40*40塗装品　受け金物 換気棟（ハニカム構造換気部材　リッチベンツ同等）+胸包み：GLｶﾗｰ鉄板t=0.4,エプロン面戸
外　壁	水洗い（7MPa程度の水洗い） キクスイ同等　下塗り：可とう系改修塗材E、PC版欠損ヶ所：ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄ充填工法、鉄筋錆落とし防錆処理、断面修復（ｷｸｽｲBR工法同等） 上塗り：トップコート塗布（1液系弱溶剤形ｱｸﾘﾙｼﾘｺﾝ樹脂塗料）2回塗り 窓廻り変成ｼﾘｺﾝｼｰﾘﾝｸﾞ充填　PC版継ぎ目変成ｼﾘｺﾝ充填 開口部塞ぎ　C-60*30*10*2.3下地組、針葉樹構造用合板t=9、透湿防水ｼｰﾄ（ﾀｲﾍﾞｯｸ同等）、両面ｶﾞﾗｽ繊維ﾈｯﾄ張ｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙ板（ﾃﾞﾗｸﾘｰﾄ同等）t=12.5 吉野ﾌｧｲﾊﾞｰﾍﾞｰｽｺｰﾄ同等塗り、ﾄｯﾌﾟｺｰﾄ塗布、既存壁取合ヶ所は目地切ｼｰﾘﾝｸﾞ充填 東妻側外壁　金属ｻｲﾃﾞｨﾝｸﾞt=15横張（ﾘｸｼﾙDan sidingﾌﾟﾚｼｬｽｳｯﾄﾞSWﾌﾟﾚｼｬｽﾐﾄﾞﾙﾌﾞﾗｳﾝF同等）、透湿防水ｼｰﾄ（ﾀｲﾍﾞｯｸ同等）、木縦胴縁20*45 @455 水切40、軒天、ｽﾀｰﾄ、同質連結他、塗壁取合ｼｰﾘﾝｸﾞ 西妻側外壁　金属ｻｲﾃﾞｨﾝｸﾞt=15横張（ﾘｸｼﾙDan sidingﾌﾟﾚｼｬｽｳｯﾄﾞSWﾌﾟﾚｼｬｽﾐﾄﾞﾙﾌﾞﾗｳﾝF同等）、透湿防水ｼｰﾄ（ﾀｲﾍﾞｯｸ同等）、鉄骨縦胴縁C-60*30*10*2.3 @450 水切40、縦見切：木下地GLｶﾗｰ鉄板t=0.4巻き、軒天、ｽﾀｰﾄ、同質連結他、塗壁取合ｼｰﾘﾝｸﾞ
軒　天	ｹｲ酸ｶﾙｼｳﾑ板t=6 ｼﾞｮｲﾅｰ張910*910(亜鉛ﾒｯｷ底目地)AEP塗り　軒裏換気材[ｲｰｳﾞｽﾍﾞﾝﾂ21 同等]

基　礎	既存床下換気口：鋳鉄製換気金具撤去し、鉄筋補強ｺﾝｸﾘｰﾄ埋め ｾﾒﾝﾄ系下地調整塗材、基礎ｶﾞｰﾄﾞ同等塗り
ポーチ	ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾞﾃ押え
犬走り	既存犬走りのまま、一部解体処分鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ打ち直し
樋	軒樋：住宅用軒樋（ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ　ﾊﾟﾗｽｹｱU105同等、吊具：専用ﾎﾟﾘｶｰﾎﾞﾈｰﾄ） 竪樋：住宅用竪樋（ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ　PC30同等、控金具：L字足ﾀｯﾋﾟﾝｸﾞﾈｼﾞ止め）
建　具	非住宅向けｱﾙﾐ樹脂複合窓（YKKｴﾋﾟｿｰﾄﾞNEO-LB同等） ｱﾊﾟｰﾄ用玄関ﾄﾞｱ（ﾚｶﾞｰﾛV型同等）
ＰＣ版補強	現場調査後、躯体修繕図を作成 ｴﾎﾟｷｼ樹脂ﾓﾙﾀﾙ補修、ﾓﾙﾀﾙ補修、防錆塗装、ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入
その他	ｱﾙﾐ自在物干金物（杉田ｴｰｽ　ｱﾙﾐ自在物干金物900同等） 浸透桝：ｺﾝｸﾘｰﾄ2次製品450角、鋼製ｸﾞﾚｰﾁﾝｸﾞ蓋　　地先境界ﾌﾞﾛｯｸ120*120*1000 砕石敷：砂利下専用草ｼｰﾄt0.4（高密度不識布）ﾋﾟﾝ止め+RC40 t 100（位置外構図参照）

内　部　仕　上　表

階	室　名	床	床高	巾　木		壁	天　井	廻り縁	Ｃ　Ｈ	備　考	室　名
1	玄関	防塵塗床 ｺﾝｸﾘｰﾄ下地ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ	-170	木製21*60 WP 防塵塗床 ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ	大壁	ﾗﾜﾝ合板t=5.5+唐松本実t=12目透かし張りWP　入隅、出隅取付 LGS50下地（外壁側以下共通）　LGS100下地（片引き戸ヶ所、引込み戸ヶ所以下共通）	防湿ｼｰﾄt=0.2(ﾀﾞﾝﾀｲﾄ同等) ﾗﾜﾝ合板 t =4+唐松本実t=12目透かし張りWP LGS下地	木製25*35 WP	2470		玄関
	ホール	複合ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞt=12張り 鋼製床下地組、ﾗﾜﾝ合板t=15捨張り	±0	木製21*60 WP	大壁	ﾗﾜﾝ合板t=5.5+唐松本実t=12目透かし張りWP 引込戸戸袋ヶ所：ﾗﾜﾝﾗﾝﾊﾞｰｺｱt=18+唐松本実t=12目透かし張りWP　入隅、出隅取付 LGS65・LGS100下地	同上 同上	同上	2300	玄関框30*75（東洋ﾃｯｸｽ同等特注品床合わせ） 縦手摺（φ35、L=900、両端ｴﾝﾄﾞｴﾙﾎﾞYKK同等） 両端ｿｹｯﾄ（YKKapｼﾙﾊﾞｰ同等）	ホール
	トイレ	ﾗﾜﾝ合板t=9(T2)下地ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄt=2.5貼り 同上	±0	ｿﾌﾄ巾木 H=60	大壁	石膏ﾎﾞｰﾄﾞt=12.5 ﾋﾞﾆｰﾙｸﾛｽ貼り ｸﾛｽ下地合板t=12.5 ﾋﾞﾆｰﾙｸﾛｽ貼り	防湿ｼｰﾄt=0.2(ﾀﾞﾝﾀｲﾄ同等) 石膏ﾎﾞｰﾄﾞt=9.5 ﾋﾞﾆｰﾙｸﾛｽ貼り LGS下地	化粧廻り縁 H=35	2300	ﾗｲﾆﾝｸﾞ天端：（ｱｲｶﾎﾟｽﾄﾌｫｰﾑKPA W=150同等）	トイレ
	洗面脱衣	同上 同上	±0	同上	大壁	石膏ﾎﾞｰﾄﾞt=12.5 ﾋﾞﾆｰﾙｸﾛｽ貼り、一部防水石膏ﾎﾞｰﾄﾞt=12.5+ﾒﾗﾐﾝ化粧合板 t =3貼り（ｾﾗｰﾙ同等） 引込戸戸袋ヶ所：ﾗﾜﾝﾗﾝﾊﾞｰｺｱt=15+石膏ﾎﾞｰﾄﾞt=9.5ﾋﾞﾆｰﾙｸﾛｽ LGS50・65・100下地　　一部石膏ﾎﾞｰﾄﾞt=15	同上 同上	同上	2300	鋼製床吹出口90*600（手動開閉式） （環境創機同等以下共通） 床下点検口600角ｱﾙﾐ製 （DAIKEN FAF同等以下共通）	洗面脱衣
	浴室	ﾕﾆｯﾄﾊﾞｽ（設備工事）	-57		大壁	一部石膏ﾎﾞｰﾄﾞt=15 一部LGS50下地	防湿ｼｰﾄt=0.2(ﾀﾞﾝﾀｲﾄ同等) 石膏ﾎﾞｰﾄﾞt=9.5 LGS下地			出入口枠：化粧造作材	浴室
	洋室1	複合ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞt=12張り 鋼製床下地組、ﾗﾜﾝ合板t=15捨張り	±0	化粧巾木 H=60	大壁	石膏ﾎﾞｰﾄﾞt=12.5 ﾋﾞﾆｰﾙｸﾛｽ貼り、一部ｸﾛｽ下地合板t=12.5（地球Mｸﾛｽ同等）ｸﾛｽ目地 LGS50・65・100下地	防湿ｼｰﾄt=0.2(ﾀﾞﾝﾀｲﾄ同等) 石膏ﾎﾞｰﾄﾞt=9.5 ﾋﾞﾆｰﾙｸﾛｽ貼り LGS下地	化粧廻り縁 H=35	2300	鋼製床吹出口90*600（手動開閉式） ｽﾃﾝﾚｽｶｰﾃﾝﾚｰﾙﾀﾞﾌﾞﾙ、ふさ掛け（TOSOｾﾚｽﾀ同等）	洋室1
	洋室2	同上 同上	±0	同上	大壁	同上 LGS50・100下地	同上 同上	同上	2300	鋼製床吹出口90*600（手動開閉式） ｽﾃﾝﾚｽｶｰﾃﾝﾚｰﾙﾀﾞﾌﾞﾙ、ふさ掛け（TOSOｾﾚｽﾀ同等）	洋室2
	LDK	複合ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞt=12張り 鋼製床下地組、ﾗﾜﾝ合板t=15捨張り	±0	同上	大壁	石膏ﾎﾞｰﾄﾞt=12.5 +ﾋﾞﾆｰﾙｸﾛｽ貼(不燃NM-8619+準不燃QM-0822)　一部石膏ﾎﾞｰﾄﾞt=15 流し台廻り：石膏ﾎﾞｰﾄﾞt=12.5+ﾒﾗﾐﾝ化粧合板t=3貼（ｾﾗｰﾙ同等）【不燃NM-2183】 目地ｼﾘﾝｸﾞ、ｱﾙﾐ専用見切 LGS50・65・100下地	防湿ｼｰﾄt=0.2(ﾀﾞﾝﾀｲﾄ同等) 石膏ﾎﾞｰﾄﾞt=12.5 +ﾋﾞﾆｰﾙｸﾛｽ貼(不燃NM-8619+準不燃QM-0822) LGS下地 下り壁：石膏ﾎﾞｰﾄﾞt=9.5 ﾋﾞﾆｰﾙｸﾛｽ貼り LGS下地	同上	2300 2100、1950（下り壁）	鋼製床吹出口90*600（手動開閉式） ｽﾃﾝﾚｽｶｰﾃﾝﾚｰﾙﾀﾞﾌﾞﾙ、ふさ掛け（TOSOｾﾚｽﾀ同等） 床下点検口600角ｱﾙﾐ製、天井点検口450角ｱﾙﾐ製 ﾗｲﾆﾝｸﾞ天端・側板：（ｱｲｶﾎﾟｽﾄﾌｫｰﾑKPA W=150同等） 流し台、ｺﾝﾛ台、吊戸棚	LDK
	収納1	ﾗﾜﾝ合板（T2)t=9.0張り 鋼製床下地組、ﾗﾜﾝ合板t=15捨張り	±0	同上	大壁	ﾗﾜﾝ合板（T2）t=4.0+5.5張り　一部石膏ﾎﾞｰﾄﾞt=15 LGS50・65下地	防湿ｼｰﾄt=0.2(ﾀﾞﾝﾀｲﾄ同等) ﾗﾜﾝ合板（T2）t=5.5張り LGS下地	同上	2300	枕棚：集成材t=25WP ﾊﾝｶﾞｰﾊﾟｲﾌﾟ、端部ｿｹｯﾄ金具	収納1
	収納2	同上 同上	±0	同上	大壁	同上　　一部石膏ﾎﾞｰﾄﾞt=15 LGS65・100下地	同上 同上	同上	2300	棚：集成材t=25WP 中段：押入棚板（ﾀﾞｲｹﾝ同等） ﾊﾝｶﾞｰﾊﾟｲﾌﾟ、端部ｿｹｯﾄ金具	収納2

特　記　事　項

＜断熱材＞　外壁・床下外周部：現場発泡ｳﾚﾀﾝ（ｱｸｱﾌｫｰﾑA種1H　SEKISUIｿﾌﾗﾝR同等）t=40
天井：高性能ｸﾞﾗｽｳｰﾙ16K t=155（ﾊｳｽﾛﾝ同等）、防湿ｼｰﾄt=0.2（ﾀﾞﾝﾀｲﾄ同等）

＜防　湿＞　建物部分ｺﾝｸﾘｰﾄ下全面：ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝｼｰﾄ敷込t=0.15

＜塗　床＞　防塵塗床：（ｱﾄﾑ　ﾌﾛｱｰﾄｯﾌﾟ　＃7000同等）

＜鋼製床組＞　三洋工業　ｽﾘｰﾍﾞｰｽ標準ﾀｲﾌﾟ601同等
床下点検口　DAIKEN FAF600角木質ﾌﾛｱ材用簡易ﾛｯｸ付
ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ箇所はﾗﾜﾝ合板t=3+ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ張りt=12、ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ箇所は、ﾗﾜﾝ合板t=12+ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄt=2.5

＜塗　装＞　木部は全てWP塗
WP：木材保護塗料（ｵｽﾓｶﾗｰ同等）

＜内　装＞　複合ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ：東洋ﾃｯｸ　ﾗｲﾄｳｵｰｸ　771同等　玄関框30*75（東洋ﾃｯｸｽ同等特注品床合わせ）
ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ：ﾀｼﾞﾏ　ﾏｰﾊﾞﾘｭｰﾑ　ﾏｰﾌﾞﾙ同等
ﾋﾞﾆｰﾙｸﾛｽ仕上の出隅箇所の下地には、樹脂製ｺｰﾅｰ下地材を施工する。

＜木　材＞　造作材:巾木・額縁・廻縁[米栂]
収納造作材：根太・見付材［米栂］
集成材［米栂］
唐松板材は、「信州木材認定品」上伊那地域産材を使用する

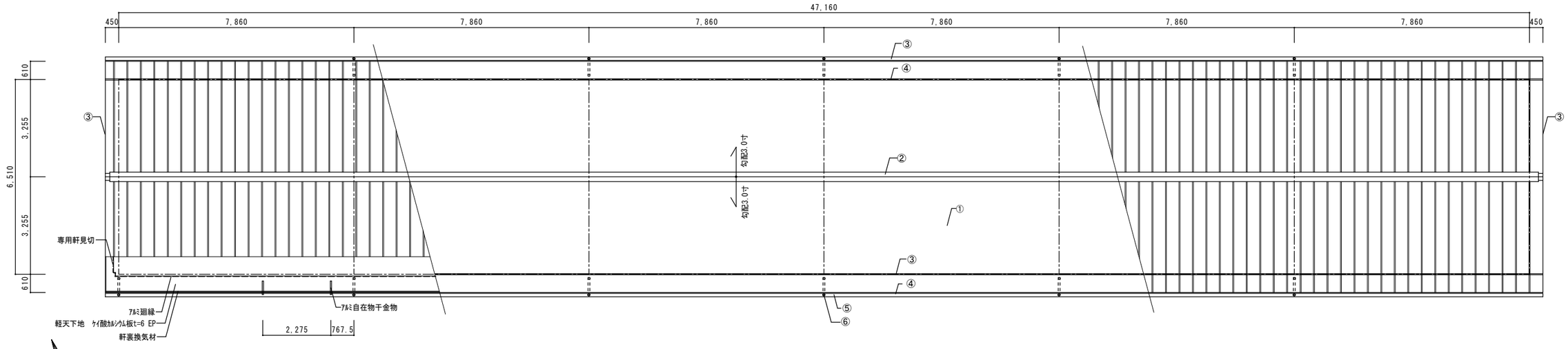
＜仕上ﾕﾆｯﾄ及びその他工事・雑工事＞　流し台：W1200×D550×H800（ﾘｸｼﾙ　GKｼﾘｰｽﾞ）機械設備工事
ｺﾝﾛ台：W750×D550×H623　（ﾘｸｼﾙ　GKｼﾘｰｽﾞ）機械設備工事、ｺﾝﾛ用ﾊﾞｯｸｶﾞｰﾄﾞ、ｻｲﾄﾞｶﾊﾞｰ機械設備工事
吊戸棚：不燃仕様W1200×D367×H500（ﾘｸｼﾙ　GKｼﾘｰｽﾞ）機械設備工事

＜内装制限等＞・PB12.5　不燃（NM-8619）　・防水PB12.5　不燃（NM-9639）　・ｹｲｶﾙ板t=6　不燃（NM-8576）
・PB12.5　不燃（NM-8919）+ﾋﾞﾆｰﾙｸﾛｽ　壁紙準不燃（QM-0822）
・PB9.5　準不燃（QM-9828）　・防水PB9.5　準不燃（QM-9828）　・ｹｲｶﾙ板t=6+EP不燃（NM-8585）

＜そ の 他＞　内装材（下地共、接着剤、内装建具、断熱材等）は全てF☆☆☆☆とする
間仕切りは通気止めとする（木材）

一級建築士事務所登録(伊那)Ｋ第7X201号
株式会社 田原建築設計事務所
〒396-0022 伊那市御園1223-3　TEL(0265)72-7171
一級建築士 登録第 279775 号　田 原　健 一（管理建築士）
一級建築士 登録第 279775 号　田 原　健 一

担当	製図	備考	CONSTRUCTION NAME	DRAWING NAME	SCALE	PLACE	DATE	SHEET NO
			令和７年度 市営住宅若宮団地リフォーム工事（195～200号）	2LDK（195～200）仕上表	No Scale	伊那市	R 07・04	Ａ－12

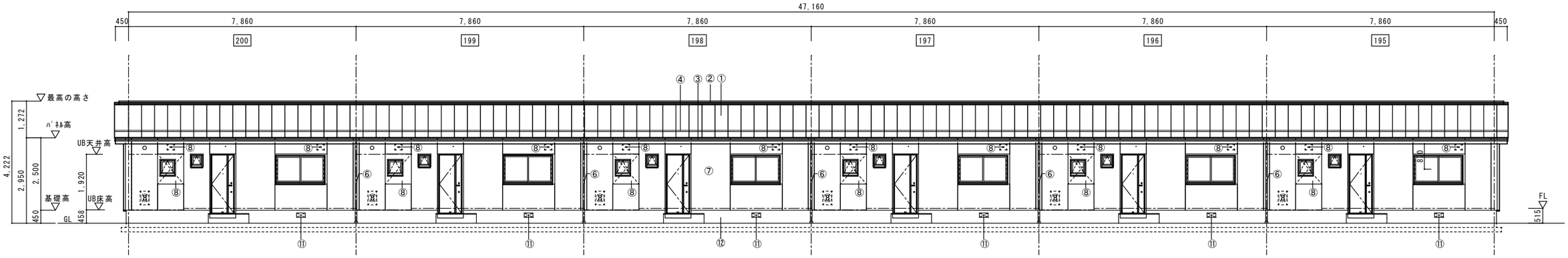


屋 根 伏 図　S=1/100

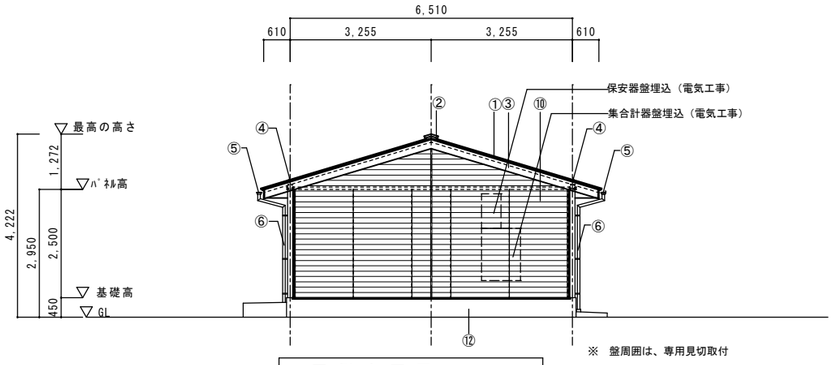
凡例	
①	GLｶﾗｰ鉄板縦平葺(働き巾455) t =0.4 勾配3.5/10　鋼板製軒先ｷｬｯﾌﾟ外付けﾀｲﾌﾟ （防水・立平ﾛｯｸ25型平ﾘﾌﾟﾀｲﾌﾟ同等）　、 野地板：針葉樹合板　t=12増張り+ｺﾞﾑｱｽﾙｰﾌｨﾝｸﾞ
②	換気棟（ハニカム構造換気部材　リッチベンツ同等）+胸包み：GLｶﾗｰ鉄板t=0.4,エプロン面戸
③	破風・鼻隠し：木下地GLｶﾗｰ鉄板t=0.4、唐草・水切・雨押えGLｶﾗｰ鉄板t=0.4
④	雪止金具：亜鉛ﾒｯｷｱﾝｸﾞﾙ L-40*40塗装品　受け金物ﾊﾞｰﾌｪｸﾄﾛｯｸ同等
⑤	軒樋：住宅用軒樋（ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ　ﾊﾞﾗｽｹｱU105同等、吊具：専用ﾎﾞﾘｶｰﾎﾞﾈｰﾄ）
⑥	竪樋：住宅用竪樋（ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ　PC30同等、控金具：L字足ﾀｯﾋﾟﾝｸﾞﾈｼﾞ止め）

2LDK（195～200）平面図　S=1/100

一級建築士事務所登録(伊那)K第7X201号 株式会社 田原建築設計事務所 〒396-0022 伊那市御園1223-3　TEL(0265)72-7171	一級建築士 登録第 279775 号 田 原　健 一（管理建築士） 一級建築士 登録第 279775 号 田 原　健 一		担当	製図	備考	CONSTRUCTION NAME 令和７年度 市営住宅若宮団地リフォーム工事（195～200号）	DRAWING NAME 2LDK（195～200）平面図・屋根伏図	SCALE A2:S=1/100 A3:71%縮小	PLACE 伊那市	DATE R 07・04	SHEET NO A－13

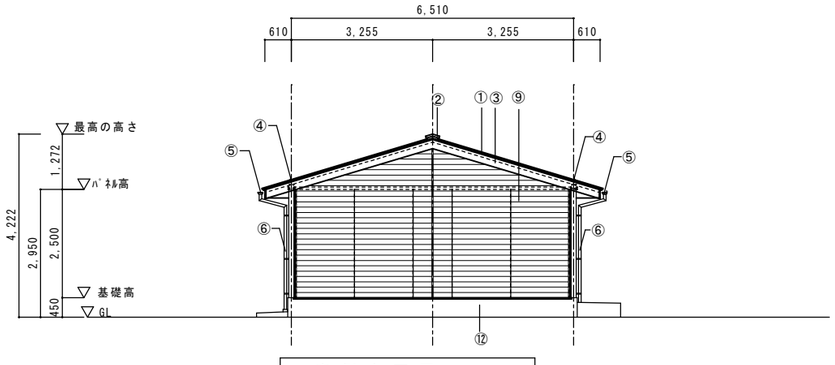


北 側 立 面 図　S=1/100

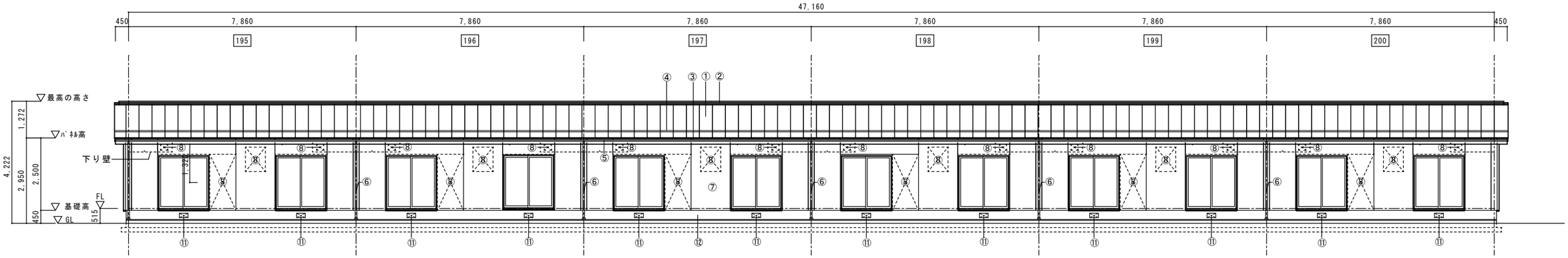


※ 盤周囲は、専用見切取付

西 側 立 面 図　S=1/100



東 側 立 面 図　S=1/100



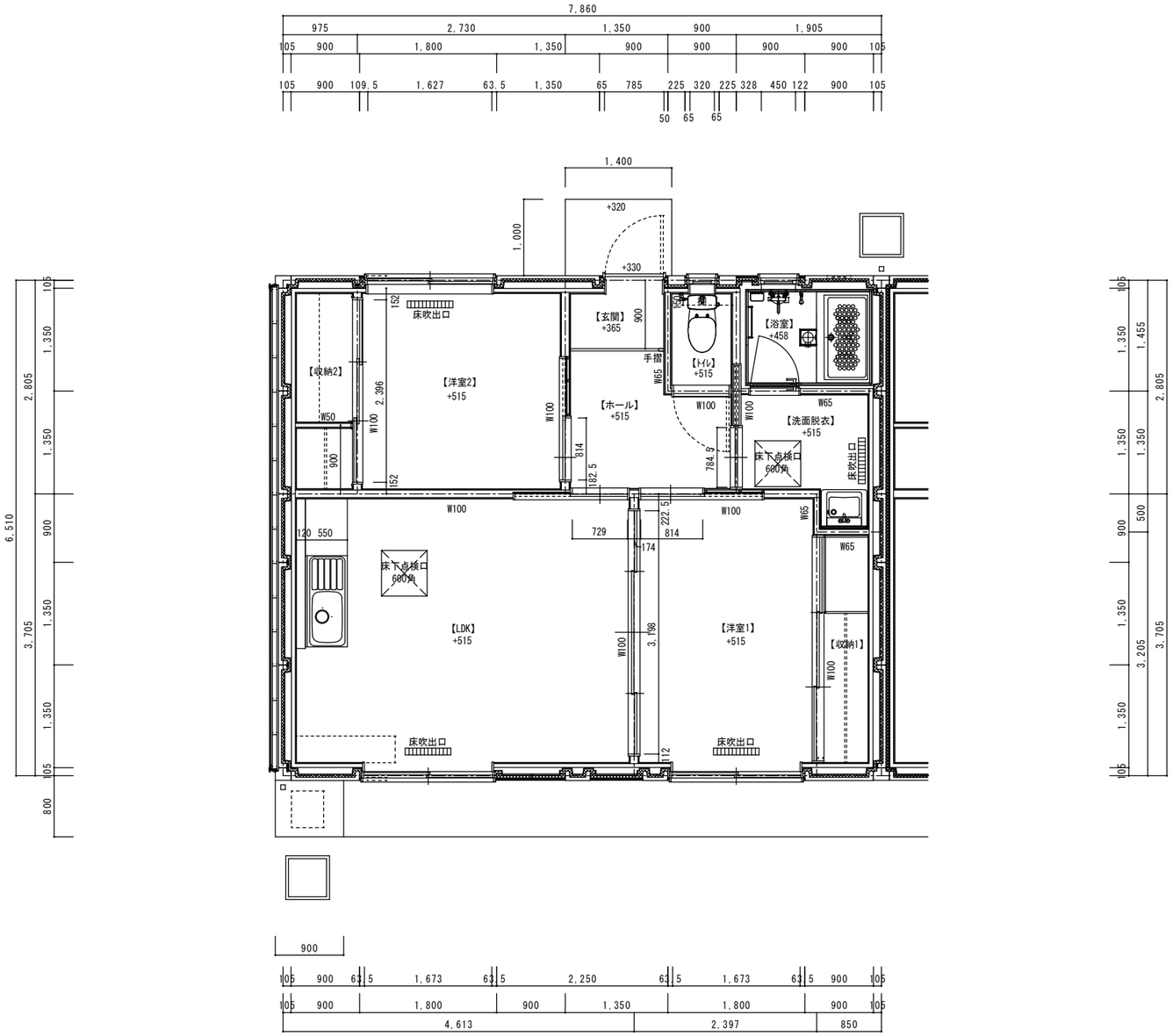
南 側 立 面 図　S=1/100

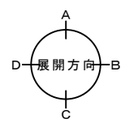
凡例

①	GLｶﾗｰ鉄板縦平葺(働き巾455) t=0.4 勾配3/10　鋼板製軒先ｷｬｯﾌﾟ外付けﾀｲﾌﾟ (防水・立平ﾛｯｸ25型平リブﾀｲﾌﾟ同等)、 野地板：針葉樹合板　t=12 N50-@150川の字張り+ｺﾞﾑｱｽﾙｰﾌｨﾝｸﾞ	⑦	外壁：水洗い（7MPA程度の水洗い） キクスイ同等　下塗り：可とう系改修塗材E、PC版欠損ヶ所：ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄ充填工法 鉄筋錆落とし防錆処理、断面修復（ｷｸｽｲBR工法同等） 上塗り：トップコート塗布（1液系弱溶剤形ｱｸﾘﾙｼﾘｺﾝ樹脂塗料）2回塗り 窓廻り変成ｼﾘｺﾝｼｰﾘﾝｸﾞ充填　PC版継ぎ目変成ｼﾘｺﾝｼｰﾘﾝｸﾞ充填	⑩	西妻側外壁　金属ｻｲﾃﾞｨﾝｸﾞt=15横張（ﾘｸｼﾙDan sidingﾌﾞﾚｼｬｽｳｯﾄSWﾌﾞﾚｼｬｽﾐﾄﾞﾙﾌﾞﾗｳﾝF同等） 透湿防水ｼｰﾄ（ﾀｲﾍﾞｯｸ同等）、木縦胴縁18*45 @450、鉄骨縦胴縁C-60*30*10*2.3@450 水切40、縦見切：木下地GLｶﾗｰ鉄板t=0.4巻き、軒天、ｽﾀｰﾄ、同質連結他、壁取合ｼｰﾘﾝｸﾞ 既存ｻｲﾃﾞｨﾝｸﾞ・断熱材・横胴縁撤去
②	換気棟（ハニカム構造換気部材　リッチベンツ同等）+棟包み：GLｶﾗｰ鉄板t=0.4,エプロン面戸				
③	幕板・破風巻：木下地GLｶﾗｰ鉄板t=0.4、唐草・水切・雨押えGLｶﾗｰ鉄板t=0.4	⑧	開口部塞ぎ　C-60*30*10*2.3下地組、針葉樹構造用合板t=9、透湿防水ｼｰﾄ（ﾀｲﾍﾞｯｸ同等） 両面ｶﾞﾗｽ繊維ﾈｯﾄ張ｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙ板（ﾃﾞｺﾗｸﾘｰﾄ同等）t=12.5 吉野ﾌｧｲﾊﾞｰﾍﾞｰｽｺｰﾄ同等塗り、ﾄｯﾌﾟｺｰﾄ塗布、既存壁取合ヶ所は目地切ｼｰﾘﾝｸﾞ充填 開口部廻りも塞ぐ	⑪	既存床下換気口：鋳鉄製換気金具撤去し、鉄筋補強ｺﾝｸﾘｰﾄ埋め
④	雪止金具：L-40*40塗装品　受け金物ﾊﾞｰﾌｪｸﾄﾛｯｸ同等			⑫	ｾﾒﾝﾄ系下地調整塗材、基礎ｶﾞｰﾄﾞ同等塗り
⑤	軒樋：住宅用軒樋（ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ　ﾊﾟﾗｽｹｱU105同等、吊具：専用ﾎﾟﾘｶｰﾎﾞﾈｰﾄ）	⑨	東妻側外壁　金属ｻｲﾃﾞｨﾝｸﾞt=15横張（ﾘｸｼﾙDan sidingﾌﾞﾚｼｬｽｳｯﾄSWﾌﾞﾚｼｬｽﾐﾄﾞﾙﾌﾞﾗｳﾝF同等） 透湿防水ｼｰﾄ（ﾀｲﾍﾞｯｸ同等）、木縦胴縁18*45 @450、水切40、軒天、ｽﾀｰﾄ、同質連結他 壁取合ｼｰﾘﾝｸﾞ、既存ｻｲﾃﾞｨﾝｸﾞ撤去、断熱材・横胴縁補修		
⑥	竪樋：住宅用竪樋（ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ　PC30同等、控金具：L字足ﾀｯﾋﾟﾝｸﾞﾈｼﾞ止め）				

一級建築士事務所登録(伊那)K第7X201号
株式会社 田原建築設計事務所
〒396-0022 伊那市御園1223-3　TEL(0265)72-7171
一級建築士 登録第 279775 号
田 原　健 一（管理建築士）
一級建築士 登録第 279775 号
田 原　健 一

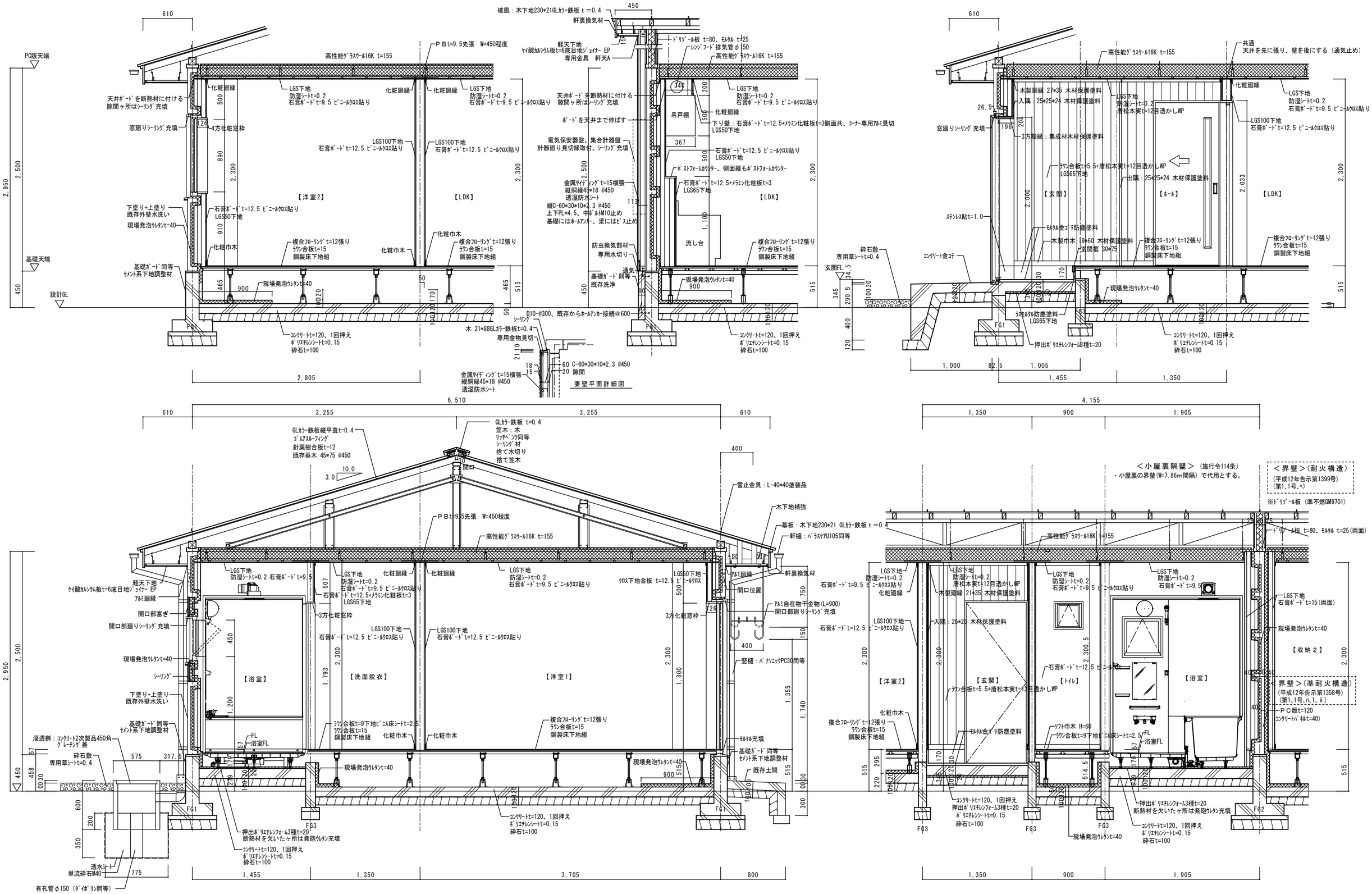
担当	製図	備考	CONSTRUCTION NAME	DRAWING NAME	SCALE	PLACE	DATE	SHEET NO
			令和７年度 市営住宅若宮団地リフォーム工事（195～200号）	2LDK（195～200）立面図	A2:S=1/100 A3:71%縮小	伊那市	R 07・04	A－14



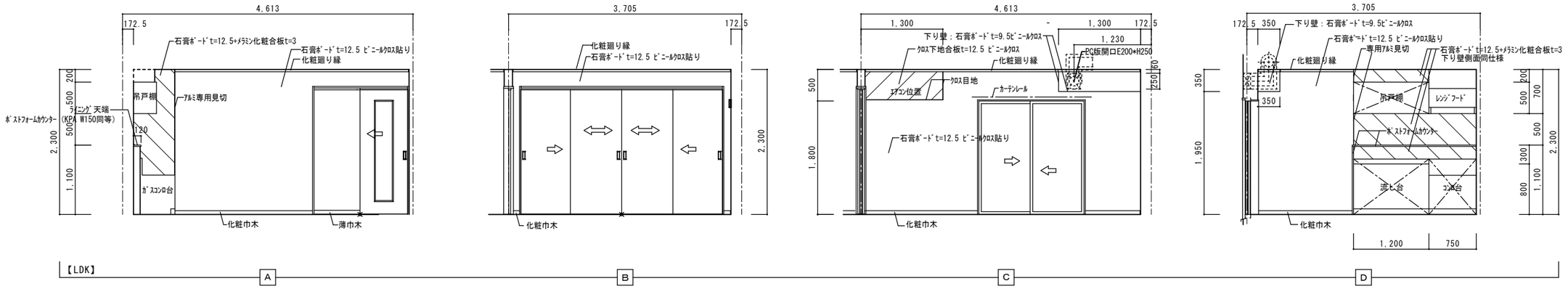


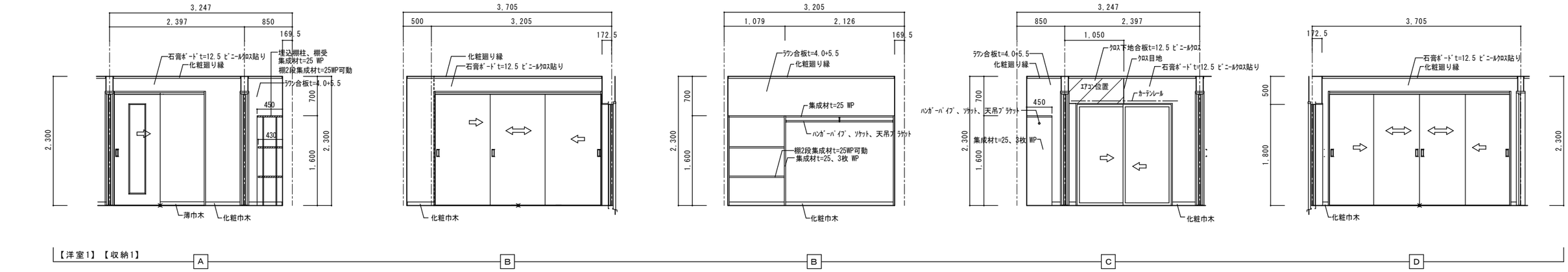
2LDK（195～200）平面詳細図　S=1/50

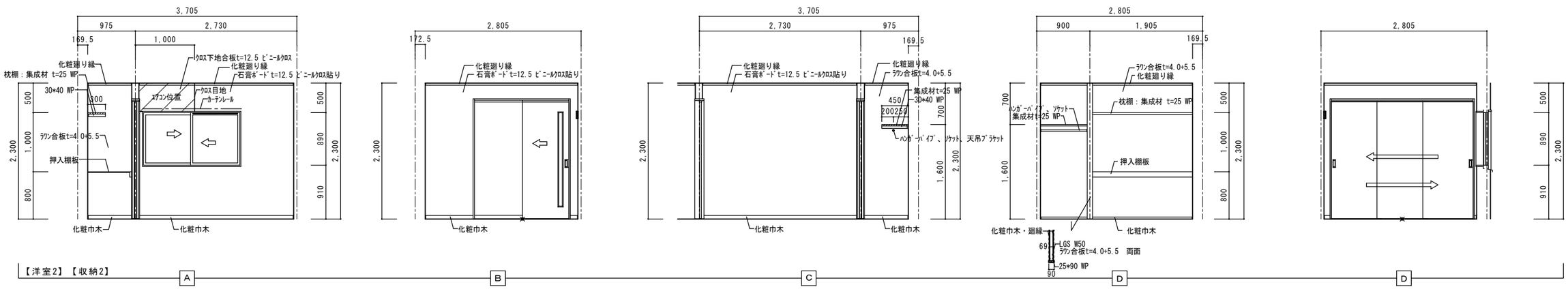
一級建築士事務所登録(伊那)K第7X201号 株式会社 田原建築設計事務所 〒396-0022 伊那市御園1223-3 TEL(0265)72-7171	一級建築士 登録第 279775 号 田 原 健 一（管理建築士） 一級建築士 登録第 279775 号 田 原 健 一	担当	製図	備考	CONSTRUCTION NAME 令和７年度 市営住宅若宮団地リフォーム工事（195～200号）	DRAWING NAME 2LDK（195～200）平面詳細図	SCALE A2:S=1/50 A3:71%縮小	PLACE 伊那市	DATE R 07・04	SHEET NO A－15



一級建築士事務所登録(伊那)K第7X201号 株式会社 田原建築設計事務所 〒396-0022 伊那市御園1223-3 TEL(0265)72-7171	一級建築士 登録第 279775 号 田 原 健 一（管理建築士） 一級建築士 登録第 279775 号 田 原 健 一	担当	製図	備考	CONSTRUCTION NAME 令和７年度 市営住宅若宮団地リフォーム工事（195～200号）	DRAWING NAME 2LDK（195～200）矩計図	SCALE A2:S=1/50 A3:71%縮小	PLACE 伊那市	DATE R 07・04	SHEET NO A－16

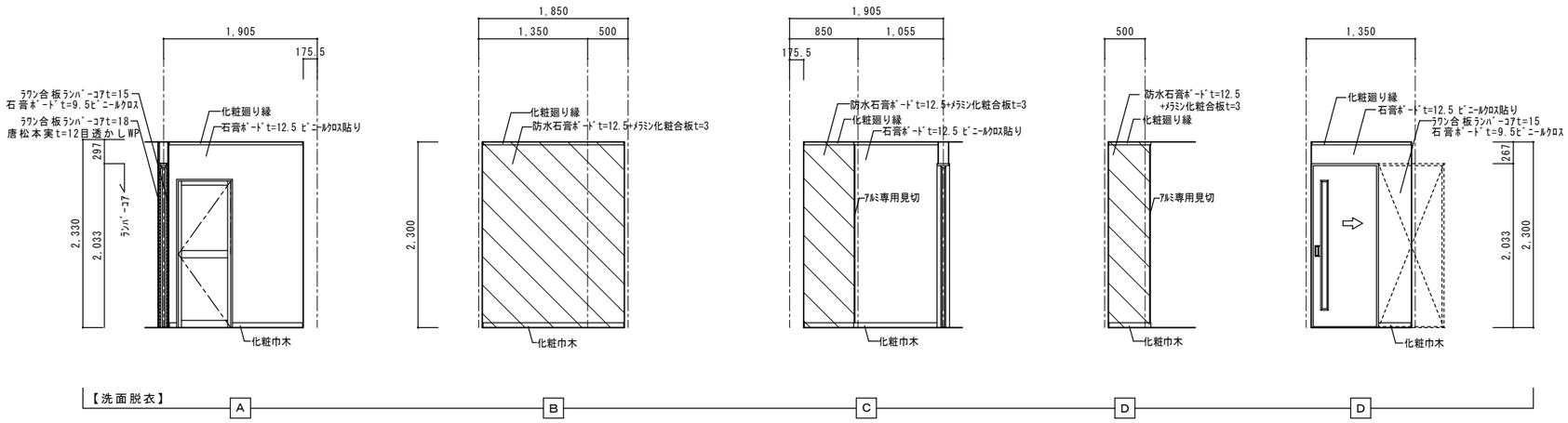


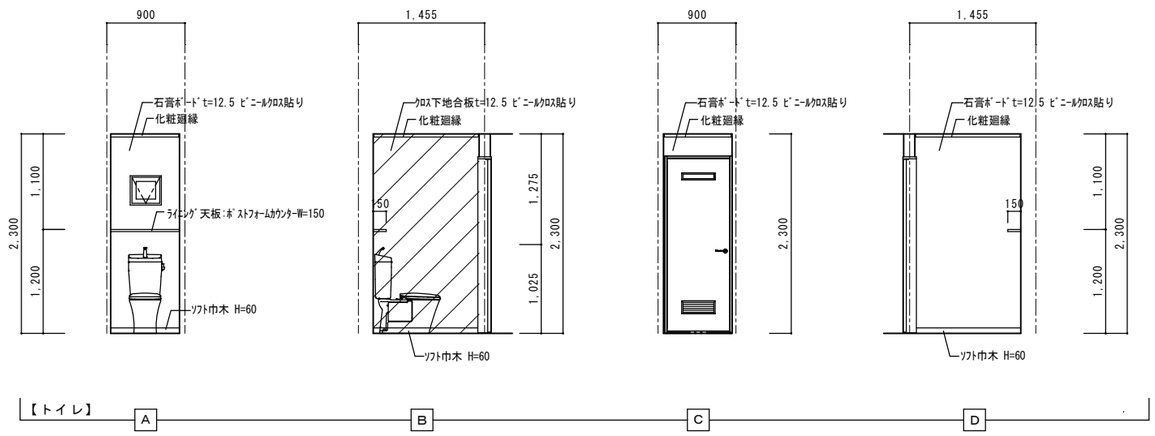


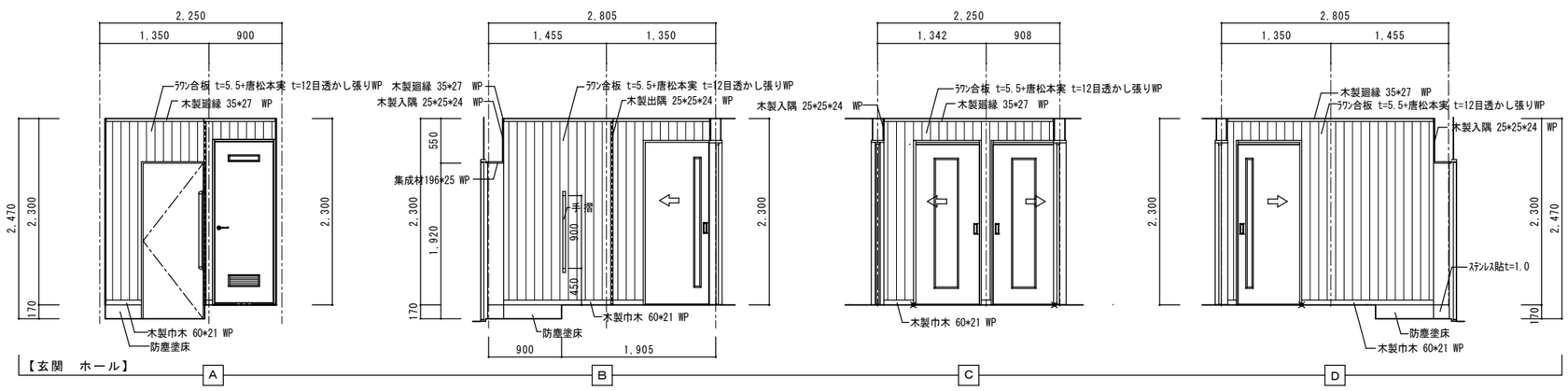


一級建築士事務所登録(伊那)K第7X201号
株式会社 田原建築設計事務所
〒396-0022 伊那市御園1223-3 TEL(0265)72-7171
一級建築士 登録第 279775 号 田原 健一（管理建築士）
一級建築士 登録第 279775 号 田原 健一

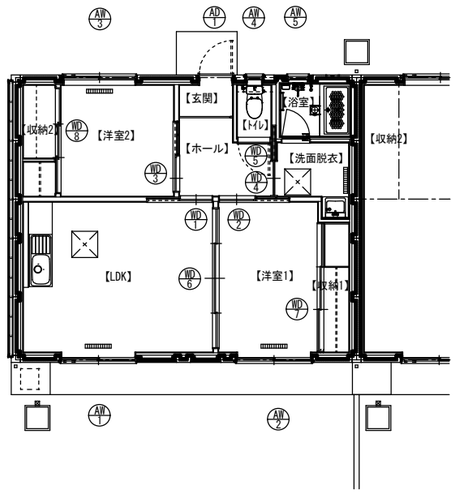
担当	製図	備考	CONSTRUCTION NAME	DRAWING NAME	SCALE	PLACE	DATE	SHEET NO
			令和７年度 市営住宅若宮団地リフォーム工事（195～200号）	2LDK（195～200）展開図 1	A2:S=1/50 A3:71%縮小	伊那市	R 07・04	A－17



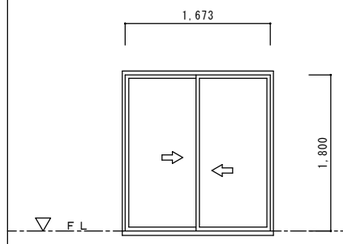
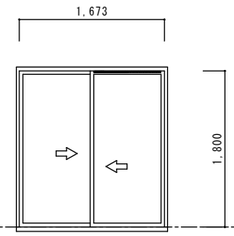
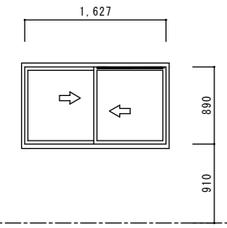
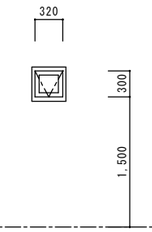


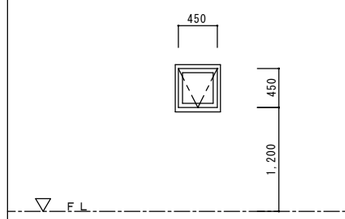
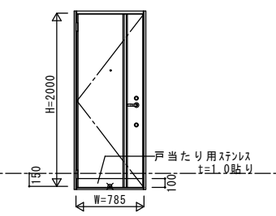
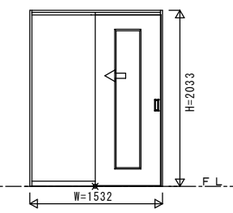
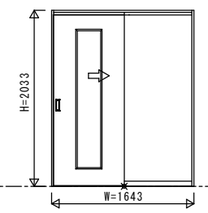


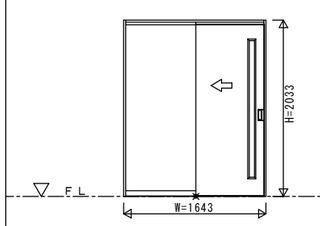
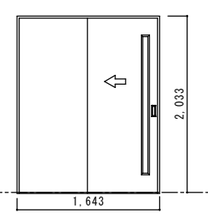
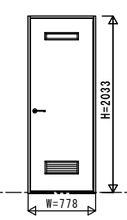
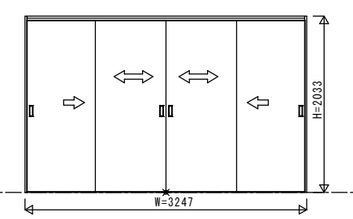
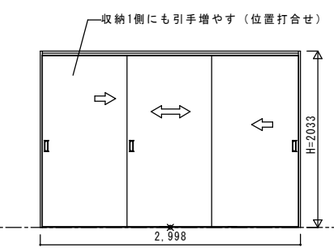
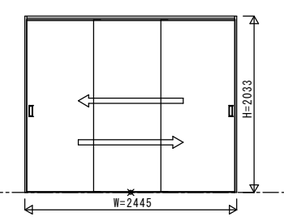
一級建築士事務所登録(伊那)Ｋ第7X201号 株式会社 田原建築設計事務所 〒396-0022 伊那市御園1223-3 TEL(0265)72-7171	一級建築士 登録第 279775 号 田 原 健 一（管理建築士） 一級建築士 登録第 279775 号 田 原 健 一	担当	製図	備考	CONSTRUCTION NAME 令和７年度 市営住宅若宮団地リフォーム工事（195～200号）	DRAWING NAME 2LDK（195～200）展開図 2	SCALE A2:S=1/50 A3:71%縮小	PLACE 伊那市	DATE R 07・04	SHEET NO Ａ－18



2LDKキープラン S=1/100

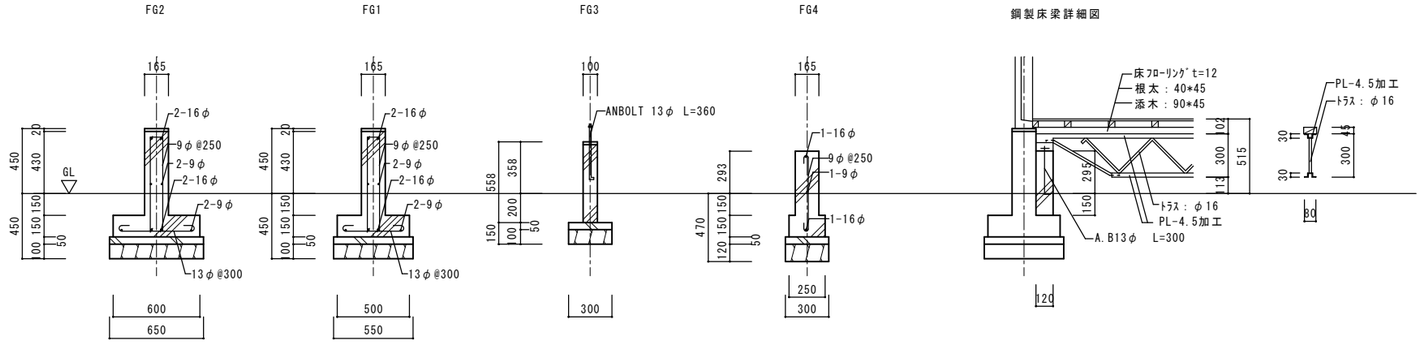
記号・位置・数量	AW 1 LDK 1ヶ所（戸）×6 6ヶ所	AW 2 洋室1 1ヶ所（戸）×6 6ヶ所	AW 3 洋室2 1ヶ所（戸）×6 6ヶ所	AW 4 トイレ 1ヶ所（戸）×6 6ヶ所
形状・寸法	 [ｴﾋﾞｿｰﾄﾞNEO-LB 同等]	 [ｴﾋﾞｿｰﾄﾞNEO-LB 同等]	 [ｴﾋﾞｿｰﾄﾞNEO-LB 同等]	 [ｴﾋﾞｿｰﾄﾞNEO-LB 同等]
種　類	ｱﾙﾐ非木造住宅向け　ｱﾙﾐ樹脂複合窓　引違窓（2枚建）ﾃﾗｽﾀｲﾌﾟ	ｱﾙﾐ非木造住宅向け　ｱﾙﾐ樹脂複合窓　引違窓（2枚建）ﾃﾗｽﾀｲﾌﾟ	ｱﾙﾐ非木造住宅向け　ｱﾙﾐ樹脂複合窓　引違窓（2枚建）窓ﾀｲﾌﾟ	ｱﾙﾐ非木造住宅向け　ｱﾙﾐ樹脂複合窓　内倒し窓
見 込 み	86	86	86	86
仕　上	ｱﾙﾐｶﾗｰ	ｱﾙﾐｶﾗｰ	ｱﾙﾐｶﾗｰ	ｱﾙﾐｶﾗｰ
ガ ラ ス	複層ｶﾞﾗｽ ﾌﾛｰﾄ3+16+3	複層ｶﾞﾗｽ ﾌﾛｰﾄ3+16+3	複層ｶﾞﾗｽ ﾌﾛｰﾄ3+16+3	複層ｶﾞﾗｽ 型4+15+3
附属金物	ｸﾚｾﾝﾄ　全長引手　ｱﾙﾐ上見切・立て見切・・ｱﾙﾐ下見切［55mm］ 付属金物一式　網戸：ｸﾘｱﾈｯﾄ同等	ｸﾚｾﾝﾄ　全長引手　ｱﾙﾐ上見切・立て見切・ｱﾙﾐ下見切［55mm］ 換気かまち 付属金物一式　網戸：ｸﾘｱﾈｯﾄ同等	ｸﾚｾﾝﾄ　全長引手　ｱﾙﾐ上見切・立て見切・ｱﾙﾐ下見切［55mm］ 換気かまち 付属金物一式　網戸：ｸﾘｱﾈｯﾄ同等	ﾄｯﾌﾟﾗｯﾁ　ｱﾙﾐ上見切・立て見切・ｱﾙﾐ下見切［55mm］ 付属金物一式　網戸：ｸﾘｱﾈｯﾄ同等

記号・位置・数量	AW 5 浴室 1ヶ所（戸）×6 6ヶ所	AD 1 玄関 1ヶ所（戸）×6 6ヶ所	WD 1 LDK 1ヶ所（戸）×6 6ヶ所	WD 2 洋室1 1ヶ所（戸）×6 6ヶ所
形状・寸法	 [ｴﾋﾞｿｰﾄﾞNEO-LB 同等]			
種　類	ｱﾙﾐ非木造住宅向け　ｱﾙﾐ樹脂複合窓　内倒し窓	ｱﾊﾟｰﾄ用玄関ﾄﾞｱ	片引き戸	片引き戸
見 込 み	86	77	枠見込　156	枠見込　156
仕　上	ｱﾙﾐｶﾗｰ	非防火仕様　ﾚｶﾞｰﾛV型　D2仕様同等	木質ｲﾝﾃﾘｱ建材［ﾗﾌｫﾚｽﾀTG同等］	木質ｲﾝﾃﾘｱ建材［ﾗﾌｫﾚｽﾀTG同等］
ガ ラ ス	複層ｶﾞﾗｽ 型4+15+3		2mm樹脂板	2mm樹脂板
附属金物	ﾄｯﾌﾟﾗｯﾁ　ｱﾙﾐ上見切・立て見切・ｱﾙﾐ下見切［55mm］ 付属金物一式　網戸：ｸﾘｱﾈｯﾄ同等	ﾚﾊﾞｰﾊﾝﾄﾞﾙ　鍵2ﾛｯｸ　ﾎﾞｽﾄﾛ・受箱　ﾄﾞｱｸﾛｰｻﾞｰ　、ｻｲﾝ ﾄﾞｱｽｺｰﾌﾟ　ﾄﾞｱｶﾞｰﾄﾞ　戸当たり　付属金物一式	ﾉﾝｹｰｼﾝｸﾞ　ﾗｳﾝﾄﾞﾚｰﾙ　薄敷居　引手　鍵無　薄巾木 付属金物一式	ﾉﾝｹｰｼﾝｸﾞ　ﾗｳﾝﾄﾞﾚｰﾙ　薄敷居　引手　鍵無　薄巾木 付属金物一式

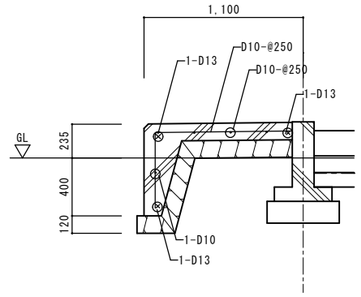
記号・位置・数量	WD 3 洋室2 1ヶ所（戸）×6 6ヶ所	WD 4 洋室脱衣 1ヶ所（戸）×6 6ヶ所	WD 5 トイレ 1ヶ所（戸）×6 6ヶ所	WD 6 LDK 1ヶ所（戸）×6 6ヶ所	WD 7 収納1 1ヶ所（戸）×6 6ヶ所	WD 8 収納2 1ヶ所（戸）×6 6ヶ所
形状・寸法						
種　類	片引き戸	片引込み戸	トイレドア	引違戸（4本建）	引違戸（3本建）	ｸﾛｰｾﾞｯﾄﾄﾞｱ引戸ﾀｲﾌﾟ3枚連動
見 込 み	枠見込　156	枠見込　156	枠見込　156	枠見込　156	枠見込　156	枠見込　95
仕　上	木質ｲﾝﾃﾘｱ建材［ﾗﾌｫﾚｽﾀTN同等］	木質ｲﾝﾃﾘｱ建材［ﾗﾌｫﾚｽﾀTW同等］	木質ｲﾝﾃﾘｱ建材［ﾗﾌｫﾚｽﾀTW同等］	木質ｲﾝﾃﾘｱ建材［ﾗﾌｫﾚｽﾀTA同等］	木質ｲﾝﾃﾘｱ建材［ﾗﾌｫﾚｽﾀTA同等］	木質ｲﾝﾃﾘｱ建材［ﾗﾌｫﾚｽﾀ　ｸﾛｰｾﾞｯﾄﾄﾞｱTA同等］
ガ ラ ス	2mm樹脂板	2mm樹脂板	2mm樹脂板			
附属金物	ﾉﾝｹｰｼﾝｸﾞ　ﾗｳﾝﾄﾞﾚｰﾙ　薄敷居　引手　鍵無　薄巾木 付属金物一式	ﾉﾝｹｰｼﾝｸﾞ　上吊り　専用床見切　引手　鍵無 付属金物一式	ﾉﾝｹｰｼﾝｸﾞ　ﾚﾊﾞｰﾊﾝﾄﾞﾙ　表示錠　薄容摺　丁番 戸当たり（YS-3K-14417同等）　付属金物一式	ﾉﾝｹｰｼﾝｸﾞ　ﾗｳﾝﾄﾞﾚｰﾙ　薄敷居　引手　付属金物一式	ﾉﾝｹｰｼﾝｸﾞ　ﾗｳﾝﾄﾞﾚｰﾙ　薄敷居　引手　付属金物一式	ﾉﾝｹｰｼﾝｸﾞ四方枠　薄敷居　引手　付属金物一式

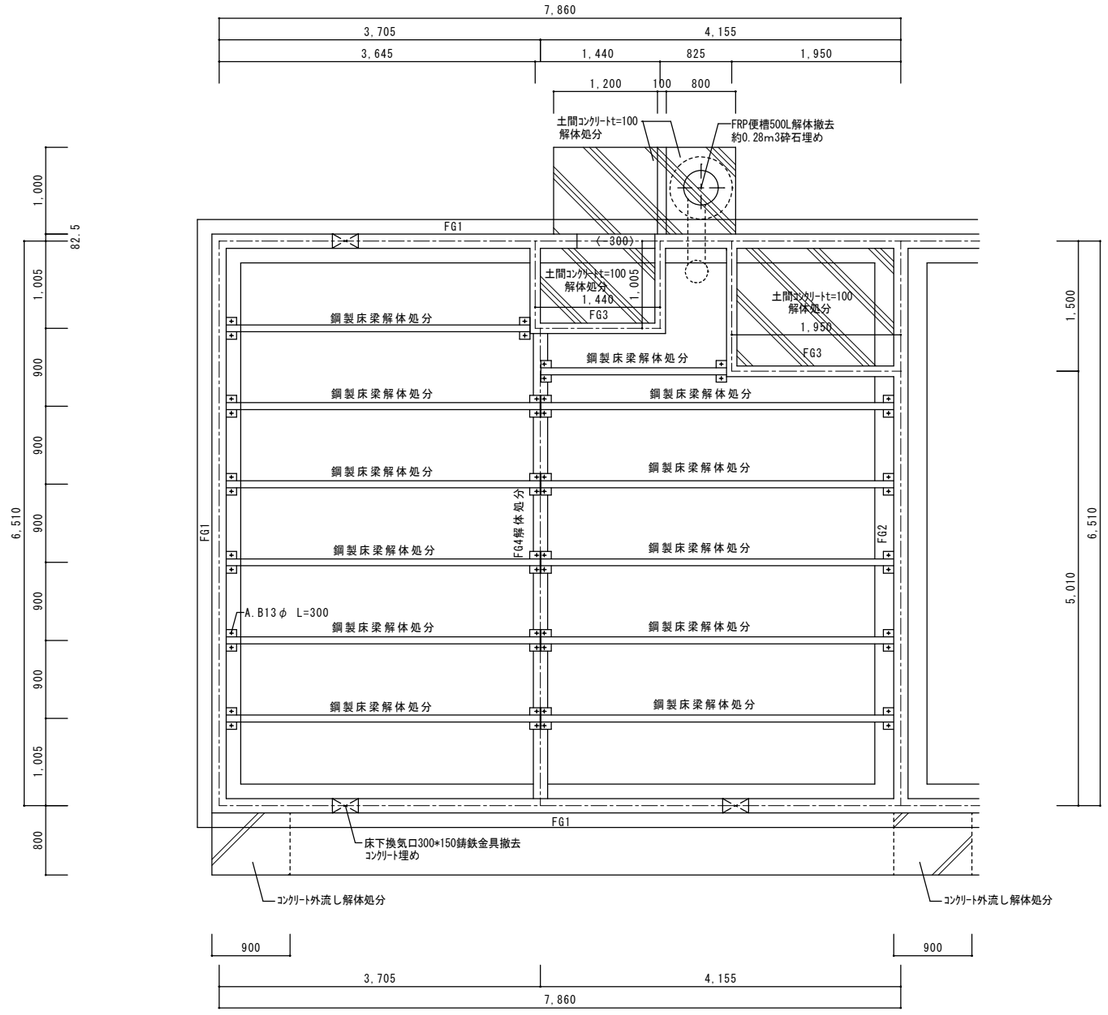
一級建築士事務所登録(伊那)K第7X201号
株式会社 田原建築設計事務所
〒396-0022 伊那市御園1223-3 TEL(0265)72-7171
一級建築士 登録第 279775 号 田 原 健 一（管理建築士）
一級建築士 登録第 279775 号 田 原 健 一

担当	製図	備考	CONSTRUCTION NAME	DRAWING NAME	SCALE	PLACE	DATE	SHEET NO
			令和７年度 市営住宅若宮団地リフォーム工事（195～200号）	2LDK（195～200）キープラン・建具表	A2:S=1/50 A2:S=1/100 A3:71%縮小	伊那市	R 07・04	A－19

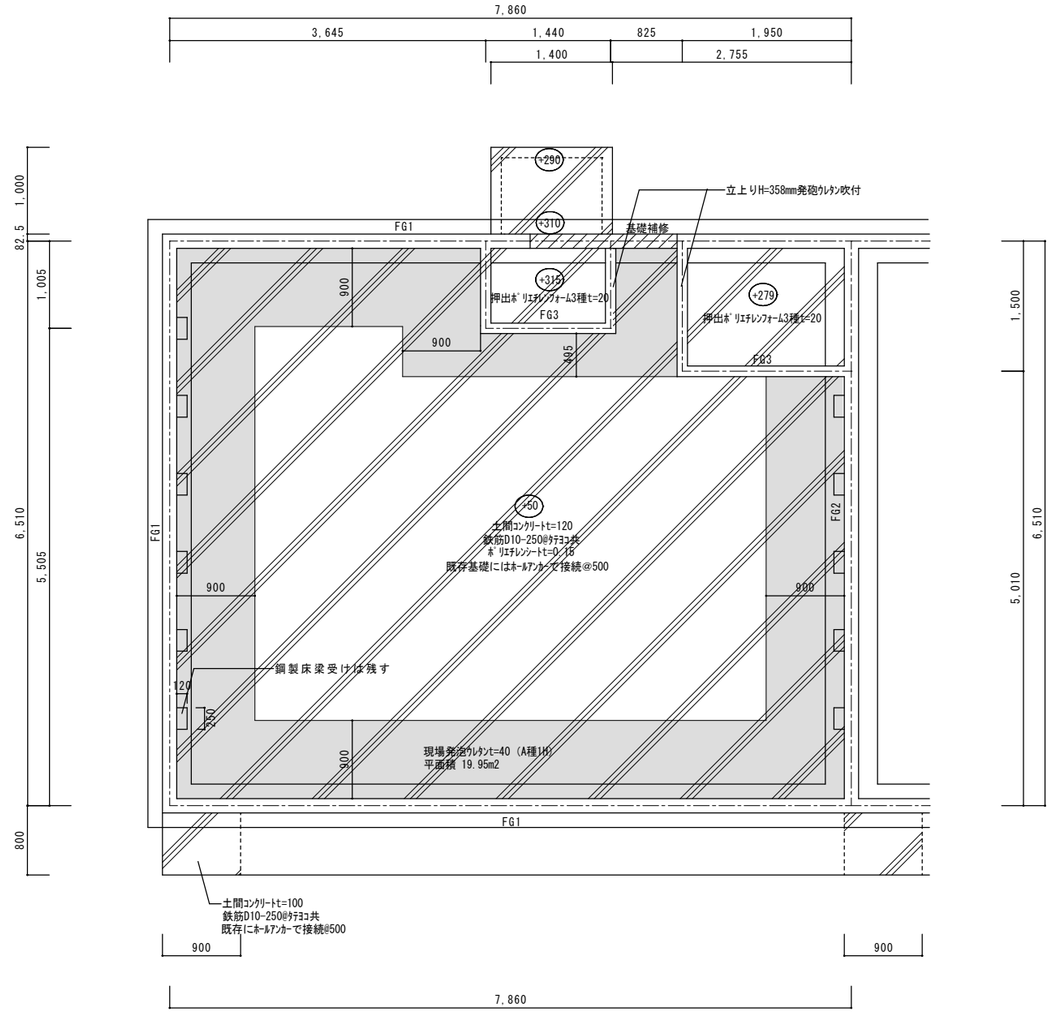


基礎詳細図 S=1/30





2LDK既存基礎伏図 S=1/50

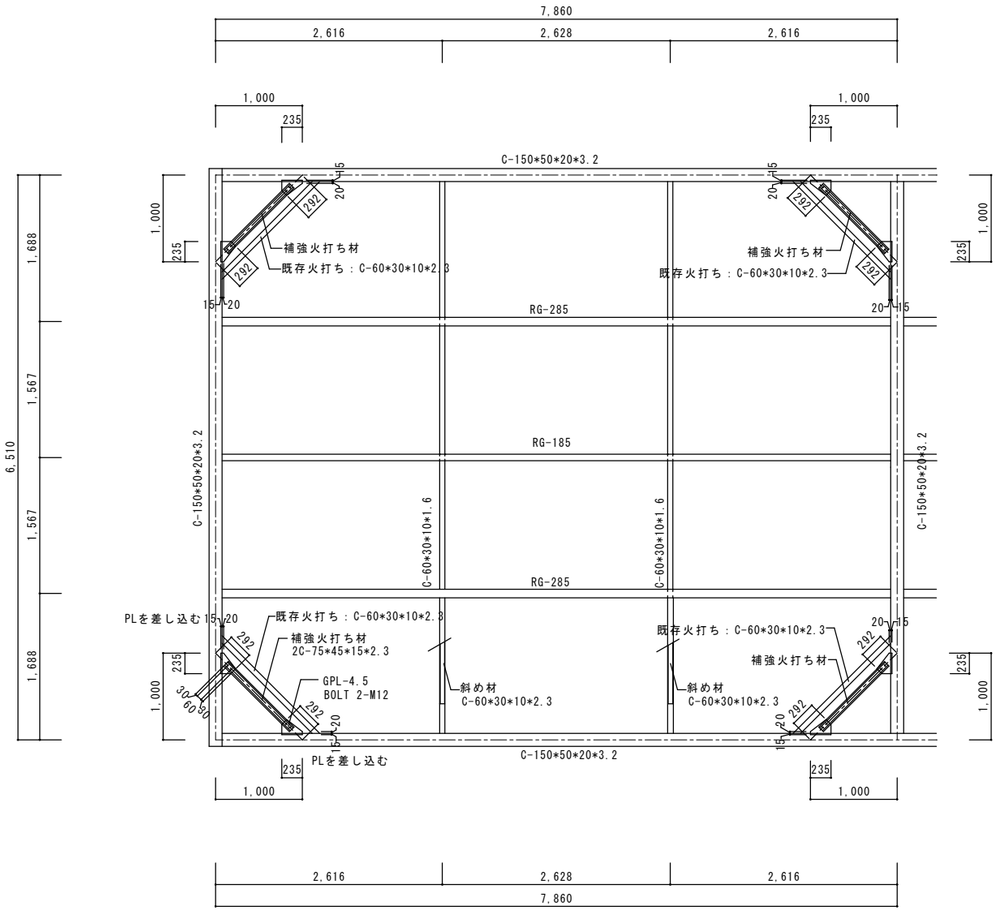


2LDK改修基礎伏図 S=1/50

数字 設計GLからの高さ

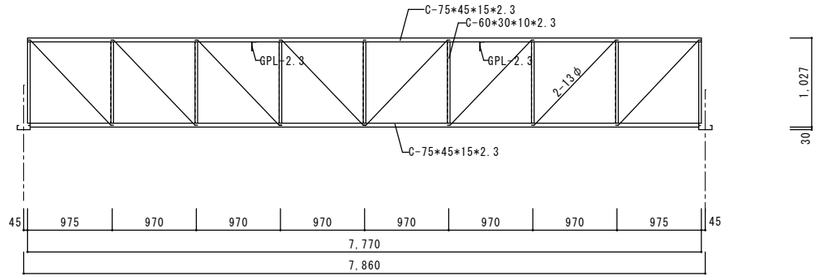
一級建築士事務所登録(伊那)K第7X201号
株式会社 田原建築設計事務所
〒396-0022 伊那市御園1223-3 TEL(0265)72-7171
一級建築士 登録第 279775 号 田原 健一（管理建築士）
一級建築士 登録第 279775 号 田原 健一

担当	製図	備考	CONSTRUCTION NAME	DRAWING NAME	SCALE	PLACE	DATE	SHEET NO
			令和７年度 市営住宅若宮団地リフォーム工事（195～200号）	2LDK（195～200）基礎伏図	A2:S=1/30 A2:S=1/50 A3:71%縮小	伊那市	R 07・04	A－20

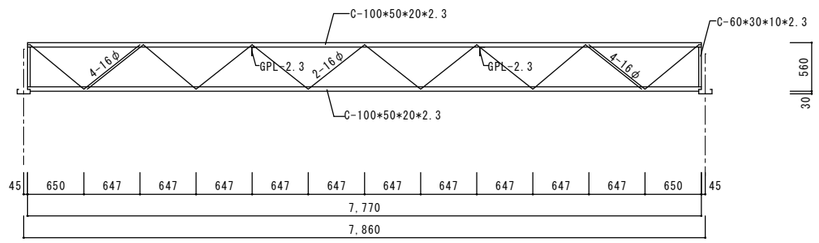


2LDK（195～200）小屋伏図・補強図　S=1/50

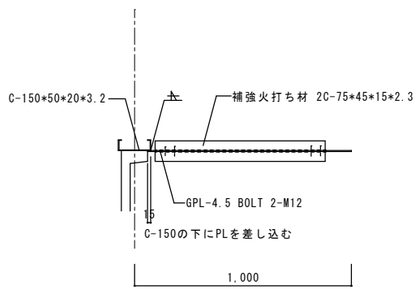
※　補強火打ちは、各戸の4隅に設置、合計4ヶ所*6戸＝24ヶ所



RG-185詳細図　S=1/50

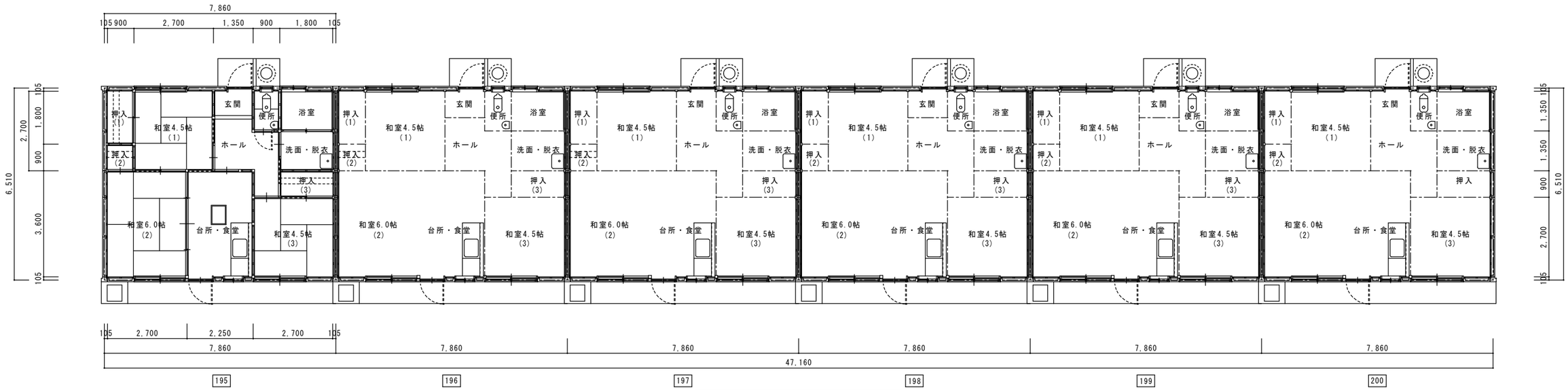


RG-285詳細図　S=1/50

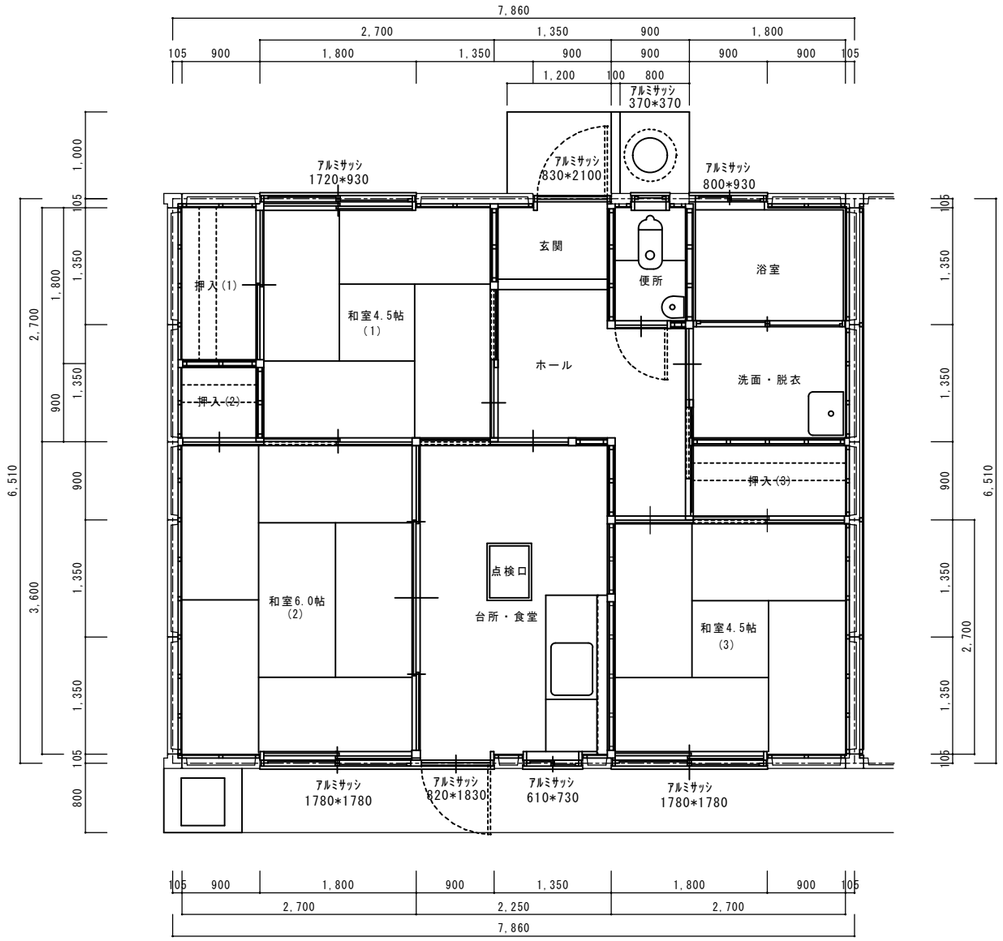


補強火打ち詳細図　S=1/20

一級建築士事務所登録(伊那)K第7X201号 株式会社 田原建築設計事務所 〒396-0022 伊那市御園1223-3　TEL(0265)72-7171	一級建築士 登録第 279775 号 田 原　健 一（管理建築士） 一級建築士 登録第 279775 号 田 原　健 一	担当	製図	備考	CONSTRUCTION NAME 令和７年度 市営住宅若宮団地リフォーム工事（195～200号）	DRAWING NAME 2LDK（195～200）小屋伏図・補強図	SCALE A2:S=1/20 A2:S=1/50 A3:71%縮小	PLACE 伊那市	DATE R 07・04	SHEET NO A－21



(195～200) 既存平面図 S=1/100



(195～200) 既存平面詳細図 S=1/50 ※青線部分：撤去箇所 を示す。

内部仕上表

室名	床	床高	壁	天井	CH	備考
玄関	ｺﾝｸﾘｰﾄ下地 ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ	-220	木軸下地 合板VP	木野縁下地 石膏ﾎﾞｰﾄﾞVP	2575	付鴨居
ホール	木床組下地 ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ	±0	木軸下地 合板VP	同上	2355	付鴨居
便所	同上	+55	同上	フレキシブルボード VP	2300	付鴨居 和便器、手洗器
洗面・脱衣	同上	±0	同上	同上	2355	付鴨居 手洗器
台所・食堂	同上	±0	木軸下地 石膏ﾎﾞｰﾄﾞAEP	木野縁下地 石膏ﾎﾞｰﾄﾞAEP	2355	付鴨居、ﾊﾝｶﾞｰﾎﾞｰﾄﾞ 流し台、ガス台、床点検口
浴室	ｺﾝｸﾘｰﾄ下地 防水ﾓﾙﾀﾙ金ｺﾃ	-200	木軸下地 ｼｰｼﾞﾝｸﾞﾎﾞｰﾄﾞ下地ﾘﾌﾞﾗｽ ﾓﾙﾀﾙVP	木野縁下地 フレキシブルボード VP	2555	
和室(1)	木床組下地 畳	+55	木軸下地 合板VP	木野縁下地 杉柾化粧石膏ﾎﾞｰﾄﾞ	2300	付鴨居
和室(2)	同上	+55	同上	同上	2300	付鴨居
和室(3)	同上	+55	同上	同上	2300	付鴨居
押入(1)	木床組下地 ﾗﾜﾝ合板	+55	木軸下地 ｾﾝｲ壁 化粧合板	木野縁下地 合板	2300	枕棚、中段
押入(2)	同上	+55	同上	同上	2300	枕棚、中段
押入(3)	同上	+55	化粧合板	同上	2300	枕棚、中段

特記事項

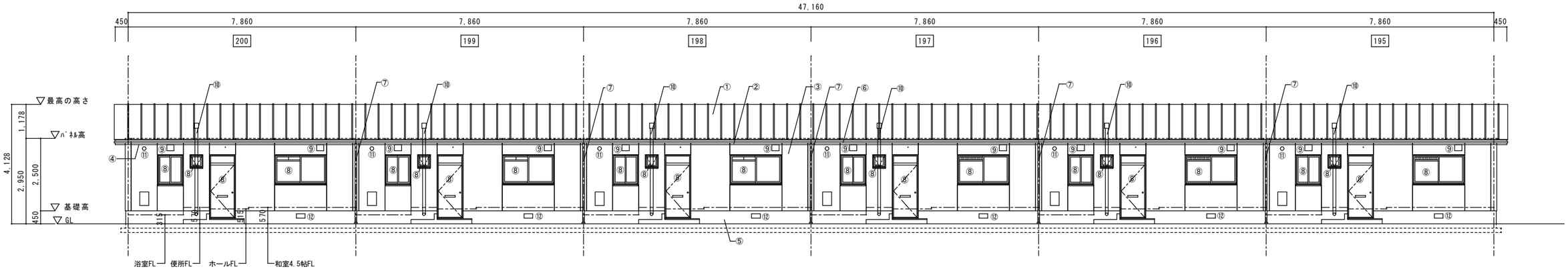
室内建具：木製ﾌﾗｯｼｭ、襖、障子

床：木床組み、間仕切り：木軸組み、天井：木野縁組み

ｱｽﾍﾞｽﾄ含有建材(ﾚﾍﾞﾙ3) を示す。

一級建築士事務所登録(伊那)K第7X201号
株式会社 田原建築設計事務所
〒396-0022 伊那市御園1223-3 TEL(0265)72-7171
一級建築士 登録第 279775 号 田原 健一(管理建築士)
一級建築士 登録第 279775 号 田原 健一

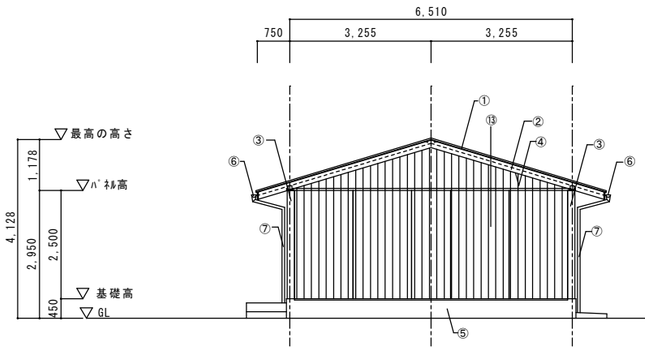
担当	製図	備考	CONSTRUCTION NAME	DRAWING NAME	SCALE	PLACE	DATE	SHEET NO
			令和７年度 市営住宅若宮団地リフォーム工事（195～200号）	(195～200) 既存平面図・仕上表	A2:S=1/50 A2:S=1/100 A3:71%縮小	伊那市	R 07・04	A－22



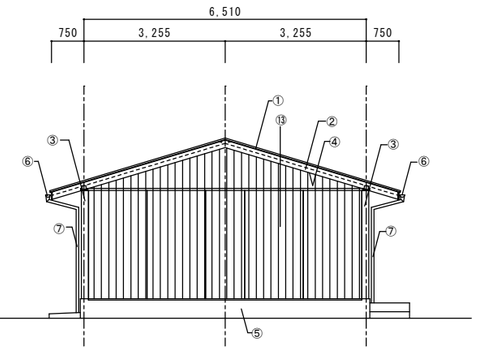
北側既存立面図　S=1/100

凡例		
①	屋根　ｶﾗｰ鉄板瓦棒葺 ｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞ、野地板ｔ=12	野地板まで撤去
②	幕板　ｶﾗｰ鉄板巻木下地	木下地まで撤去
③	外壁　PC版　ﾘｼﾝ吹付	そのまま
④	軒天　ﾌﾚｷｼﾌﾞﾙﾎﾞｰﾄﾞAEP	木野縁まで撤去
⑤	基礎　ﾓﾙﾀﾙ塗りｺﾝｸﾘｰﾄ下地	そのまま
⑥	軒樋　ｶﾗｰ鉄板半円100/2	撤去
⑦	竪樋　ｶﾗｰ鉄板φ60	撤去
⑧	建具　ｱﾙﾐｻｯｼ	撤去
⑨	換気ｶﾞﾗﾘ　ｽﾁｰﾙ	撤去
⑩	臭突　塩ビ管φ100	撤去
⑪	煙突穴　塩ビｷｬｯﾌﾟ	撤去
⑫	床下換気口　鋳鉄製　300*150	撤去
⑬	鋼板ｻｲﾃﾞｨﾝｸﾞ	仕上役物水切のみ(胴縁残し)撤去
⑭	開口塞ぎ　金属板	撤去

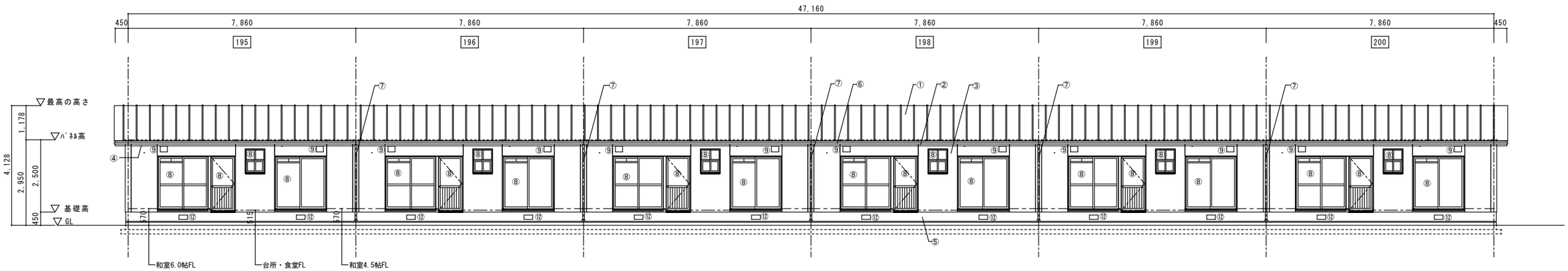
ｱｽﾍﾞｽﾄ含有建材



西側既存立面図　S=1/100



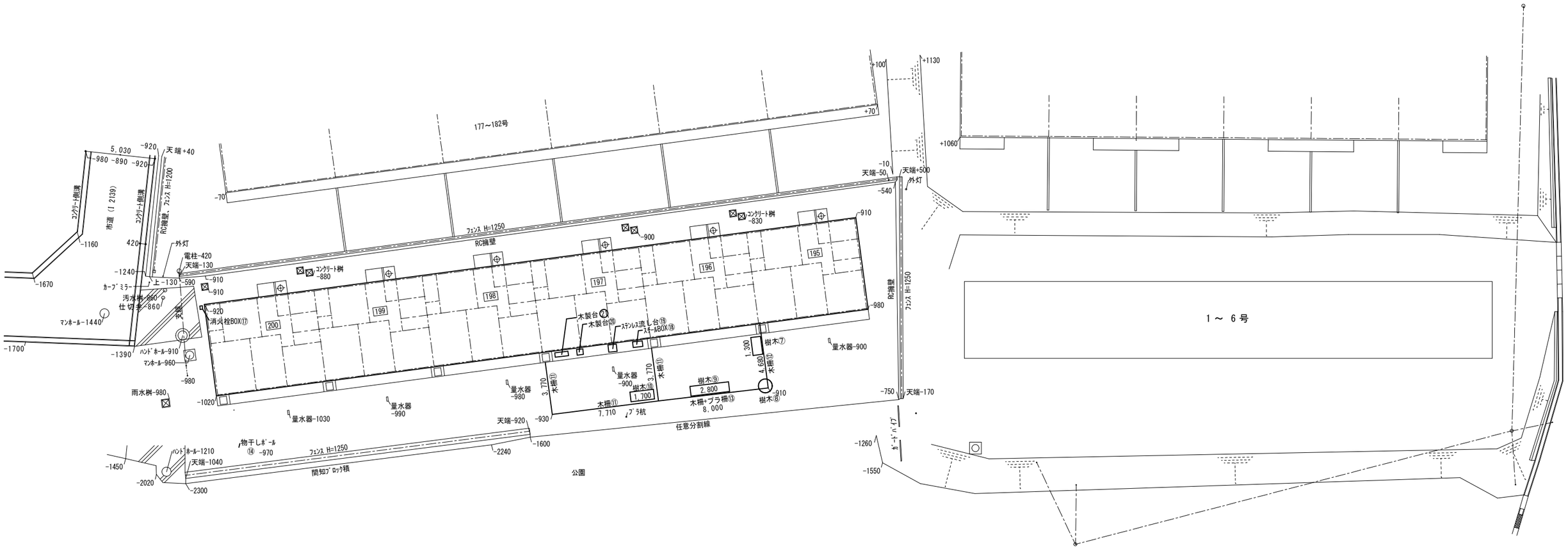
北側既存立面図　S=1/100



南側既存立面図　S=1/100

一級建築士事務所登録(伊那)K第7X201号
株式会社 田原建築設計事務所
〒396-0022 伊那市御園1223-3　TEL(0265)72-7171
一級建築士 登録第 279775 号
田 原　健 一（管理建築士）
一級建築士 登録第 279775 号
田 原　健 一

担当	製図	備考	CONSTRUCTION NAME	DRAWING NAME	SCALE	PLACE	DATE	SHEET NO
			令和７年度 市営住宅若宮団地リフォーム工事（195～200号）	（195～200）既存立面図	A2:S=1/100 A3:71%縮小	伊那市	R 07・04	A－23

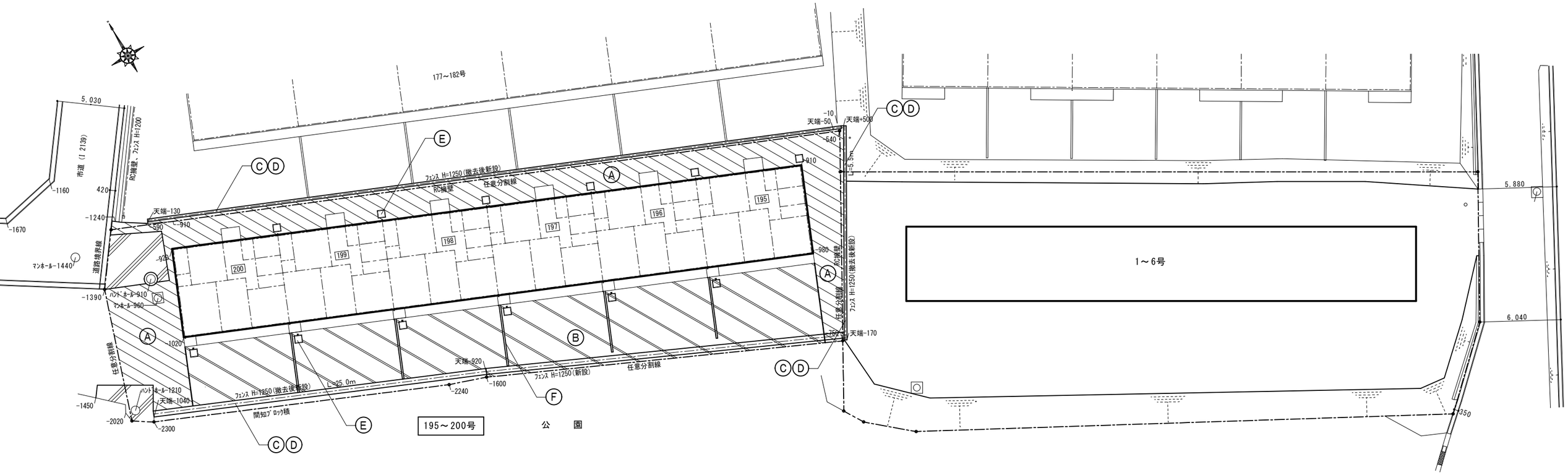


現 況 外 構 図　S＝1/200

※ 赤色：撤去処分

一級建築士事務所登録(伊那)K第7X201号 株式会社 田原建築設計事務所 〒396-0022 伊那市御園1223-3 TEL(0265)72-7171	一級建築士 登録第 279775 号 田 原 健 一（管理建築士） 一級建築士 登録第 279775 号 田 原 健 一		担当	製図	備考	CONSTRUCTION NAME 令和７年度 市営住宅若宮団地リフォーム工事（195～200号）	DRAWING NAME 現 況 外 構 図	SCALE A2:S=1/200 A3:71%縮小	PLACE 伊那市	DATE R 07・04	SHEET NO A －24

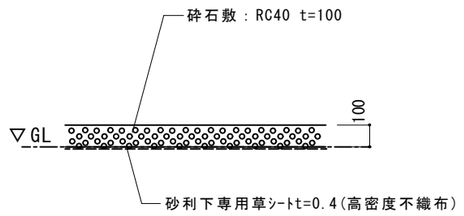
外構工事概要				
棟	符号	図示	名称	仕様
195～200号	Ⓐ		砕石敷	砕石敷：RC-40　t=100 砂利下専用草ｼｰﾄt=0.4(高密度不織布)
	Ⓑ		整地	敷地ならし
その他	Ⓒ		ﾒｯｼｭﾌｪﾝｽ(撤去)	ﾒｯｼｭﾌｪﾝｽ　H=1.25m(擁壁上に設置) 「朝日ｴﾊﾞﾆｭｰﾌｪﾝｽ(Sﾒｯｼｭ)同等」
	Ⓓ		ﾒｯｼｭﾌｪﾝｽ(新設)	ﾒｯｼｭﾌｪﾝｽ　H=1.20m(既存ﾌｪﾝｽ撤去後に設置)
	Ⓔ		浸透桝	ｺﾝｸﾘｰﾄ二次製品450x450　ｸﾞﾚｰﾁﾝｸﾞ蓋
	Ⓕ		地先境界ﾌﾞﾛｯｸ	ｺﾝｸﾘｰﾄ二次製品120x120



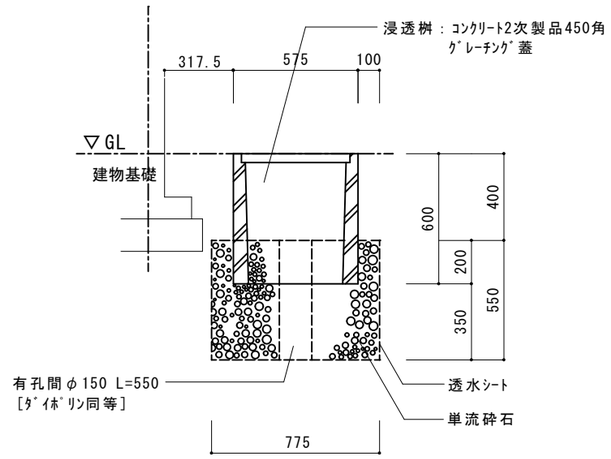
外構図　S＝1/200

一級建築士事務所登録(伊那)K第7X201号 株式会社 田原建築設計事務所 〒396-0022 伊那市御園1223-3　TEL(0265)72-7171	一級建築士 登録第 279775 号 田原 健一（管理建築士） 一級建築士 登録第 279775 号 田原 健一		担当	製図	備考	CONSTRUCTION NAME 令和７年度 市営住宅若宮団地リフォーム工事（195～200号）	DRAWING NAME 外構図	SCALE A2:S=1/30 A2:S=1/200 A3:71%縮小	PLACE 伊那市	DATE R 07・04	SHEET NO A－25

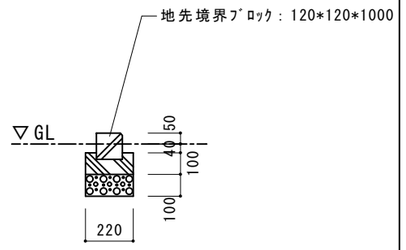
Ⓐ Ⓒ 砕石敷 S=1/20



Ⓖ 浸透桝 S=1/20

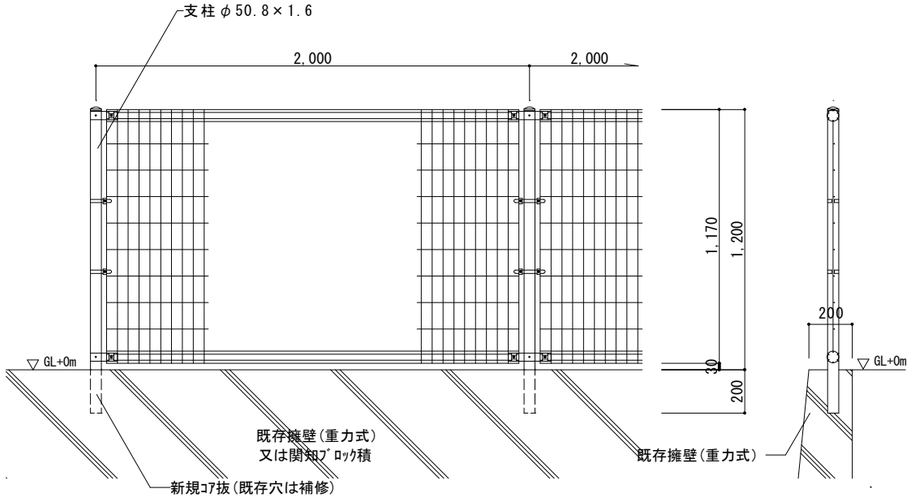


Ⓗ 地先境界ブロック S=1/20

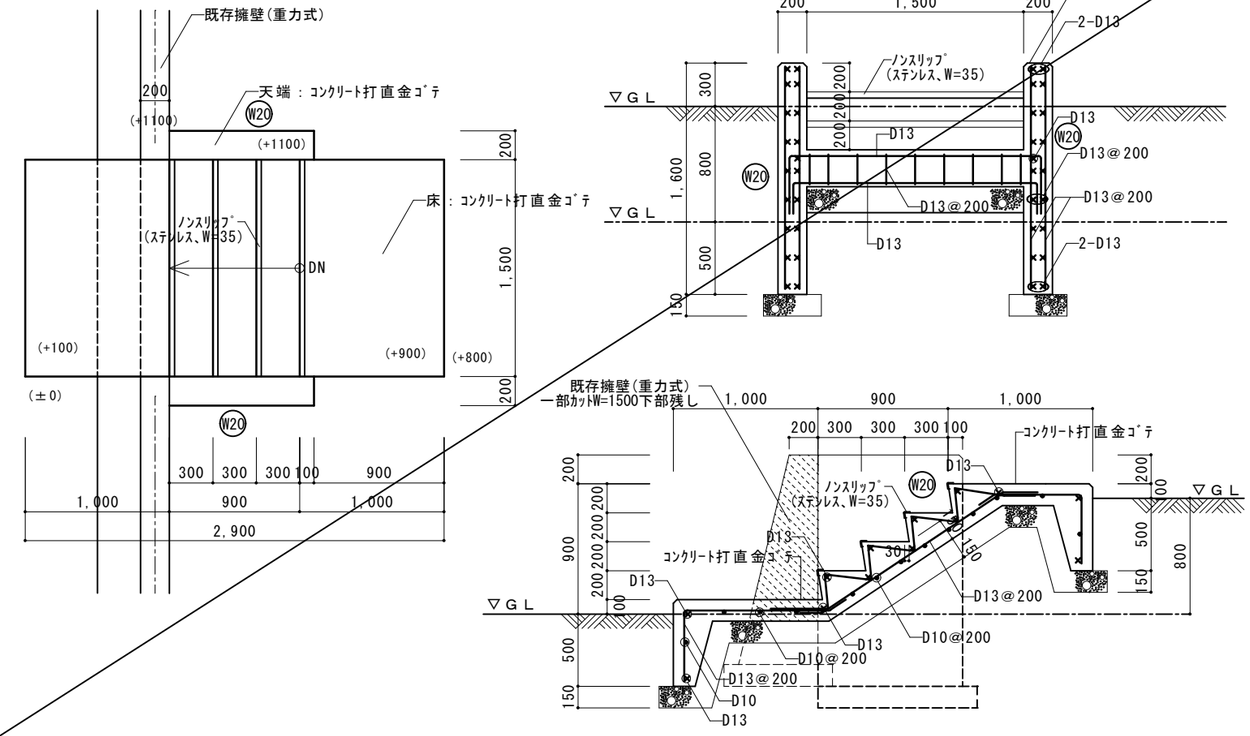


Ⓕ フェンス S=1/20

朝日ｽﾁｰﾙ工業㈱　朝日ユニフェンスＡ1200同等品



Ⓘ コンクリート階段 S=1/30



一級建築士事務所登録(伊那)Ｋ第7X201号
株式会社 田原建築設計事務所
〒396-0022 伊那市御園1223-3 TEL(0265)72-7171
一級建築士 登録第 279775 号 田 原 健 一（管理建築士）
一級建築士 登録第 279775 号 田 原 健 一

担当	製図	備考	CONSTRUCTION NAME	DRAWING NAME	SCALE	PLACE	DATE	SHEET NO
			令和７年度 市営住宅若宮団地リフォーム工事（195～200号）	外 構 詳 細 図	A2:S=1/20、1/30 A3:71%縮小	伊那市	R 07・04	A－26

ﾌﾟﾚﾊﾌﾞ物置①　L2440*D2110*H2000　1ヶ所

生垣②　L（1800+5400）*D700*H1400　1ヶ所

生垣③　L（2000+1900）*D700*H2000　1ヶ所

生垣④　L 2200*D700*H2000　1ヶ所

樹木⑤　φ800*1500　1ヶ所

樹木⑥　L4500*D600*H1700　1ヶ所

樹木⑦　L1300*D700*H1700　1ヶ所
樹木⑧　φ1000*H1700　1ヶ所
木柵⑫　L4680*H1000　1ヶ所

樹木⑨　L2800*D700*H1700　1ヶ所
木柵+ブラ柵⑬　L8000*H1000　1ヶ所

樹木⑩　L1700*D700*H1700　1ヶ所

木柵⑪　L（3770+3770+7710）*H430　1ヶ所

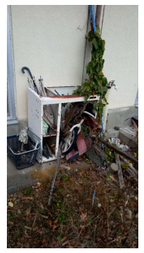
物干しﾎﾟｰﾙ⑭
φ35*H2400、ｺﾝｸﾘｰﾄ基礎　300*300*H400　10ヶ所

物干しﾎﾟｰﾙ⑮
φ35*H1800、ｺﾝｸﾘｰﾄ基礎　330*330*H500　8ヶ所

消火器、消火栓BOX⑯　240*180*H590　1ヶ所

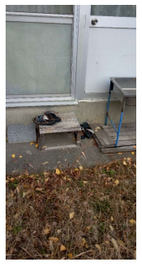
消火器、消火栓BOX⑰　240*180*H590　1ヶ所

ｽﾁｰﾙBOX⑱　700*400*H800　1ヶ所



ｽﾃﾝﾚｽ流し台⑲　600*520*H650　1ヶ所

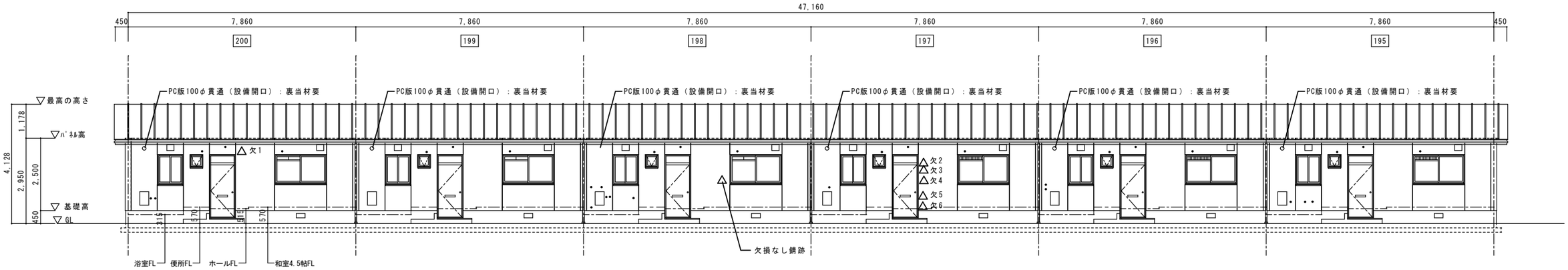
木製台⑳　450*400*H250　1ヶ所



木製台㉑　960*320*H450　1ヶ所

一級建築士事務所登録(伊那)Ｋ第7X201号
株式会社 田原建築設計事務所
〒396-0022 伊那市御園1223-3　TEL(0265)72-7171
一級建築士 登録第 279775 号
田 原　健 一（管理建築士）
一級建築士 登録第 279775 号
田 原　健 一

担当	製図	備考	CONSTRUCTION NAME	DRAWING NAME	SCALE	PLACE	DATE	SHEET NO
			令和７年度 市営住宅若宮団地リフォーム工事（195～200号）	外構工作物	A3:71%縮小	伊那市	R 07・04	A －27

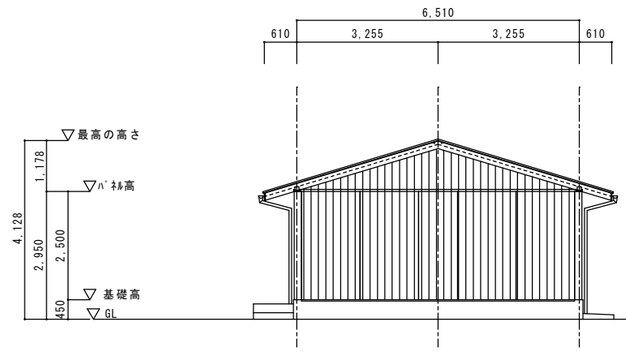


北側既存立面図　S=1/100

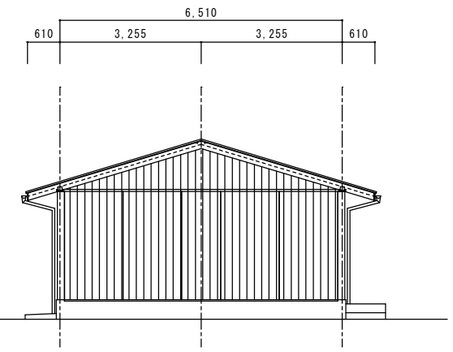
△ PC版欠損部

欠1	50*50
欠2	50*50
欠3	30*30
欠4	30*30
欠5	30*100
欠6	30*30

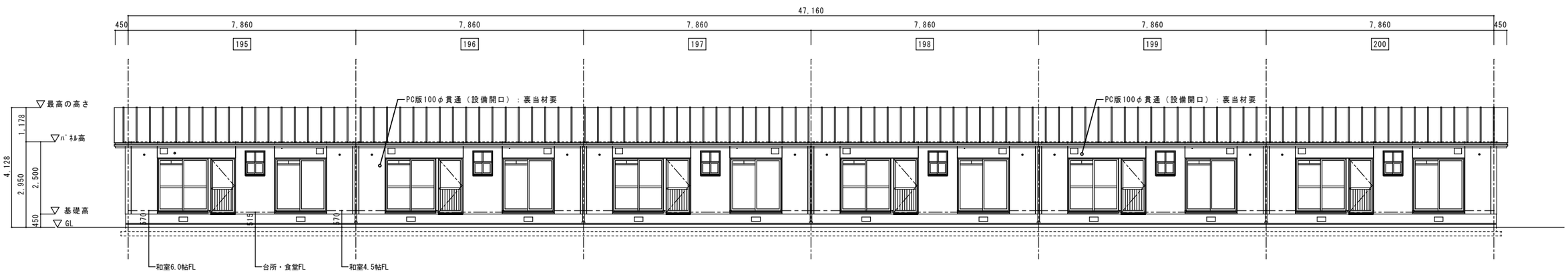
• PC版設備孔　10～25φ



西側既存立面図　S=1/100

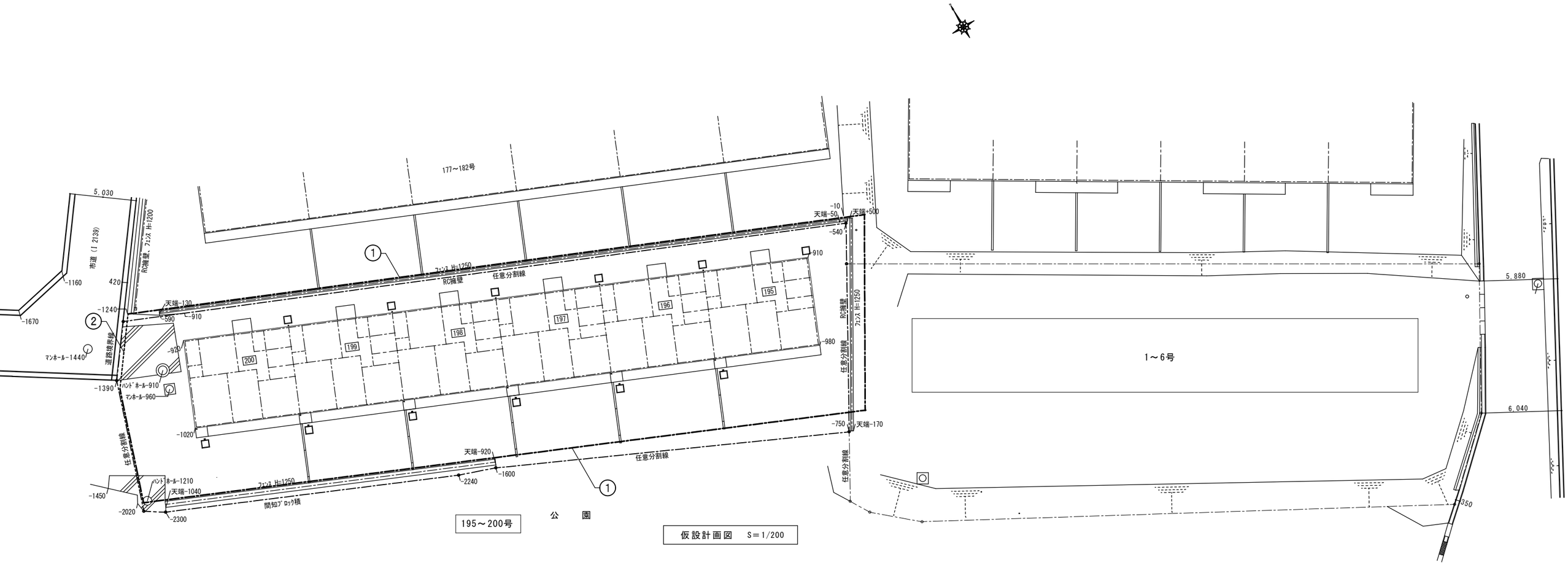


東側既存立面図　S=1/100



南側既存立面図　S=1/100

一級建築士事務所登録(伊那)K第7X201号 株式会社 田原建築設計事務所 〒396-0022 伊那市御園1223-3　TEL(0265)72-7171	一級建築士 登録第 279775 号 田 原　健 一（管理建築士） 一級建築士 登録第 279775 号 田 原　健 一		担当	製図	備考	CONSTRUCTION NAME 令和７年度 市営住宅若宮団地リフォーム工事（195～200号）	DRAWING NAME （195～200）既存立面図欠損部	SCALE A2:S=1/100 A3:71%縮小	PLACE 伊那市	DATE R 07・04	SHEET NO A－28



仮設計画図　S＝1/200

仮設工事概要				
符号	図　示	名　称	仕　様	数　量
①	━━━━	仮 囲 い	ｵﾚﾝｼﾞﾈｯﾄ　H=1000	（195～200）118.0m
②	---------	バリケード	ｶﾗｰｺｰﾝ等	（195～200）　6.0m

一級建築士事務所登録(伊那)K第7X201号
株式会社 田原建築設計事務所
〒396-0022 伊那市御園1223-3　TEL(0265)72-7171
一級建築士 登録第 279775 号
田 原　健 一（管理建築士）
一級建築士 登録第 279775 号
田 原　健 一

担当	製図	備考	CONSTRUCTION NAME	DRAWING NAME	SCALE	PLACE	DATE	SHEET NO
			令和７年度 市営住宅若宮団地リフォーム工事（195～200号）	仮 設 計 画 図	A2:S=1/200 A3:71%縮小	伊那市	R 07・04	A －29

Ⅰ 工事概要

1 工事場所　伊那市若宮7314番地3ほか

2 建物概要

建物名称	構造	階数	延面積（㎡）	消防法施行令別表第一の区分	備考
(195～200号)	ﾌﾟﾚｷｬｽﾄ	1	307.01	(－)	

3 工事種目

（○印のついたものを適用する。）

工事種目	項目	建物別及び屋外 住戸			
電灯設備		⊙			
動力設備	幹線、分岐				
電熱設備	幹線、分岐				
雷保護設備					
受変電設備					
電力貯蔵設備					
静止形電源設備	直流電源装置				
発電設備					
構内情報通信網設備	電話用配管				
構内交換設備	電話設備				
情報表示設備	時計設備				
映像・音響設備					
拡声設備					
誘導支援設備	インターホン・トイレ呼出し設備				
テレビ共同受信設備					
監視カメラ設備					
駐車場管制設備					
防犯・入退室管理設備	予備配管				
自動火災報知設備		⊙			
自動閉鎖設備					
非常警報設備	非常放送装置				
ガス漏れ警報設備					
中央監視制御設備					
構内配電線路					
構内通信線路					
昇降機設備					

4 図面目録

番号	図面名称	番号	図面名称
1		21	
2		22	
3		23	
4		24	
5		25	
6		26	
7		27	
8		28	
9		29	
10		30	
11		31	
12		32	
13		33	
14		34	
15		35	
16		36	
17		37	
18		38	
19		39	
20		40	

Ⅱ 工事仕様

1 共通仕様

(1) 図面及び特記仕様書に記載されてない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部の「公共建築工事標準仕様書(電気設備工事編)(令和4年版)」(以下、「標準仕様書」という。)、「公共建築改修工事標準仕様書(電気設備工事編)(令和4年版)」(以下、「改修標準仕様書」という。)及び「公共建築設備工事標準図(電気設備工事編)(令和4年版)」(以下、「標準図」という。)、公共住宅建設工事共通仕様書(公共住宅事業者等連絡協議会編)による。

(2) 機械設備工事及び建築工事を本工事に含む場合、機械設備工事及び建築工事はそれぞれの工事仕様書を適用する。

2 特記仕様

特記仕様は別紙「特記仕様書（共通事項）」によるほか次の各項目による。

(1) 項目は、番号に○印の付いたものを適用する。

(2) 特記事項は、○印の付いたものを適用する。

項目	特記事項
① 機材等	本工事に使用する設備機材等は、設計図書に規定するもの又は、これらと同等なものとする。 ただし、これらと同等のものとする場合は、監督職員の承諾を受ける。
② 機材の品質・性能証明	下表に示す材料・機材等（○印のもの）の製造者等は次の1)から6)のすべての事項を満たすものとし、この証明となる資料または外部機関が発行する品質及び性能等が評価されたことを示す書面を提出し監督員の承諾を受ける。 ・ LED照明器具 ⊙ (社)公共建築協会による「建築材料・機材等品質性能評価事業」における評価対象となる電気設備機材 1) 品質及び性能に関する試験データが整備されていること。 2) 生産施設及び品質の管理が適切に行われていること。 3) 安定的な供給が可能であること。 4) 法冷等が定める場合は、その許可・認可・認定または免許を取得していること。 5) 製造または施工の実績があり、その信頼性があること。 6) 販売、保守等の営業体制が整えられていること。
③ 化学物質を発散する建築材料等	本工事の建物内部に使用する建築材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有するものとし、次の（1）から（5）を満たすものとする。 (1)合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、ＭＤＦ、パーティクルボード、その他の木質建材、ユリア樹脂板、仕上げ塗材及び壁紙は、ホルムアルデヒドを放散しないか、放散が極めて少ないものとする。 (2)保温材、緩衝材、断熱材はホルムアルデヒド及びスチレンを放散しないか、放散が極めて少ないものとする。 (3)接着剤はフタル酸ジ－ｎ－ブチル及びフタル酸ジ－２－エチルヘキシルを含有しない難揮発性の可塑剤を使用し、ホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼンを放散しないか、放散が極めて少ないものとする。 (4)塗料はホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼンを放散しないか、放散が極めて少ないものとする。 (5)上記(1)、(3)及び(4)の建築材料等を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器等は、ホルムアルデヒドを放散しないか、放散が極めて少ないものとする。 なお、ホルムアルデヒドを放散しないものとは放散量が規制対象外のものを、ホルムアルデヒドの放散が極めて少ないものとは放散量が第三種のものをいい、原則として規制対象外のものを使用するものとする。 ただし、該当する材料等がない場合は、第三種のものを使用するものとする。 また、「ホルムアルデヒドの放散量」は、次のとおりとする。 ホルムアルデヒドの放散量 ／ 該当する建築材料 規制対象外：①JIS及びJASの F☆☆☆☆規格品 ②建築基準法施行令第２０条の７第４項による国土交通大臣認定品 ③下記表示のあるJAS規格品 a 非ホルムアルデヒド系接着剤使用 b 接着剤等不使用 c 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散させない材料使用 d ホルムアルデヒドを放散させない塗料等使用 e 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散させない塗料使用 f 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散させない塗料等使用 第三種：①JIS及びJASの F☆☆☆規格品 ②建築基準法施行令第２０条の５第３項による国土交通大臣認定品 ③旧JISのＥ○規格品 ④旧JASのＦ○○規格品
④ 施工条件明示項目	⊙公共建築工事積算基準の解説(設備工事編)の「執務並行改修」
5 電気保安技術者	工事現場の電気工作物（電路、自動扉、自動シャッター、電動機等も含む）の保安業務を行うものとする。
6 電気工事士	契約電力５００ｋＷ以上の電気工作物においても、第一種電気工事士により施工を行う。
⑦ 実施工程表及び施工計画書	①実施工程表、総合施工計画書は、工事着手に先立ち速やかに提出する。 ②工種別の施工計画書は、当該工事に先立ち速やかに提出し、品質計画に係る部分は監督職員の承諾を受けること。
⑧ 使用材料発注先調書	使用材料名、製造業者名、発注先等を記載した調書を作成し提出する。
⑨ 発生材の処理	(1)引渡しを要するもの　⊙無　・有　（　　） (2)引渡しを要するもの以外　⊙構外搬出し、関係法令により適切に処理をする。 (3)特別管理産業廃棄物　⊙無　・有（PCB使用機器：関連法令により適切に処理し建物管理者に引き渡す。） (4)再利用又は再資源化を図るもの ・無　⊙有（・廃蛍光管　・コンクリート・木材・アスファルト ⊙金属くず・ダンボール類　） ⊙設けない　・設ける（規模：　　） ・備品（　　）
⑩ 監督員事務所	
⑪ 工事用仮設物	すべて請負者の負担とする。 構内に作ることが　⊙できる　・できない
⑫ 足場・さん橋類	⊙別契約の関係請負者が定置したものは、無償で使用できる。 ・本工事で設置する。 ・内部仮設足場等（・架台足場　・移動式足場　・移動式室内足場　・　　） ・外部足場 （ ・A種［施工箇所面に枠組足場を設ける。］　・B種［施工箇所面に単管本足場を設ける。］ ・C種［仮設ゴンドラを使用する。］　・D種［移動式足場を使用する。］　）
⑬ 工事用電力・水・その他	本工事に必要な工事用電力、水等の費用及び官公署その他の関係機関への諸手続等に要する費用は請負者の負担とする。
⑭ 工事写真	工事の着手に先立ち、撮影計画の作成を行い、監督職員へ提出すること。
⑮ しゅん工時提出物	別添「伊那市営繕工事に係る提出書類等一覧表」及び監督員の指示による。
⑯ 再使用機器	取外し再使用機器は、原則として清掃及び絶縁抵抗測定を行った後取り付ける。 ただし、絶縁劣化等で使用に耐えない場合は、監督職員に報告する。
⑰ 耐震施工	設備機器の固定は、「建築設備耐震設計・施工指針２００５版（国土交通省国土技術政策総合研究所・独立行政法人建築研究所監修）」による。なお、施工に際し、耐震強度計算書を監督員に提出し、承諾を受けるものとする。 (1)設計用水平地震力 機器の重量［ｋｇｆ］に、設計用標準水平地震度を乗じたものとする。 なお、特記なき場合、設計用標準水平地震度は次による。 設計用標準水平地震度 設置場所 ／ 機器種別 ／ ⊙特定の施設 重要機器 2.0 ／ ⊙特定の施設 一般機器 1.5 ／ ○一般の施設 重要機器 1.5 ／ ○一般の施設 一般機器 1.0 上層階、屋上及び塔屋 ／ 機器 2.0 1.5 1.5 1.0 上層階、屋上及び塔屋 ／ 防振支持の機器 2.0 2.0 2.0 1.5 上層階、屋上及び塔屋 ／ 水槽類（※１） 2.0 1.5 1.5 1.0 中間階 ／ 機器 1.5 1.0 1.0 0.6 中間階 ／ 防振支持の機器 1.5 1.5 1.5 1.0 中間階 ／ 水槽類（※１） 1.5 1.0 1.0 0.6 地下・１階 ／ 機器 1.0 0.6 0.6 0.4 地下・１階 ／ 防振支持の機器 1.0 1.0 1.0 0.6 地下・１階 ／ 水槽類（※１） 1.5 1.0 1.0 0.6 （※１）水槽類にはオイルタンク等を含む。 ◎重要機器の定義は次による。 ・受変電設備　・発電設備　・直流電源設備　・交流無停電電源装置 ・交換機　・自動火災報知受信機　・中央監視装置　・ ◎上層階の定義は次による。 ２～６階建の場合は最上階、７～９階建の場合は上層２階、 １０～１２階建の場合は上層３階、１３階以上の場合は上層４階とする。 (2)設計用鉛直地震力 設計用水平地震力の１／２とし、水平地震力と同時に働くものとする。
⑱ あと施工アンカー	(1)重要機器類は公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）8章の2節8.2.4及び10節による。 (2)上記以外の機器類は建築工事改修仕様書6章による。 （引抜き試験を　・　実施する　⊙　実施しない　）
⑲ 防火区画等の貫通処理	電線等が、防火区画又は防火上主要な間仕切りを貫通する場合の施工状況について、貫通個所の両面から写真撮影し、工事写真として提出する。
⑳ 電線・ケーブル	(1) EM-EEF は紫外線による劣化を抑止する性能を持たせ、「ﾀｲｼﾞｲﾔﾝ EM-EEF」と表記されたものを使用する。 (2) EM-UTP は JIS X 5150「構内情報配線システム」に準じ、絶縁材料及びシースにJIS規格によるEMケーブルの耐燃性ポリエチレンを用いたもの。
21 予備配管	埋込分電盤からの立上り予備配管は、予備の配線用遮断器４個以下の場合は(25)を１本５個以上の場合は(25)を２本、天井まで立上げる。
㉒ 呼び線	長さ１m以上の入線しない電線管には、１．２mm以上のビニル被覆鉄線を挿入する。
㉓ 金属製電線管の塗装	下記の露出配管は塗装を行う。 ⊙屋外　⊙屋内（　機械室　　）
24 埋め戻し土	・A種［山砂の類：水締め、機器による締固め］　⊙B種［根切り土の中の良質土：機器による締固め］ ・C種［他現場の建設発生土の中の良質土：機器による締固め］ ・D種［再生コンクリート砂：水締め、機器による締固め］ ・管の下部は50mm以上砂を敷きならし、管の上部100mm以上砂を用いて締め固める
25 建設発生土の処理	・場外搬出処理　⊙構内の指定場所に敷き均し
26 ケーブル埋設票	(1) 地中線路には、ケーブル埋設票をもうける。　・鉄製　・コンクリート製 (2) 低圧地中配線にあっても地中線埋設標識シートを敷設する。 (3) 配管埋設幅が750mmを超える場合は、地中線埋設標識シートは２条以上敷設する。
㉗ プルボックス	(1) 露出するプルボックスの本体及びふたの仕上げは、メラミン焼付塗装とする。 (2) 露出するプルボックスのふたの止めねじは化粧ビスとする。
㉘ フラッシュプレート	図面に特記あるもの及び特殊なものを除き　・金属製　⊙樹脂製
㉙ プレートの用途表示	プルボックス、ジョイントボックス及び機器を実装しないプレートには、用途を明示した略標をつける。
㉚ 配線器具	タンブラスイッチは連用形とする。 壁付けコンセント(2P15A)は原則として連用形とする。ただし、２口の場合は複式を使用して良い。また(2P15A)以外はすべてキャップ付とする。
31 機器への接続	本工事の動力制御盤より別途電動機等への配線の接続は本工事とする。
32 照度測定	・ 測定場所：　・ 各室（測定箇所数　箇所）　・ 廊下　・ 階段 用　途：　・ 非常用照明　・ 一般照明 ・ 学校施設における室内照度測定（測定教室：　個所、　測定黒板面：　個所） ※教室の照度は、１教室当たり机上面9ヵ所、黒板垂直面9ヵ所で測定する
㉝ 盤類	(1) 分電盤等の図面ホルダーに、単線結線図・絶縁抵抗測定表・接地抵抗測定表を収納する。 (2) 端子盤には、線番表・結線表を備え付ける。
34 グリーン購入の推進	長野県グリーン購入推進方針に基づく調達項目 ＜資材＞　・照明制御システム　・変圧器　・（　　） ＜建設機器＞　・排出ガス対策型建設機器　・低騒音型建設機器
35 他工事又は他工種との取り合い	工事区分表（平成　年版）による。ただしこれにより難い場合は監督職員と協議する。
36 その他及び電子納品	保険等の各種措置及び電子納品については、別添「特記仕様書(共通事項)」による。 (長野県公式ホームページ(電子入札システム)に掲載される、当該入札公告の添付図書)
37 その他	・ 施工制約条件 ・

3 ハンドホール

下表による。（梯子は各ハンドホールに設置する。蓋取外し用ジャッキを１組納入する。）

ブロックハンドホール　（寸法は内法を示す。底部とはハンドホール内側底部をいう。）

・コンクリート相互間などは、エポキシ系樹脂接着剤により接着する。
・ブロックの仕様は国土交通省仕様に準ずるものとする。
・ハンドホールにノックアウト部分を設けてはならない。
・配管貫通部は、原則として根巻きｺﾝｸﾘｰﾄ（F=18N/mm以上）とし、差し筋D10タテヨコ@200で補強する。
・補強方法については、あらかじめ監督員にﾊﾝﾄﾞﾎｰﾙ製作図を提出して承諾を受けて施工する。

・	ハンドホール Ｎｏ.－	１、５００×１、５００×１、５００Ｄ 蓋 ＷＰＭ－６０Ａ　（Ｅマーク入）	底部 ＧＬ－１、７４０以上 （アルミ梯子付）
・	ハンドホール Ｎｏ.－	１、２００×１、２００×１、５００Ｄ 蓋 ＷＰＭ－６０Ａ　（Ｅマーク入）	底部 ＧＬ－１、７００以上 （アルミ梯子付）
・	ハンドホール Ｎｏ.－	１、０００×１、０００×１、４００Ｄ 蓋 ＷＰＭ－６０Ａ　（Ｅマーク入）	底部 ＧＬ－１、６００以上 （アルミ梯子付）
・	ハンドホール Ｎｏ.－	１、０００×１、０００×１、１００Ｄ 蓋 ＷＰＭ－６０Ａ　（Ｅマーク入）	底部 ＧＬ－１、３００以上 （アルミ梯子付）
・	ハンドホール Ｎｏ.－	１、０００×１、０００×　９００Ｄ 蓋 ＷＰＭ－６０Ａ　（Ｅマーク入）	底部 ＧＬ－１、０６０以上 （アルミ梯子付）
・	ハンドホール Ｎｏ.－	９００×　９００×１、１００Ｄ 蓋 ＷＰＭ－６０Ａ　（Ｅマーク入）	底部 ＧＬ－１、２６０以上 （アルミ梯子付）
・	ハンドホール Ｎｏ.－	９００×　９００×　９００Ｄ 蓋 ＷＰＭ－６０Ａ　（Ｅマーク入）	底部 ＧＬ－１、０６０以上 （既製足場付）
・	ハンドホール Ｎｏ.－	６００×　６００×　６８０Ｄ 蓋 ＷＰＭ－６０Ａ　（Ｅマーク入）	（既製足場付）
・	ハンドホール Ｎｏ.－	４５０×　４５０×　６８０Ｄ 蓋 ＷＰＭ－４５Ｂ　（Ｅマーク入）	※植栽帯等車両の通行の恐れがない場所、収容ケーブルが少ない場所に限る

4 接地極

下表による。ただし、これによりがたい場合は監督員との協議による。

・	Ａ種接地	銅板１．５ｔ×９００×９００　補助接地棒（連結式１０φ×１、５００） リード端子付　埋設標（黄銅製又はステンレス製）　堀削埋戻中心深さ　２ｍ
・	Ｂ種接地	銅板１．５ｔ×６００×６００　補助接地棒（連結式１０φ×１、５００） リード端子付　埋設標（黄銅製又はステンレス製）　堀削埋戻中心深さ　２ｍ
・	Ｃ種接地	銅板１．５ｔ×３００×３００　補助接地棒（連結式１０φ×１、５００） リード端子付　埋設標（黄銅製又はステンレス製）　堀削埋戻中心深さ１．５ｍ
・	Ｄ種接地	接地棒（１０φ×１、５００）　リード端子付　打ち込み式 埋設標（黄銅製又はステンレス製）

5 機器取付高

図面に特記なきものは下表を標準とする。但し下表によりがたい場合には監督員との協議による。

	名称	測点	取付高(mm)
共通	取引用計器	地上～上端	2,000
共通	引込開閉器	床上～上端	1,800
共通	警報盤	床上～中心	1,500
電灯	分電盤	床上～中心	1,500 (上端1,900以下)
電灯	タンブラスイッチ	〃	1,300
電灯	〃（身障者用）	〃	1,100
電灯	コンセント(一般)	〃	300
電灯	〃　(和室)	〃	150
電灯	〃　(便所等)	〃　〃	500
電灯	〃　(台上)	台上～中心	150
電灯	プラケット(一般)	床上～中心	2,100
電灯	〃　(踊場)	〃	2,500
電灯	〃　(鏡上)	鏡端～中心	150
電灯	避難口誘導灯	床上～下端	1,500以上
電灯	廊下通路誘導灯	床上～上端	1,000以下
動力	壁掛形制御盤	床上～中心	1,500 (上端1,900以下)
動力	手元開閉器	〃	1,500
動力	操作スイッチ・押ボタン	〃	1,300
電話	室内端子盤（廊下・室内）	床上～下端	300
電話	中間端子盤（EPS・電気室）	床上～中心	1,500
電話	集合保安器箱	〃	(天井高)×0.9
電話	壁付アウトレットボックス(一般)	〃	300
電話	〃　(和室)	〃	150

	名称	測点	取付高(mm)
時計・拡声	壁掛形親時計	床上～中心	1,500 (上端1,900以下)
時計・拡声	子時計	〃	(天井高)×0.9
時計・拡声	壁掛形スピーカー	〃	(天井高)×0.9
時計・拡声	アッチネーター	〃	1,300
表示	表示盤	床上～中心	(天井高)×0.9
表示	壁付発信器	〃	1,300
表示	ベル	〃	(天井高)×0.9
表示	ブザー	〃	(天井高)×0.9
表示	押ボタン	〃	1,300
表示	〃（身障者用押釦）	〃	900
表示	身障者用表示灯	〃	2,000
表示	復帰ボタン		1,800
インターホン	壁付インターホン	床上～中心	1,500
インターホン	〃（身障者用）	〃	1,100
インターホン	壁付位置ボックス(壁付インターホンを除く)		
インターホン	〃　(一般)	〃	300
インターホン	〃　(和室)	〃	150
テレビ共同受信	機器収容箱	床上～中心	(天井高)×0.9
テレビ共同受信	アウトレット		
テレビ共同受信	〃　(一般)	〃	300
テレビ共同受信	〃　(和室)	〃	150
火災報	受信機	床上～操作部	800～1,500
火災報	副受信機	〃	800～1,500
火災報	機器収容箱	床上～中心	800～1,500
火災報	発信器	〃	800～1,500
火災報	ベル	〃	(天井高)×0.9
火災報	消火栓表示灯	〃	(天井高)×0.8

伊那市建設部

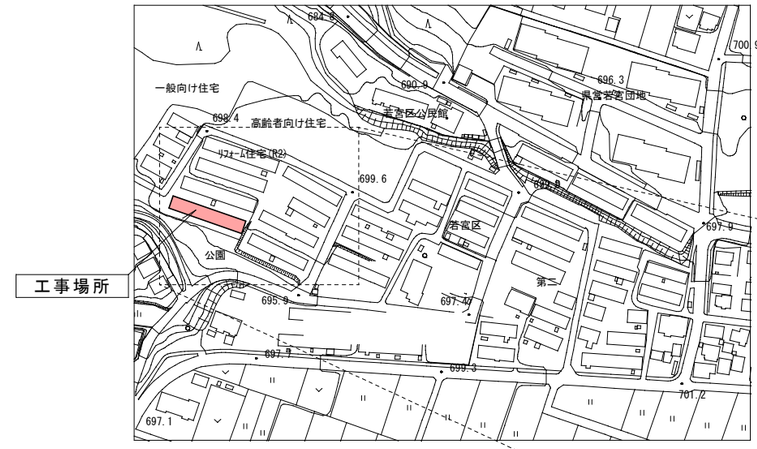
工事名	令和７年度　市営住宅若宮団地リフォーム工事（195～200号）	年月日 R07・04・
図面名称	電気設備工事特記仕様書	図面番号 E-01

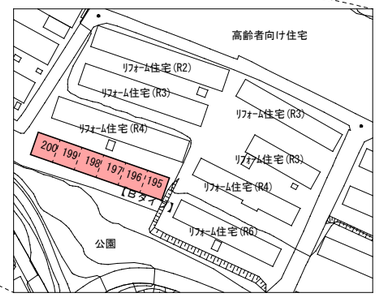
File Name : E-01　電気設備特記仕様書(195～200)

2012.06改訂

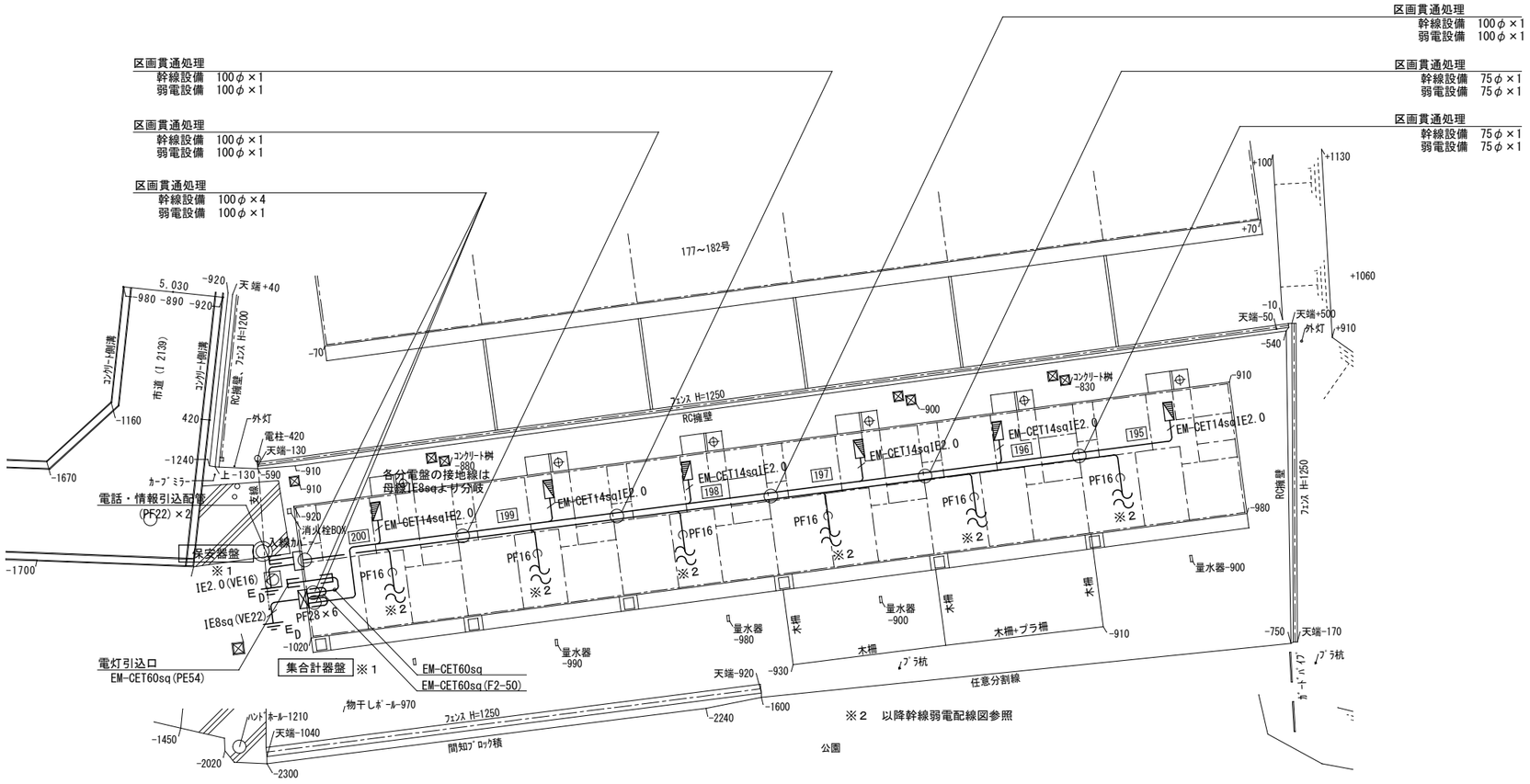
工事概要	令和７年度　市営住宅若宮団地リフォーム工事（195～200号）
工事場所	伊那市若宮7314番地3ほか
用途地域	都市計画区域内　指定なし
防火地域	指定なし
建ぺイ率 容積率	60% 200%
工事種目	大規模の修繕（195～200号）
195～200号	ﾌﾟﾚｷｬｽﾄｺﾝｸﾘｰﾄ造平家建て　屋根：ｶﾗｰ鉄板瓦棒葺き　外壁：ﾘｼﾝ吹付 屋根を撤去しGLｶﾗｰ鉄板に葺き替え、外部は補修し吹きなおし　内部は2LDKに改修
外構	樹木伐採抜根　整地　砕石敷

面積表		
住戸	195～200号	
建築面積	307.01m2	
1階床面積	307.01m2	
延床面積	307.01m2	





附近見取図



※1　屋外壁掛盤の半埋込取付において、盤周囲の防水処理は建築工事とする。

配　置　図　　S＝1/200

一級建築士事務所登録(伊那)Ｋ第7X201号
株式会社 田原建築設計事務所
〒396-0022 伊那市御園1223-3　TEL(0265)72-7171
一級建築士 登録第 279775 号　田原　健一（管理建築士）
一級建築士 登録第 279775 号　田原　健一

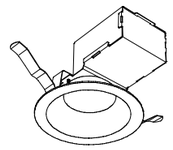
担当	製図	備考	CONSTRUCTION NAME	DRAWING NAME	SCALE	PLACE	DATE	SHEET NO
			令和７年度 市営住宅若宮団地リフォーム工事（195～200号）	建物概要・付近見取図・配置図	A2:S=1/200 A3:71%縮小	伊那市	R 07・04	E－02

分電盤結線図　２ＬＤＫ（195～200号）

分電盤 名称・形式	電気方式 主幹及び回路構成	回路記号	分岐開閉器 種別	P	AF	AT	負荷名称	備考
各戸電灯盤 ホーム分電盤 露出壁掛型 樹脂製	1φ3W 100/200V EM-CET14sq EM-IE2.0							
		主幹	ELCB	3	75	50		契約容量　40A
		①	MCCB	2	30	20	ユニットバス	
		②	MCCB	2	30	20	ガス給湯器　凍結防止帯	
		③	MCCB	2	30	20	玄関・洗面脱衣・トイレ	
		④	MCCB	2	30	20	洋室１	
		⑤	MCCB	2	30	20	洋室２	
		⑥	MCCB	2	30	20	ＬＤＫ	
		⑦	MCCB	2	30	20	電気ポット	
		⑧	MCCB	2	30	20	電子レンジ	
		⑨	MCCB	2	30	20	洋室１エアコン	
		⑩	MCCB	2	30	20	洋室２エアコン	
		⑪	MCCB	2	30	20	ＬＤＫエアコン	
		⑫	MCCB	2	30	20	床下凍結防止帯	

照明器具姿図

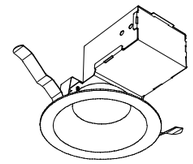
A	ダウンライト　525lm　温白色



LED 4.5W 3500K
巾φ114 埋込穴φ100 埋込高80
調光器不可

ＯＤ２６１８９３Ｒ

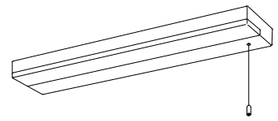
B	ダウンライト　507lm　電球色



LED 4.5W 2700K
巾φ114 埋込穴φ100 埋込高80
防雨型　調光器不可

ＯＤ２６１７９６

C	手元灯　1,083lm



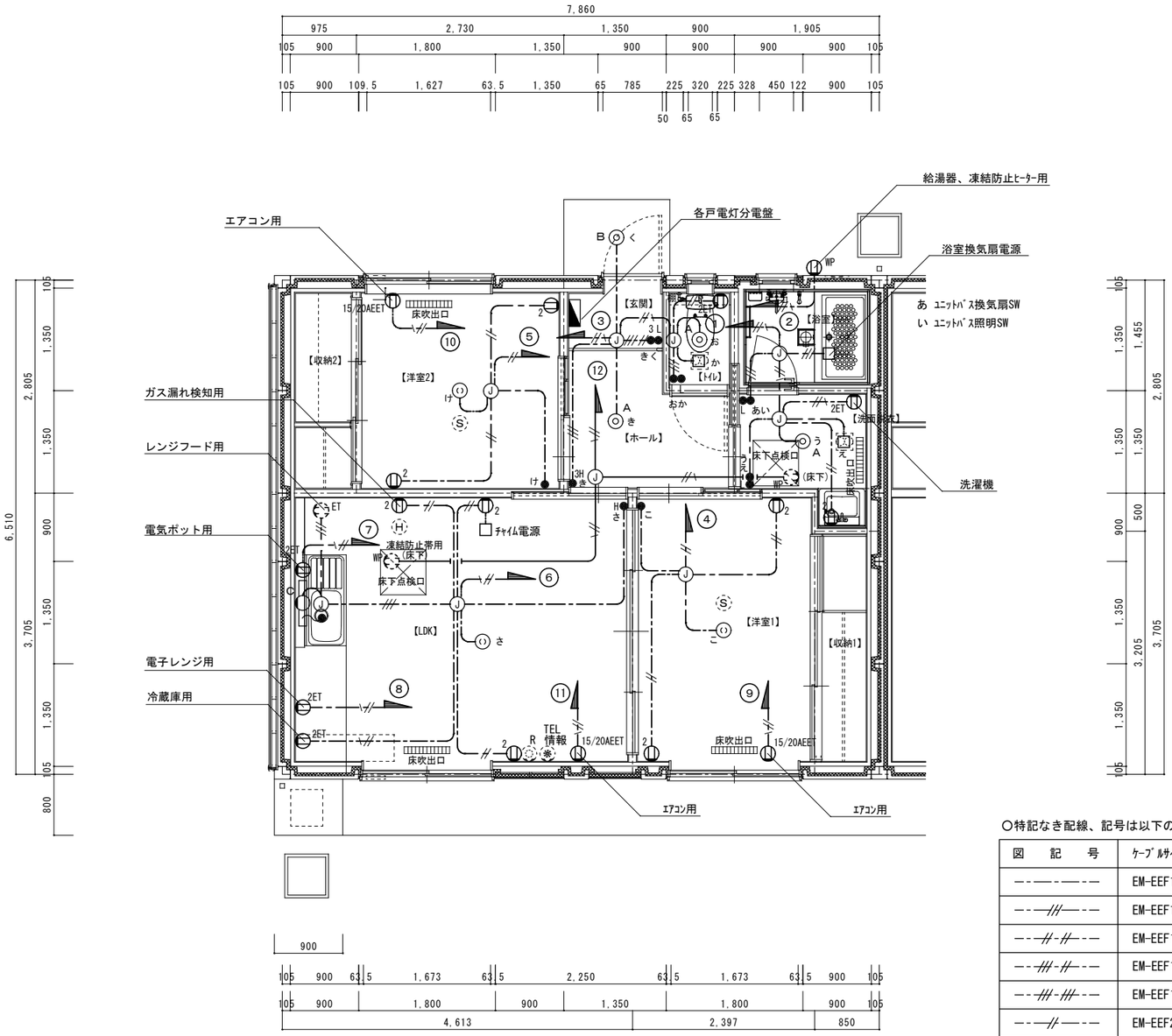
LED 11.2W 5000K
巾102 長502 高34
調光器不可

ＯＢ２５５１６５Ｒ

表中の型番は参考とする。

一級建築士事務所登録(伊那)Ｋ第7X201号
株式会社 田原建築設計事務所
〒396-0022 伊那市御園1223-3　TEL(0265)72-7171
一級建築士 登録第 279775 号　田原　健一（管理建築士）
一級建築士 登録第 279775 号　田原　健一

担当	製図	備考	CONSTRUCTION NAME	DRAWING NAME	SCALE	PLACE	DATE	SHEET NO
			令和７年度 市営住宅若宮団地リフォーム工事（195～200号）	分電盤図・照明器具姿図	A3:71%縮小	伊那市	R 07・04	E-03



2LDK（195～200）平面詳細図　S=1/50

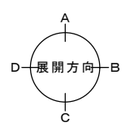
凡 例

記 号	仕様　備考
	分電盤（別図参照）
	照明器具　壁直付
	照明器具　ﾀﾞｳﾝﾗｲﾄ
	ローゼット
	換気扇（本体機械設備工事）
●	ｽｲｯﾁ 1P15A×1
●L	ｽｲｯﾁ 1P0.5A×1 ON表示付
●H	ｽｲｯﾁ 1P15A×1 OFF表示付
●3	ｽｲｯﾁ 3W×1
●3H	ｽｲｯﾁ 3W×1　OFF表示付
2	埋込ｺﾝｾﾝﾄ　2個口
E	埋込ｺﾝｾﾝﾄ　E極付　1個口
2E	埋込ｺﾝｾﾝﾄ　E極付　2個口
ET	埋込ｺﾝｾﾝﾄ　E極付　1個口
2ET	埋込ｺﾝｾﾝﾄ　ET付　2個口
WP	防水ｺﾝｾﾝﾄ　E極付　口
J	VVFｼﾞｮｲﾝﾄﾎﾞｯｸｽ

○特記なき配線、記号は以下の通り。

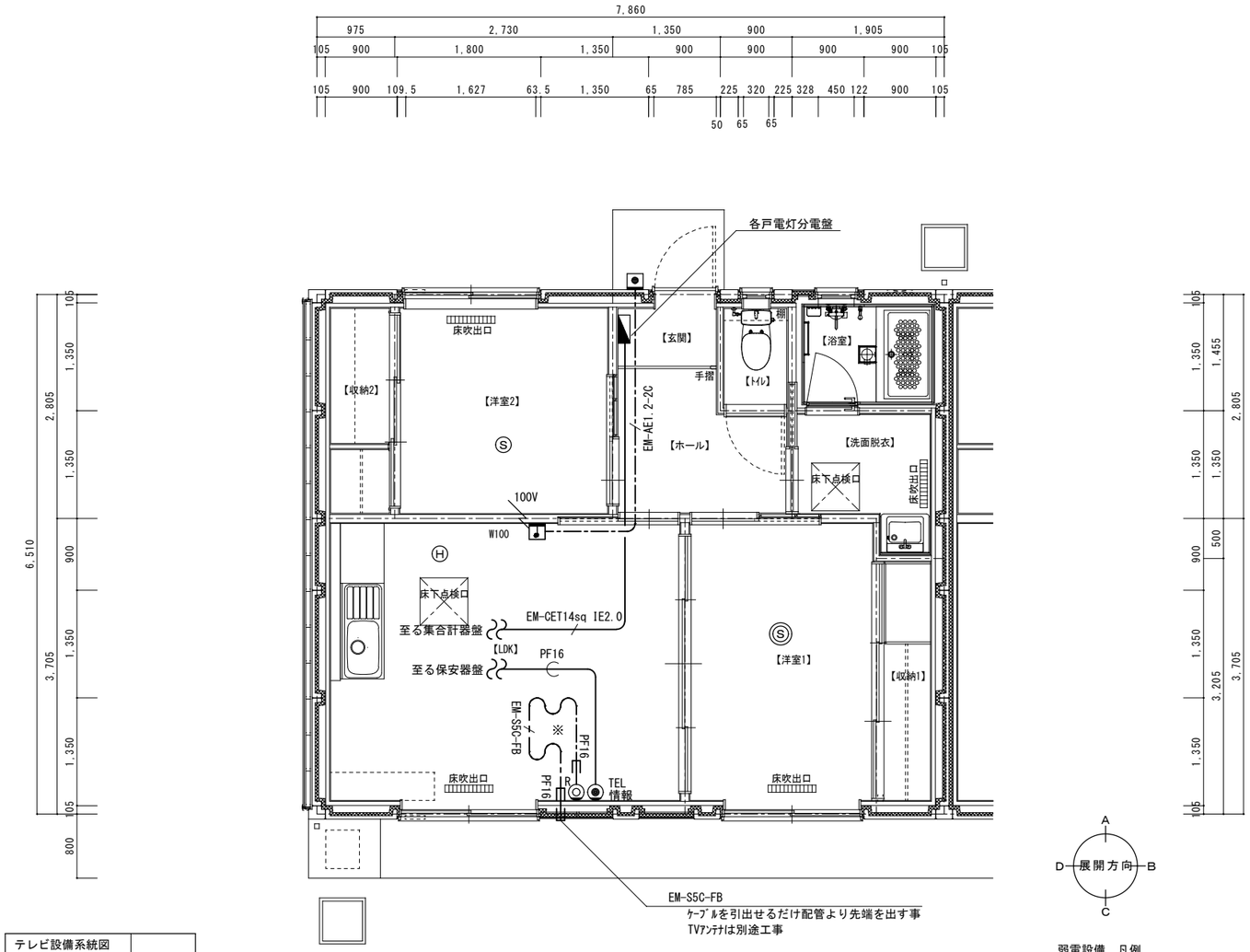
図　記　号	ｹｰﾌﾞﾙｻｲｽﾞ
—·—·—·—	EM-EEF1.6-2C
—·—//—·—	EM-EEF1.6-3C
—·—//-//—·—	EM-EEF1.6-2Cx2
—·—///-//—·—	EM-EEF1.6-2C+3C
—·—///-///—·—	EM-EEF1.6-3Cx2
—·—//—·—	EM-EEF2.0-2C
—·—//ハ—·—	EM-EEF2.0-3C(1C7-ｽ)

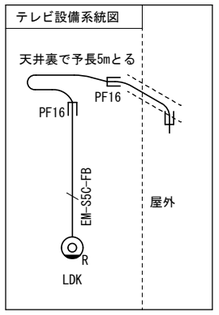
天井裏配線はケーブルコロガシとする。



一級建築士事務所登録(伊那)K第7X201号
株式会社 田原建築設計事務所
〒396-0022 伊那市御園1223-3　TEL(0265)72-7171
一級建築士 登録第 279775 号 田原 健一（管理建築士）
一級建築士 登録第 279775 号 田原 健一

担当	製図	備考	CONSTRUCTION NAME	DRAWING NAME	SCALE	PLACE	DATE	SHEET NO
			令和７年度 市営住宅若宮団地リフォーム工事（195～200号）	2LDK（195～200）電灯ｺﾝｾﾝﾄ設備配線図	A2:S=1/50 A3:71%縮小	伊那市	R 07・04	E－04





2LDK（195～200）平面詳細図 S=1/50

弱電設備　凡例

図記号	名　称・規　格
情報	ノズルプレート　電話用
R	テレビ端子　端末
Ⓢ	住宅用火災警報器　連動親機　定温式　電池式
Ⓢ	住宅用火災警報器　連動子機　煙式　電池式
Ⓗ	住宅用火災警報器　連動子機　定温式　電池式
	メロディサイン　AC100V　参考型番EC730W
	玄関呼出ボタン　露出型

一級建築士事務所登録(伊那)K第7X201号
株式会社田原建築設計事務所
〒396-0022 伊那市御園1223-3 TEL(0265)72-7171
一級建築士 登録第 279775 号 田原 健一（管理建築士）
一級建築士 登録第 279775 号 田原 健一

担当	製図	備考	CONSTRUCTION NAME	DRAWING NAME	SCALE	PLACE	DATE	SHEET NO
			令和７年度 市営住宅若宮団地リフォーム工事（195～200号）	2LDK（195～200）幹線弱電設備配線図	A2:S=1/50 A3:71%縮小	伊那市	R 07・04	E－05

Ⅰ．工事概要

1．工事場所　伊那市若宮7314番地3ほか

2．建物概要

建物名称	工事種別	構造	階数	延床面積（㎡）	消防法施行令別表第一	耐震分類	備考
共同住宅	改築		1	195～200号 307.01m2		──	

3．工事種目（●印を付けたものを適用する）

工事種目＼建物別	改築				屋外
○ 空気調和設備	○一式	○一式	○一式	○一式	○一式
○ 冷暖房設備	○一式	○一式	○一式	○一式	○一式
○ 暖房設備	○一式	○一式	○一式	○一式	○一式
● 換気設備	●一式	○一式	○一式	○一式	○一式
○ 排煙設備	○一式	○一式	○一式	○一式	○一式
○ 自動制御設備	○一式	○一式	○一式	○一式	○一式
● 衛生器具設備	●一式	○一式	○一式	○一式	○一式
● 給水設備	●一式	○一式	○一式	○一式	●一式
● 排水設備	●一式	○一式	○一式	○一式	●一式
● 給湯設備	●一式	○一式	○一式	○一式	●一式
○ 消火設備	○一式	○一式	○一式	○一式	○一式
● ＬＰガス設備	●一式	○一式	○一式	○一式	●一式
○ 中央集塵設備	○一式	○一式	○一式	○一式	○一式
○ 厨房機器設備	○一式	○一式	○一式	○一式	○一式
○ 実験実習器具設備	○一式	○一式	○一式	○一式	○一式
○ 浄化槽設備	○一式	○一式	○一式	○一式	○一式
○	○一式	○一式	○一式	○一式	○一式

4．設備概要（○印を付けたものを適用する）

方法及び種別	設備概要
空調方式	
冷暖房方式	・パッケージエアコン　・ファンコイルユニット
暖房方式	・温風暖房　・温水暖房　・ＦＦ暖房
換気方式	⊙局所換気　・全体換気
給水方式	⊙水道直結式　・加圧式　・高置タンク式（・上水　・井水）
排水方式	⊙建物内汚水、雑排水（⊙分流　・合流） ⊙建物外汚水、雑排水（・分流　⊙合流） 浄化槽　（・合併　・単独　） 放流先　⊙公共下水　・
消火設備の種別	・スプリンクラー設備　⊙消火器
ガスの種別	・都市ガス（発熱量　ＫＪ／Ｎｍ^3、供給事業者名：　） ⊙液化石油ガス（発熱量　１００，０００　ＫＪ／Ｎｍ^3）

5．指定部分　・無　・有　（指定部分しゅん工期限　平成　年　月　日）
対象部分：

Ⅱ．図面目録

No.	図面名称	No.	図面名称
1	図面リスト	15	施工要領図-2
2	機械設備工事特記仕様書		
3	機器表		
4	衛生器具表		
5	1LDK（7～12）屋外給排水設備図		
6	2LDK（177～182）屋外給排水設備図		
7	1LDK（7～12）給排水設備図		
8	2LDK（177～182）給排水設備図		
9	1LDK（7～12）換気設備図		
10	2LDK（177～182）換気設備図		
11	1LDK（7～12）既存撤去図		
12	2LDK（177～182）既存撤去図		
13	現況配置図、付近見取図		
14	施工要領図-1		

Ⅲ．工事仕様

1．共通仕様

（●印を付けたものを適用する。）【記載年度版よりも最新版が有る場合には、当該最新版を適用】

●機械設備工事標準仕様書・標準図	（令和4年版）	国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
●機械設備改修標準共通仕様書	（令和4年版）	国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
●長野県機械設備工事施工手引		長野県住宅部施設課監修
●公共住宅建設工事共通仕様書		公共住宅事業者等連絡協議会編
○電気設備標準仕様書・標準図	（令和4年版）	国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
○電気設備改修工事標準仕様書	（令和4年版）	国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
○建築工事標準仕様書	（令和4年版）	国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
○建築改修工事標準仕様書	（令和4年版）	国土交通省大臣官房官庁営繕部監修

2．特記仕様

（1）章は●印の付いたもの、項目は番号に○印の付いたものを適用する。

（2）特記事項のうち選択する事項は⊙印の付いたものを適用し、・印の付いたものは適用しない。

章	項目	特記事項
● 一般共通事項	① 機材等	（1）本工事に使用する設備機材等は、設計図書に規定するもの又は、これらと同等のものとする。ただし、これらと同等のものとする場合は、監督職員の承諾を受ける。 （2）機材の品質・性能証明 使用する機材が設備機材等指定表による製造業者等のもの又は、「建築材料・設備機材等品質性能評価事業」によって所要の品質・性能を有することの評価を受けたものである場合は、標準仕様書第１編第１章第４節１．４．２（Ｃ）の品質及び性能を有することの証明となる資料の提出を省略することができる。ただし、標準仕様書に規定される製作図、試験成績書等は除く。 （3）化学物質を発散する建築材料等 本工事の建物内部に使用する建築材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有するものとし、次の１）から５）を満たすものとする。 （1）合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、ＭＤＦ，パーティクルボード、その他の木質建材、ユリア樹脂板、仕上げ塗材及び壁紙は、ホルムアルデヒドを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。 （2）保温材、緩衝材、断熱材はホルムアルデヒド及びスチレンを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。 （3）接着剤はフタル酸ジーｎーブチル及びフタル酸ー２ーエチルヘキシルを含有しない難揮発性の可塑剤を使用し、ホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼンを発散しないか、発散が極めて少ない ものとする。 （4）塗料はホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼンを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。 （5）上記（1）（3）（4）の建築材料等を使用して作られた家具、書架、実験台、その他什器等は、ホルムアルデヒドを発散しないか、発散が極めて 少ないものとする。 なお、ホルムアルデヒドを発散しないものとは、発散量が規制対象外のものを、ホルムアルデヒドの発散量が極めて少ないものとは、発散量が第３種のものをいい、原則として規制対象外のものを使用するものとするが、該当する材料等が無い場合は第３種のものを使用するものとする。
	2 水分中の化学物質の濃度測定	飲料水配管の水分についてトルエン、キシレンの濃度測定を行い報告すること。 なお、水質の濃度測定は厚生労働大臣登録水質検査機関とする。
	3 監督員事務所	・設けない　・設ける
	4 工事用電力・用水等	このエ事に必要な工事用電力、用水、諸手続きなどの費用は請負者の負担とする。
	5 足場・さん橋類	・別契約の関係請負者が定置したものは無償で使用できる。　・本工事で負担する。 ・改修機械設備標準仕様書第１編２．２．１によるほか下記による。 ・　内部仮設足場等（・　種　・　種） ・　外部仮設足場等（・　種　・　種）
	⑥ 保険	（1）建物（施設）引渡しまで請負者は工事目的物、工事材料等について火災保険等を掛けること。 （2）工事期間中、請負者の責任において労災保険に加入し、その費用は請負者の負担とする。
	⑦ 被害届	等暴力団関係者から工事妨害による被害を受けた場合は、被害届けを速やかに警察に提出すること。
	⑧ しゅん工時提出物	標準仕様書によるほか別表による。
	⑨ 建設発生土	⊙監督員が指示する構内の場所に敷ならし　・構内指定場所にたい積　・構外搬出適切処理
	⑩ 埋め戻し土・盛土	⊙根切中の良質土（ただし管の周囲は山砂、川砂又は再生砂）　・山砂の類
	11 山留養生	根切中の山留め　・有（　）　・無
	12 発生材処理	（1）引渡しを要するもの　⊙無　・有（　） （2）引渡しを要するもの以外 構外搬出し関係法令により適切に処理をすること。廃棄物の処理の全部又は一部を委託する場合は、廃棄物処理法に基づく処理を業として許可を取得している者に委託すること。又、施工前に産業廃棄物処理委託契約書の写し、産業廃棄物処理業の許可の写し、許可運搬車両一覧並びに処分地の案内図等をまとめた廃棄物処理計画書を監督員に提出すること。施工手引第２章２及び４により発生材処理報告書（処分状況の写真、マニュフェストの写し、及び建設副産物の適正処理）を提出すること。 （3）特別管理産業廃棄物　・無　・有（　） （4）再利用又は再生資源化を図るもの　（コンクリート塊、アスファルト塊、木くず、金属くず、塩ビ管、　） （5）再生資源利用実施計画書等を提出すること。 「リサイクル法」に基づき、請負者は工事の着手前に「再生資源利用促進計画書」及び「再生資源利用計画書」を提出し、監督員の承諾を受けること。また、しゅん工後に「再生資源利用促進実施書」及び「再生資源利用実施書」を提出すること。 対象工事：リサイクル法に規定する一定規模以上の工事又は工事規模が１千万以上の工事
	13 電気保安技術者	電気保安技術者を設置する。
	14 技能士の適要	・配管（１．２）　・冷凍空気調和機器（１．２）　・熱絶縁（１．２）　・建築板金（１．２）
	⑮ 資材の保管	資材の保管は必ず屋根をかけ地上３０ｃｍ以上の架台に乗せる。
	⑯ 文字入名札等	標準仕様書第１編１．７．４によるほか、バルブ類等は必要に応じて合成樹脂製名札をステンレス線等で取付ける。
	17 取扱説明板	機器等の取り扱い方法及び重要な定期点検項目等を書いた取扱説明板（アクリル樹脂製、文字彫込み程度）を設ける。大きさは、約 [　] ㎡とする。
	18 総合調整	・本工事（・風量調整　・水量調整　・室内外空気の温湿度測定　・騒音測定）・別途
	⑲ 定期報告	工事しゅん工後３ヶ月、１２ヶ月に点検をして、その結果を書面で担当者あて報告する。 （管理者からの聞き取り調査を含め、調査には必ず管理者の立会いを要する。）
	⑳ 容量等の表示	（1）機器類の能力、容量等は、表示された数値以上とする。 （2）電動機出力、燃料消費量、圧力損失は、原則として表示された数値以下とする。
	㉑ 耐震措置	機器、配管、風道等は耐震を考慮し堅固にすえ付け、取付又は支持を行う。 耐震措置の計算及び施工方法は、次に掲げる事項以外、すべて「建築設備耐震設計・施工指針」（建設省住宅局建築指導課監修１９９７年版）による。 １）設計用水平地震力は、機器の重量（自由表面を有する水槽その他の貯槽にあっては有効重量）に、次に示す地域係数及び設計用標準水平震度を乗じたものとする。地域係数は１．０とする。

設置場所	特定の施設（・甲類　・乙類）重要機器	特定の施設 一般機器	一般の施設（乙類）重要機器	一般の施設 一般機器
上層階、屋上及び塔屋	２．０ （２．０） 〈２．０〉	１．５ （２．０） 〈１．５〉	１．５ （２．０） 〈１．５〉	１．０ （１．５） 〈１．０〉
中間階	１．５ （１．５） 〈１．５〉	１．０ （１．５） 〈１．０〉	１．０ （１．５） 〈１．０〉	０．６ （１．０） 〈０．６〉
地下階、一階	１．０ （１．０） 〈１．５〉	０．６ （１．０） 〈１．０〉	０．６ （１．０） 〈１．０〉	０．４ （０．６） 〈０．６〉

（注）１．（　）内の数値は防振支持の機器の場合に適用する。
２．〈　〉内の数値は水槽類に適用する。
３．上層階の定義は次による。
２～６階建以下の場合は最上階、７～９階建の場合は上層２階

重要機器とは下記に示すものをいう。
・重要機器（・給水装置・排水装置・換気機器・空調機器・防災設備・監視制御設備・避難経路上に設置する機器）
・危険物貯蔵装置・火を使用する設備

２）設計用鉛直地震力は、設計用水平地震力の１／２とし、水平地震力と同時に働くものとする。

項目	特記事項
㉒ あと施工アンカー確認試験	機械改修工事標準仕様書第２編５章による。※(社)日本建築あと施工アンカー協会認定資格 ・性能確認試験　（　）・施工後確認試験　（　）確認強度 [　] ｋＮ
㉓ 他工事との取合い	配管、ダクト、器具据え付けにともなうスリーブ、枠入れは本工事とし、他は工事区分表による。
㉔ 施工図等の取扱い	施工図等の著作権に係わる当該建物に限る使用権は、発注者に移譲するものとする。
㉕ 吊金物	吊金物は亜鉛メッキ又はステンレス鋼製とする
㉖ 配管勾配	給水、給湯、消火、冷温水、冷却水管は、図示による水抜きが確実にできるよう水抜き位置に向かって下り勾配とする。
㉗ 管の保護	コンクリート内の鋼管及び塩ビ管については、プラスチックテープを１／２重ね１回巻きとする。また、コンクリート土間下配管は、鋼棒等により沈下防止措置をする。
㉘ 管の埋設	土中埋設管（排水含む）は、管の上下をサンドクッション厚１００ｍｍで保護する。 給水管、~~消火管~~の埋設深さは [６００] ｍｍとする。又、ガス管の埋設深さは [450ｍｍ] 以上とする
㉙ 管の埋設標示	屋外埋設管の分岐及び曲がりの箇所には、塩ビ製標柱を埋め込む。舗装部分は埋設標示ピンとする。また、施工上生じた分岐、曲がりの箇所についても同様とする。 排水管を除く管には、埋設表示用テープを設置する。
㉚ 貫通部の処理	標準仕様書第２編２．８．１、施工手引第３章施工標準図によるほか充填箇所はシーリング材によりシーリングする。
㉛ ペーストシール剤	飲料水管系に使用されているペーストシール剤は、室内汚染に係る揮発性化合物に指定されている下記の物質を材料及び製造工程に使用されていないこと。 ・ホルムアルデヒド・アセトアルデヒド・トルエン・キシレン・エチルベンゼン・スチレン ・パラジクロロベンゼン・テトラデカン・クロルピリオス・フェノブカルブ・ダイアジノン ・フタル酸ジーｎーブチル・フタル酸ジー２ーエチルヘキシル
31 溶接部の非破壊検査	抜取率　・標準仕様書による　・ 検査の種類　・ＲＴ　・ＰＴ又はＭＴ
㉜ 塗装	下記の金属電線管は塗装を行う。 ⊙屋外露出　・（　）の屋内露出 下記の保温を行わない亜鉛メッキを施したダクト及び配管は塗装を行わない。 ・倉庫　・
33 機器の基礎及び振動絶縁効率	（下表）・別図による。

機器	基礎	振動絶縁効率
遠心送風機	・標準基礎　・防振基礎	・　％以上　・
空調用ポンプ及びボイラー給水用ポンプ	・標準基礎　・防振基礎	・　８０％以上　・
揚水用ポンプ及び小形給水ポンプユニット	・標準基礎　・防振基礎	・　８０％以上　・

項目	特記事項
34 防錆	エポキシ樹脂コーティング及びライニングの乾燥方法は、（・常温乾燥　・加熱乾燥）による。
35 電線類	電線及びケーブルの規格は標準仕様書第４編２．４．１、表４．２．１２による。
㊱ はつり	既存のコンクリート床及び壁の配管貫通部の穴明けは原則としてダイヤモンドカッターによる。
㊲ 保温及び消音内貼り	標準共通仕様書第２編によるほか下記による。 給水管、給湯管、冷温水管等の管、バルブ（グランド部を含む）、フランジ、可とう継手及び空調ダクトのフランジは、建物内外共保温する。なお、保温端部はシーリング処理を行う。 各配管の保温厚で標準仕様書中厚３０ｍｍ未満の箇所はすべて厚３０ｍｍ以上とする。ただし、排水管は除く。 ・換気ダクトの保温要（保温厚２５ｍｍ）　・範囲は図示による　・ ⊙外気取入れダクトの保温要（保温厚２５ｍｍ）　・範囲は図示による全て防露施工 ⊙排気ダクトの保温要（保温厚２５ｍｍ）　⊙範囲は図示による外壁より１ｍ迄防露施工 ・還りダクトの保温要（保温厚２５ｍｍ）　・範囲は図示による　・ ・膨張タンクよりボイラーへの補給水管の保温は膨張管の項による。 ・建物内の空気抜き管の保温は膨張管の項による。 ・空気調和機、ファンコイルユニット、冷水及び冷温水のドレーン管の保温は排水管の項による。 ・全熱交換器用ダクトの保温要（保温厚２５ｍｍ）　・範囲は図示による　・ＳＡは全て防露、ＥＡは外壁より１ｍ迄防露施工 保温種別は下記による ダクト　・イ（・１号　・２号）　・ロ 冷温水、冷水、温水、蒸気管　・イ　・ロ 機器　・イ　・ロ 給水管　⊙ロ　⊙ﾎﾟﾘﾌﾞﾃﾞﾝ管付属保温材 排水管　⊙ロ　・ 給湯管　⊙ロ　⊙ﾎﾟﾘﾌﾞﾃﾞﾝ管付属保温材 ・排水管でピット内、共同溝内及び最下階の床下の下記の部分は保温する。 なお仕様はｄ（ハ）とする。 （・排水トラップ　・鉛管　・鋼管類　・ビニール管　・ドレーン管　・　） ・消火管で下記の部分は保温する。なお仕様は給水管の項による。 （・屋内消火管　・水抜きできない管　・スプリンクラー配管　・　） ・圧力タンク、膨張水槽、各種呼水槽等鋼板製水槽は保温する。 貯湯槽、膨張ﾀﾝｸ保温仕様：ｸﾞﾗｽｳｰﾙｱﾙﾐｶﾞﾗｽｸﾛｽ保温帯50ｔ+ｶﾗｰ亀甲金網押え ・共同溝の保温種別　（・ピット内に準ずる　・　）

⊙ダクトの保温外装

区分	保温外装
倉庫・書庫	⊙アルミガラスクロス　・
機械室	・アルミガラスクロス　・
居室・廊下など	・カラー亜鉛鉄板　・
屋外露出、多湿箇所（　）	・ステンレス鋼板　・

⊙配管の保温外装

区分	保温外装
倉庫・書庫	⊙アルミガラスクロス　・
機械室	⊙アルミガラスクロス　・
居室・廊下など	・綿布　・
屋外露出、多湿箇所	⊙ステンレス鋼板　・

※配管には、冷媒管は除く。

・冷媒管の保温の外装は下記による。なお保温化粧ケースは塩化ビニール樹脂製とする。

区分	保温外装	
屋内露出	・綿布	・保温化粧ケース
屋外露出	・ステンレス鋼板	・保温化粧ケース

項目	特記事項
㊳ 防凍保温	・屋外露出部（給水管、冷温水管、膨張管、冷水管、温水管、ドレーン管、消火管、排水管、弁類）は防凍保温を行い、厚さは管径２５mm以下のものは５０mm、管径３２mm以上のものは４０mmとする。 ⊙屋外露出部（給水管、給湯管、弁類）は凍結防止ヒーターにて防凍対策をおこなう。 なお、保温厚は第３章第２編に準じる。 ・各種機器について図示電気ヒーター等の防凍対策を行う。（　）
㊴ 試験	（1）各種配管の試験は、新設配管に適用する。 （2）新設配管は、既設配管の接続前に試験を行う。

○ 空気調和設備　○ 冷暖房設備　○ 暖房設備

1 設計温湿度

	外気 温度（ＤＢ）	外気 湿度（ＲＨ）	屋内 一般系統 温度（ＤＢ）	屋内 一般系統 湿度（ＲＨ）	屋内 温度（ＤＢ）	屋内 湿度（ＲＨ）	屋内 温度（ＤＢ）	屋内 湿度（ＲＨ）
夏季	32.9℃	52%	26.0℃	50%	18～24℃	30～60%	℃	%
冬季	-9.0℃	63%	22.0℃	50%			℃	%

2 居室騒音限界　下表によるほか、耳ざわり音がないよう機種選定およびダクト消音対策を行う。

室名	Ａ特性（ｄＢ）	

項目	特記事項
3 煤煙濃度計	・設ける　・
4 ばいじん量測定口	・設ける（測定口は８０φとする）　・
5 煙道	伸縮継手、掃除口及び煤煙量測定口の位置は図示による。
6 ダクト	・低圧ダクト　・高圧１ダクト　・高圧２ダクト ・アングルフランジ工法　・スパイラルダクト ・コーナーボルト工法（・共板フランジ工法　・スライドオンフランジ工法）
7 風量測定口	取付部は図示による。
8 チャンバー	内貼りを施すチャンバーの表示寸法は外法を示す。 空気調和機、温風暖房機に取り付けるサプライチャンバー、レタンチャンバー及び風道系で消音内貼りしたチャンバーには点検口を設け、点検口の大きさは図示による。 外壁に面するガラリに直接取り付けるチャンバー及びホッパーは、雨水の滞留のないように施工する。
9 防煙ダンパー	復帰方式（・遠隔　・　） 定格入力は、ＤＣ２４Ｖ、０．７Ａ以下とする。
10 ピストンダンパー	復帰方式（・遠隔　・　）
11 弁類	ＪＩＳ又はＪＶ（・５Ｋ　・１０Ｋ（図示部分））
12 温度計	取付部は図示による。
13 圧力計	取付部は図示による。
14 瞬間流量計	コック付とし、形式及び取付部は図示による。
15 油面制御装置	制御盤には（・給油ポンプ制御　・満油警報　・遠隔警報　・電磁弁制御　・返油ポンプ制御・減油警報　・　）の端子を設ける。なお、フロートスイッチ部と制御盤間の配管配線は製造者の標準仕様とする。

章	項目	特記事項
● 換気設備	① ダクト	・低圧ダクト　・高圧１ダクト　・高圧２ダクト ・アングルフランジ工法　⊙スパイラルダクト ・コーナーボルト工法（・共板フランジ工法　・スライドオンフランジ工法） ・厨房・浴室系統の排気用ダクトの水抜き（・要　・不要）
	2 風量測定口	取付位置は図示による。
	3 ダンパー	空気調和設備の該当項目による。
	④ 排気ダクトのシール	⊙浴室（シャワー室、脱衣室を含む）系統　・
	⑤ チャンバー	空気調和設備の該当項目による。
	6 耐火措置	自家発用換気ダクトが自家発室外を通過する場合の耐火措置は図示による。
○ 排煙設備	1 ダクト	・亜鉛鉄板　・
	2 排煙口の形式	図示による
	3 排煙口手動開放装置（開放及び復帰方式）	・ワイヤー式　・電気式（遠隔操作　・不要　・要）
	4 排煙風量測定	「建築設備定期検査業務指導書」（日本建築設備安全センター）の排煙風量の検査方法に準ずる。
○ 自動制御設備	1 中央監視制御装置	・有り　・無し
	2 中央監視制御装置の構成・機能	図示による
	3 電気計装工事の配線	使用する電線類はＥＭ電線とし、規格は標準仕様書第４編表４．２．１２の使用電線類の規格による。（機器、盤類は除く） 屋外・屋内露出の電線は図面に特記のない限り金属管配線とする。 天井内隠蔽の配線は図面に特記のない限りケーブル配線とする。
● 衛生器具設備	1 大便器洗浄弁	バキュームブレーカー　・不凍結装置付　・低圧フラッシュバルブ（　）
	② 大便器ロータンク	⊙水抜き装置付
	3 温水洗浄式便座	加熱方式（・貯湯式　・瞬間式）　給水方式（・給水管直結給水方式　・ポンプ加圧給水方式） 温風乾燥機能（・有　⊙無）　脱臭（・有　⊙無）
	4 小便器洗浄弁	・不凍結装置付・感知小便器一体型フラッシュ方式・個別感知フラッシュ方式（・埋込　・露出）
	5 小便器洗浄管	・露出　・隠ぺい　・水抜き装置付
	⑥ 水栓	・節水コマ　⊙固定コマ（⊙寒冷地対応形　・　）
	7 化粧棚	・陶器製（・露出形　・　）
	8 石けん受	・陶器製（・露出　・埋込）
	⑨ 洗面器	⊙止水栓付
	10 標記板	・取付箇所（・大便器　・小便器　・　）材質（・陶器製　・　）
	11 大便器耐火カバー	・設ける（ピット内は除く）　・設けない
● 給水設備	① 量水器	⊙親メーター（⊙貸与品　・　）　・子メーター（・買取り　・　）
	② 量水器桝	⊙水道事業者指定品（・貸与品　・買取り）　・標準図ＭＣ形
	③ 弁類	ＪＩＳ又はＪＶ　・水道直結部分（⊙１０Ｋ　・　）　・その他の部分（・５Ｋ　・　） 鉛浸出対策品の証明書を提出すること。
	4 引込納付金等	・要（・本工事　・別途工事）　⊙不要
	⑤ 給水勾配	⊙不凍栓の二次側は水抜きが確実にできること。
	⑥ 建物導入部配管	・標準図　施工４、５（・（ａ）　・（ｂ）　・（ｃ））による。　⊙ 給排水設計図、参考図による
● 排水設備	① 洗面器等の排水管	洗面器及び手洗器に直結する排水管は、器具トラップより１サイズアップとする。
	② 排水勾配	屋内　⊙６５Ａ以下は１／５０、７５Ａ以上は１／１００以上　屋外　⊙１／１００以上　・ ※公共下水は伊那市規格による
	3 満水試験継手	図示の箇所に取付ける。
	④ ｲﾝﾊﾞｰﾄ桝、ため桝	桝のコンクリート部は工場製品としてもよい。　⊙小口径塩ビ桝
● 給湯設備	① 弁類	ＪＩＳ又はＪＶ（・５Ｋ　⊙１０Ｋ　（図示部分）） 鉛浸出対策品の証明書を提出すること。
○ 消火設備	1 スプリンクラー	・ＨＢ－１Ａ　・ＨＢ－１Ｂ　・消火器　・スプリンクラーヘッド
	2 建物導入部配管	・標準図　施工４、５（・（ａ）　・（ｂ）　・（ｃ））による。
○ 厨房機器設備	1 機器の寸法	概略寸法とする
	2 燃焼機器	使用ガス（・都市ガス　・液化石油ガス）
● ガス設備	1 充てん容器	⊙別途（・５０ｋｇ　・　）　・バルク（本工事）
	2 集合装置	・標準図　施工７２による　６本組、２本組
	3 転倒防止等	・標準図　施工７３（・（ａ）　・（ｂ））による
	4 メーター	⊙親メーター（⊙貸与品　・　）　・子メーター（・買取り　・　）
	5 ガス漏れ警報器	・本工事（図示による）　・別途工事
	6 引込負担金	・要（・別途工事　・本工事）　⊙不要
	7 電気防食	・要　・不要
	8 建物導入部配管	・標準図　施工４、５（・（ａ）　・（ｂ）　・（ｃ））による。
● その他	① 調査依頼	本工事について、公共工事労務費調査、資材調査及び建設副産物実態調査等県から調査依頼があった場合はこれに協力すること。
	2 工事実績情報の登録	（1）請負金額が５００万以上の請負者は、工事実績情報の登録を行うこと。ただし、工事請負金額５００万以上２，５００万未満の工事については受注時・訂正時のみ登録する。 （2）登録内容について、あらかじめ監督職員に確認を受けた後に、標準仕様書第１編第１章１．１．４の期限内に（財）日本建設情報総合センター（ＪＡＣＩＣ）に登録手続きを行い、同センター発行の「工事カルテ受領書」の写しを監督職員に速やかに提出する。 連絡先　（財）日本建築情報総合センター　TEL　03－3505－0411　FAX　03－3505－2665
	③ 施工体制台帳等	（1）下請人通知書　・下請契約締結後、速やかに下請人通知書を提出すること。 （2）施工体制台帳の作成　・工事の下請契約において施工体制台帳を作成し、工事期間中現場に備え付けるとともに、監督職員に写しを提出すること。また、工事現場における施工の分担関係を明記した「施工体系図」を作成し、これを工事関係者及び公衆の見易い場所に掲示をを行うこと ※施工体制台帳に記載すべき事項 ・建設業法第２４条の７第１項及び同施行規則１４条の２に掲げる事項 ・安全衛生責任者、安全衛生推進者、雇用管理責任者、監理技術者、主任技術者他 (3)次の業務は、元請負人の指揮、調整のもとに行われるものであるため、施工体制台帳の作成項目に加えると共に、施工体系図及び下請人通知書にも記載すること。 ・産業廃棄物処理業者　・交通整理員、ガードマン ・一日で完了する請負契約、少額な作業・雑工・労務のみ単価契約の請負契約等
	④ 施工途中の検査	施工途中において会計局検査課職員又は発注機関の長の指定する職員による抜き打ち検査を実施することがある。
	⑤ＩＳＯ１４００１関係	（1）　現場で使用する機械は、低騒音、低振動、低排ガス型施工機械とすること。 （2）汚水、汚濁、土砂の流失防止に努めること。また、表土復元等環境の回復に努めること。

（別表）しゅん工時提出物（○印を付けたものを提出する。作成方法は長野県機械設備工事施工手引による。）

① 提出書類等目録	⑥ 官公署届出書類等
② 完成図（製本・ＣＡＤデータ）	⑦ 工具・予備品等
③ 保守管理手引	⑧ 工事関係資料等引渡書
④ 保全に関する説明書	⑨ その他監督員指示によるもの又は特記によるもの
⑤ 工事完成資料	

注）完成図面の種類は、設計図面に準じて作成し、ＣＡＤデータはＪＷＷを基本とすること。
注）提出書類等は市の仕様に準ずる(市の仕様が優先する)

一級建築士事務所登録(伊那)Ｋ第7X201号
株式会社 田原建築設計事務所
〒396-0022 伊那市御園1223-3　TEL(0265)72-7171
一級建築士 登録第 279775 号　田原 健一（管理建築士）
一級建築士 登録第 279775 号　田原 健一

担当	製図	備考	CONSTRUCTION NAME	DRAWING NAME	SCALE	PLACE	DATE	SHEET NO
			令和７年度 市営住宅若宮団地リフォーム工事（195～200号）	機械設備工事特記仕様書	A3:71%縮小	伊那市	R 07・04	Ｍ－01

機　器　表

記　号	機　器　名　称	形　　式	設置場所	仕　　様	電気容量（60HZ）				台数	備　　考
					φ	V	kW	適　用		
WHG-1	ガス風呂給湯機	屋外壁掛形・設置ﾌﾘｰ形	屋　外	給湯能力：２０号	1	100	85 W	消費電力	１２	GT-C2062SAWX-2-BL-20A(LPG)
		シンプルオート		ガス消費量：給湯 ３６．７kW, 追炊き １１.６kW			147 W	ﾋｰﾀｰ作動時		(株)ノーリツ
		ＬＰＧ用		付属品：高機能標準リモコン,浴室リモコン,リモコンケーブル						RUF-E2007SAW　リンナイ（株）
				循環金具(ユニットバス用)、ユニットバス貫通金具						同等品
				追焚き樹脂配管セット３ｍ（さや管,ペアホース）						
				配管カバー(1200H)、器具固定金具Ｌ						
ＶＦ-１	天井埋込形換気扇	定風量タイプ	洗面脱衣	仕　様：ダクト径Φ１００×１００m3/h×９０Pa（強）	1	100	2.6W	消費電力	１２	24時間換気
	（サニタリー用）	24時間換気機能付		24時間換気(弱)　６０m3/h×５０Pa（弱）	1	100	1.4W			VD-10ZVC6
				騒音値：２３．５dB						三菱電機(株)　同等品
										ｽｲｯﾁ：　P-04SWLV2
				付属品：コントロールスイッチ(運転表示ランプ　強・弱スイッチ)						ﾍﾞﾝﾄｷｬｯﾌﾟ：P-13VSQ4
				ベントキャップ：Φ100　ＳＵＳ製　深型ﾌｰﾄﾞ　防虫網付						(ｽｲｯﾁは電気工事に支給)
										ｽｲｯﾁ配線：電気工事
ＶＦ-２	天井埋込形換気扇	低騒音形	ＷＣ（2LDK）	仕　様：ダクト径Φ１００×３５m3/h×２０Pa	1	100	4.9W	消費電力	６	VD-08ZC13
	（サニタリー用）	トイレ専用(小空間用)		騒音値：２３．５dB						三菱電機(株)　同等品
				ベントキャップ：Φ100　ＳＵＳ製　軒天井取付　防虫網付						ｽｲｯﾁ：　P-11SW2
										ﾍﾞﾝﾄｷｬｯﾌﾟ：P-13RSK2
										(ｽｲｯﾁは電気工事に支給)
										ｽｲｯﾁ配線：電気工事
ＶＦ-３	天井埋込形換気扇	低騒音形	ＷＣ（1LDK）	仕　様：ダクト径Φ１００×５０m3/h×６０Pa	1	100	9.3W	消費電力	６	VD-10ZC13
	（サニタリー用）			騒音値：２２dB						三菱電機(株)　同等品
				ベントキャップ：Φ100　ＳＵＳ製　深型ﾌｰﾄﾞ　防虫網付						ｽｲｯﾁ：　P-11SW2
										ﾍﾞﾝﾄｷｬｯﾌﾟ：P-13VSQ4
										(ｽｲｯﾁは電気工事に支給)
										ｽｲｯﾁ配線：電気工事
ＡＰＳ-１	ｴｱｺﾝ用ｽﾘｰﾌﾞ	ＰＥ製丸型		スリーブ径：Φ８０　両端部ウォールキャップ穴ふた取付						
			(1LDK)	洋室- 、LDK　2×6＝12					１２	NFP-75S
			(2LDK)	洋室-1.2 、LDK　3×6＝18　計：30					１８	因幡電機産業(株)　同等品
								計）	30ｾｯﾄ	
ＯＡ-１	自然給気口	ＰＥ製角型	１ＬＤＫ	防音タイプ　壁据付　φ１００　フィルター付					１８	給気口：P-13WSQU
			２ＬＤＫ							ﾍﾞﾝﾄｷｬｯﾌﾟ：P-13VSQ4
										同等品

一級建築士事務所登録(伊那)Ｋ第7X201号
株式会社 田原建築設計事務所
〒396-0022 伊那市御園1223-3　TEL(0265)72-7171
一級建築士 登録第 279775 号 田 原　健 一（管理建築士）
一級建築士 登録第 279775 号 田 原　健 一

担当	製図	備考	CONSTRUCTION NAME	DRAWING NAME	SCALE	PLACE	DATE	SHEET NO
			令和７年度 市営住宅若宮団地リフォーム工事（195～200号）	機器表	A3:71%縮小	伊那市	R 07・04	M-02

衛 生 器 具 表

名　　称	記　号	使用型番 （同等品）	付　　属　　品	1ＬＤＫ（７～１２） トイレ	洗面・脱衣	ＬＤＫ(キッチン)	ユニットバス	屋外	2ＬＤＫ（177～182） トイレ	洗面・脱衣	ＬＤＫ(キッチン)	ユニットバス	屋外		合計	備　考
洋風便器		ＣＳ２３２Ｂ	防露式手洗付密結形ロータンク，　暖房便座　手洗付 他付属品一式	6					6						１２	
紙巻器		ＹＨ６５１	棚付二連紙巻器　芯無しペーパー対応タイプ	6					6						１２	下地補強は建築
タオルリング		ＹＴ４１０	Φ１３７　リング：ステンレス製　ﾌﾞﾗｹｯﾄ：樹脂製(めっき仕上げ)	6					6						１２	下地補強は建築
洗面化粧台		間口 ６００ ＬＤＢＡ０６０ＢＡＧＭＳ１Ａ	シングルレバー混合栓、床給水・床排水，止水栓×2，他付属品一式		6					6					１２	
化粧鏡		間口 ６００ ＬＭＢＡ０６０Ｂ１ＧＤＧ１Ｇ	照明付一面鏡，コンセント付，他付属品一式　（エコ無し）		6					6					１２	下地補強は建築
タオル掛け		ＹＨＴ５０ＨＳ４	バー：ステンレス製　ﾌﾞﾗｹｯﾄ：樹脂製(メッキ仕上げ)		6					6					１２	下地補強は建築
洗濯機用排水トラップ		４２６-００２　　㈱ｶｸﾀﾞｲ	通気弁付き　ＡＢＳ樹脂 ５０ＶＵ用　防臭型　床取付　床固定用ステンレスプレート		6					6					１２	
洗濯機用水栓		ＴＷ１１ＧＲＦ	緊急止水弁付横水栓　　寒冷地用		6					6					１２	
レンジフード	RF 1	ＮＢＨ７３８７Ｋ　（ＬＩＸＩＬ） 排気Φ150　シロッコファン	単相100V　45W(弱),111W(強)　風量：290CMH(弱),450CMH（100Pa）(強) ｳｪｻﾞｰｶﾊﾞｰ：SUS製,防火ﾀﾞﾝﾊﾟｰ付,防虫網付20型（P-20CVSDK5,P-20KSP5）			6					6				１２	下地補強は建築 温度ﾋｭｰｽﾞ：120℃用
混合水栓（流し用）		ＴＫＳ０５３１５Ｊ	シングル混合水栓　壁付　寒冷地			6					6				１２	
流　し　台 ガ　ス　台		ＧＳ-Ｓ－１２０ＭＸＴ　（ＬＩＸＩＬ） GS-K－75K　（ＬＩＸＩＬ）	Ｌ＝１２００　木製キッチン Ｌ＝７５０			6					6				１２	
吊　戸　棚		GS-A-120F　（ＬＩＸＩＬ）	Ｌ＝１２００×３６７×５００Ｈ			6					6				１２	下地補強は建築
ユニットバス		ＷＨＶ１２１６ＵＴＸ１ＣＫ	ﾘﾓﾃﾞﾙﾊﾞｽﾙｰﾑWHｼﾘｰｽﾞ　1216ﾀｲﾌﾟ TBV03438Z:壁付ｻｰﾓｽﾀｯﾄｼｬﾜｰ水栓（寒冷地仕様） HDK1S：ﾄﾞｱ-700W開き戸 VMK2W：窓枠　ﾌﾘｰｻｲｽﾞ(450×450×200) KUM47：耐水鏡 縦長ﾐﾗｰ 300W×455H ｱｸｾﾝﾄｶｳﾝﾀｰ　収納棚2段 （共通仕様） 床：ｶﾗﾘ床 天井：平天井　抗菌防ｶﾋﾞ仕様 浴槽水栓 ｼｬﾜｰﾍｯﾄﾞ：ｽﾌﾟﾚｰｼｬﾜｰ 浴槽：FRP 浴槽排水栓：ｺﾞﾑ栓 照明：半球型、1灯/LED 9W 洗面器：ﾅﾝ ﾌﾛふた：ｼｬｯﾀｰ式 天井換気扇　AC100V*12W				6					6			１２	
耐寒カラン		ＫＴＬ-１０Ｎ（１５Ａ）　㈱竹村製作所	万能型　耐寒型　吸気機能付					6					6		１２	

一級建築士事務所登録(伊那)Ｋ第7X201号
株式会社 田原建築設計事務所
〒396-0022 伊那市御園1223-3　TEL(0265)72-7171
一級建築士 登録第 279775 号
田 原　健 一（管理建築士）
一級建築士 登録第 279775 号
田 原　健 一

担当	製図	備考	CONSTRUCTION NAME	DRAWING NAME	SCALE	PLACE	DATE	SHEET NO
			令和７年度 市営住宅若宮団地リフォーム工事（195～200号）	衛生器具表	―― A3:71%縮小	伊那市	R 07・04	M-03

凡　　例

記　　号	名　　称	摘　　要	仕　　様	
——-——	給　水　管	埋設部	水道用硬質塩化ビニルライニング鋼管	JWWA K 116(SGP-VD)
		屋内一般	水道用硬質塩化ビニルライニング鋼管	JWWA K 116(SGP-VB)
		各住戸内　ヘッダー以降	ポリブデン管（保温付サヤ管・消音テープ工法）	JIS K 6778
		屋外埋設	水道用耐衝撃性硬質ﾎﾟﾘ塩化ビニル管	JIS K 6742 HIVP
——I——	給　湯　管	埋設部	水道用内外面耐熱性硬質塩化ﾋﾞﾆﾙﾗｲﾆﾝｸﾞ鋼管	JWWA K 140(SGP-WHTLP)
		屋内一般	水道用耐熱性硬質塩化ビニルライニング鋼管	JWWA K 140(SGP-HTLP)
		各住戸内　ヘッダー以降	ポリブデン管（保温付サヤ管・消音テープ工法）	JIS K 6778
——RW——	浴槽循環管		追焚用樹脂管(ペアホース)　さや管	給湯機メーカー仕様
——— 汚水 ——— 雑排水	排　水　管	屋内一般	硬質塩化ビニル管	JIS K 6741(VP)
		屋外埋設(屋外桝以降)	硬質塩化ビニル管	JIS K 6741(VU)
——G——	ガ　ス　管	屋内一般	ガス配管用フレキ管	JIS G 4305
——G——	ガ　ス　管	屋外露出	ガスロンパイプ	JIS G 3452
——G——	ガ　ス　管	屋外埋設	ガス用ポリエチレン被覆管 PE	JIS K 6774
——D——	ﾄﾞレ　ン　管		硬質塩化ビニル管	JIS K 6741(VP)
	換気ダクト	一般系統	スパイラルダクト（亜鉛鉄板）０.５ｔ　ＧＷ２５ｔ防露(外壁より１ｍまで)	
	換気ダクト	キッチン系統	スパイラルダクト（亜鉛鉄板）０.５ｔ　　ＲＷ５０ｔ断熱	
	埋　設　弁			
	仕　切　弁			
	可とう継手			
	水　　栓	水，湯，混合水栓		
	床上掃除口			
	床　排　水			
	床下掃除口			

桝　リ　ス　ト（小口径汚水マス）

(1LDK)

桝番号	地盤高	桝深さ 1/70	桝記号		蓋
①		４００	９０Ｌ(右)	１００－１５０	防護蓋(Ｔ-8)
②		４４２	４５ＹＳ(右)	１００×１００－１５０	〃
③		４７８	４５Ｙ(右)	１００×７５－１５０	〃
④		５６０	４５Ｙ(右)	１００×７５－１５０	〃
⑤		６２６	４５ＹＳ(右)	１００×１００－１５０	〃
⑥		６３３	４５Ｙ(右)	１００×７５－１５０	〃
⑦		６４７	４５Ｙ(右)	１００×７５－１５０	〃
⑧		６８４	４５ＹＳ(右)	１００×１００－１５０	〃
⑨		７１９	４５Ｙ(右)	１００×７５－１５０	〃
⑩		８００	４５Ｙ(右)	１００×７５－１５０	〃
⑪		８６６	４５ＹＳ(右)	１００×１００－１５０	〃
⑫		８７３	４５Ｙ(右)	１００×７５－１５０	〃
⑬		８８７	４５Ｙ(右)	１００×７５－１５０	〃
⑭		９２４	４５ＹＳ(右)	１００×１００－１５０	〃
⑮		９５９	４５Ｙ(右)	１００×７５－１５０	〃
⑯		１０４０	４５Ｙ(右)	１００×７５－１５０	〃
⑰		１１０６	４５ＹＳ(右)	１００×１００－１５０	〃
⑱		１１１３	４５Ｙ(右)	１００×７５－１５０	〃

(2LDK)

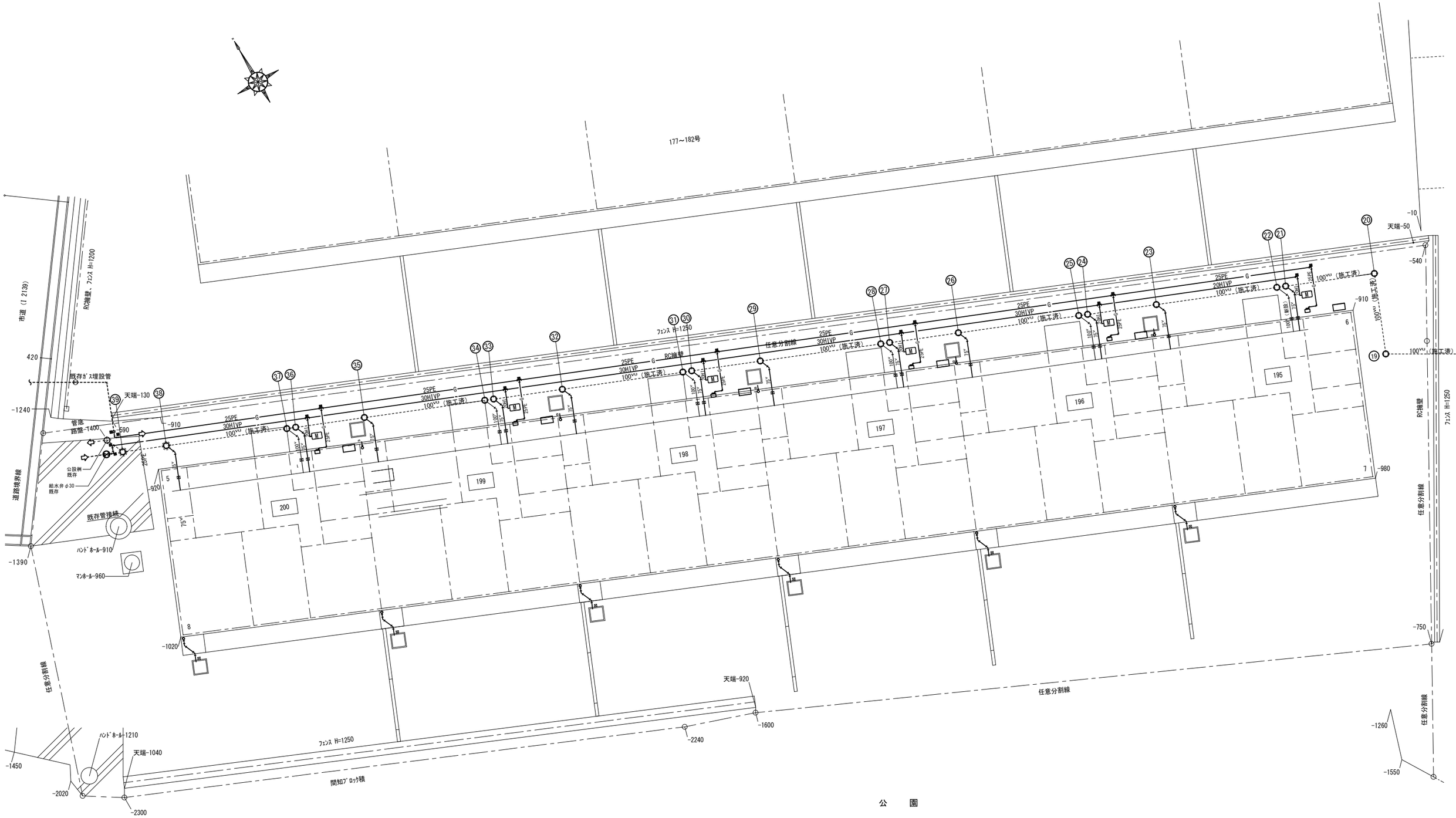
桝番号	地盤高	桝深さ 1/55	桝記号		蓋
⑲		４００	９０Ｌ(左)	１００－１５０	塩ビ蓋
⑳		４５８	９０Ｌ(右)	１００－１５０	〃
㉑		５２２	４５Ｙ(右)	１００×７５－１５０	〃
㉒		５５９	４５ＹＳ(右)	１００×１００－１５０	〃
㉓		６４６	４５Ｙ(右)	１００×７５－１５０	〃
㉔		６９６	４５Ｙ(右)	１００×７５－１５０	〃
㉕		７３３	４５ＹＳ(右)	１００×１００－１５０	〃
㉖		８２０	４５Ｙ(右)	１００×７５－１５０	〃
㉗		８７０	４５Ｙ(右)	１００×７５－１５０	〃
㉘		９０７	４５ＹＳ(右)	１００×１００－１５０	〃
㉙		９９４	４５Ｙ(右)	１００×７５－１５０	〃
㉚		１０４４	４５Ｙ(右)	１００×７５－１５０	〃
㉛		１０８０	４５ＹＳ(右)	１００×１００－１５０	〃
㉜		１１６７	４５Ｙ(右)	１００×７５－１５０	〃
㉝		１２１７	４５Ｙ(右)	１００×７５－１５０	〃
㉞		１２５４	４５ＹＳ(右)	１００×１００－１５０	〃
㉟		１３４１	４５Ｙ(右)	１００×７５－１５０	〃
㊱		１３９１	４５Ｙ(左)	１００×７５－１５０	〃
㊲		１４２８	４５ＹＳ(右)	１００×１００－１５０	〃
㊳		１５１５	４５Ｙ(左)	１００×７５－１５０	防護蓋(Ｔ-8)
公設桝		流入　１５５０	４５ＷＹ	１００－２００	既存

・桝記号は、排水マス協会（排水設備用樹脂製マス協会）略号による。
・伊那市排水基準により施工の事。（蓋は〔汚水〕〔排水〕等表示付）
・配管勾配は 100Φ---1/50～1/75とする。

⊞ 埋設標柱（給水管、ｶﾞｽ管）

一級建築士事務所登録(伊那)Ｋ第7X201号
株式会社 田原建築設計事務所
〒396-0022 伊那市御園1223-3　TEL(0265)72-7171
一級建築士 登録第 279775 号 田原 健一（管理建築士）
一級建築士 登録第 279775 号 田原 健一

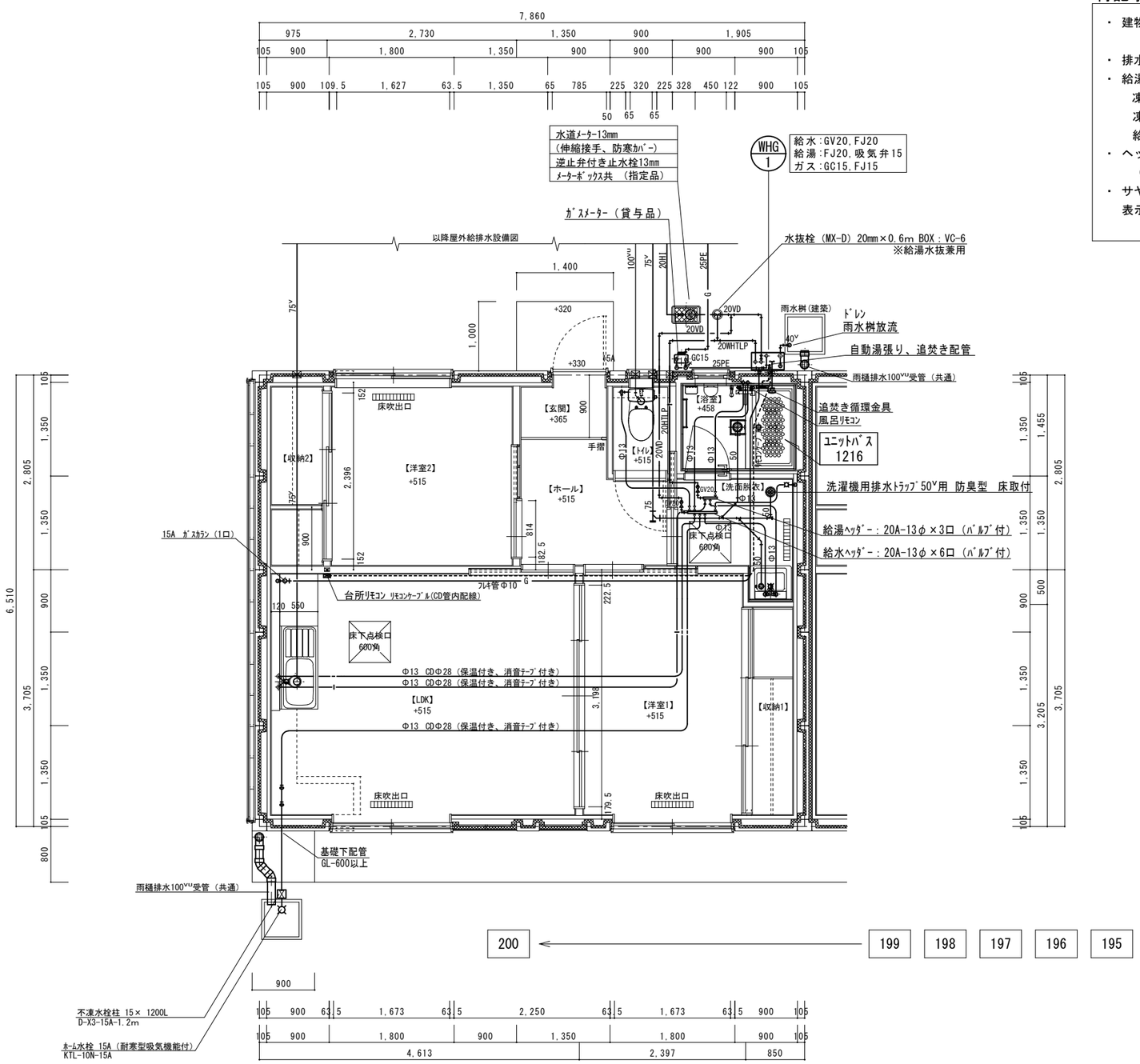
担当	製図	備考	CONSTRUCTION NAME	DRAWING NAME	SCALE	PLACE	DATE	SHEET NO
			令和７年度 市営住宅若宮団地リフォーム工事（195～200号）	凡例・桝リスト	A3:71%縮小	伊那市	R 07・04	M-04



一級建築士事務所登録(伊那)K第7X201号 株式会社 田原建築設計事務所 〒396-0022 伊那市御園1223-3 TEL(0265)72-7171	一級建築士 登録第 279775 号 田 原 健 一（管理建築士） 一級建築士 登録第 279775 号 田 原 健 一	担当	製図	備考	CONSTRUCTION NAME 令和７年度 市営住宅若宮団地リフォーム工事（195～200号）	DRAWING NAME 2LDK（195～200号）屋外給排水設備図	SCALE A2:S=1/100 A3:71%縮小	PLACE 伊那市	DATE R 07・04	SHEET NO M-05

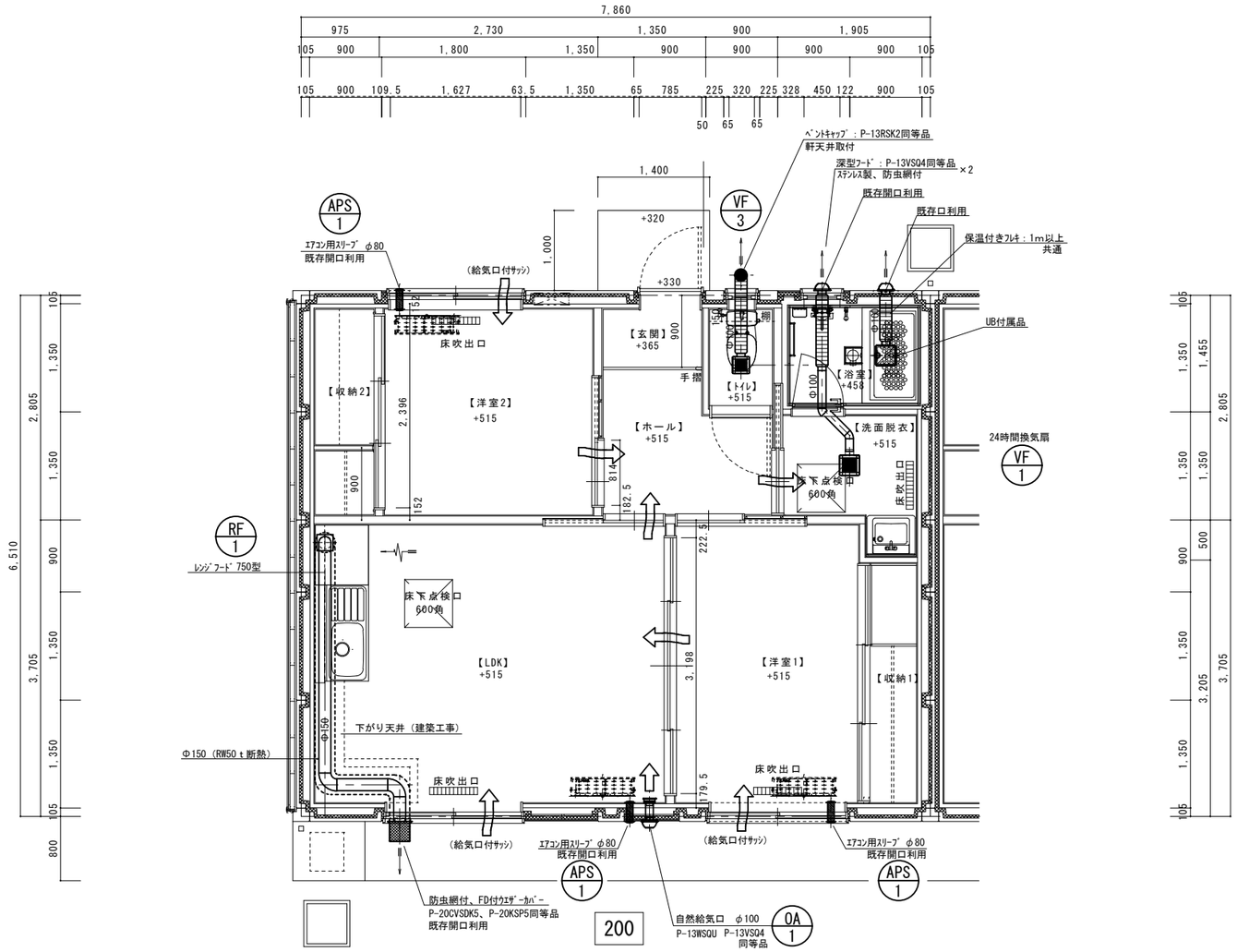
特記事項

- 建物内の配管は、二重床内配管とする。
  - ・給水管　・給湯管　・追炊き管　・ガス管
- 排水管及び給水管等導入部は基礎下土中配管とする。
- 給湯機廻りの屋外露出配管(給水・給湯・追焚管)は、
  凍結防止帯巻きの上保温ステンレスラッキング仕上げとする。
  凍結防止ヒーターは、自己温度制御型（ｻｰﾓｽﾀｯﾄ付）とする。
  給湯機下部に配管カバーを取付ける（H=1200）
- ヘッダー以降の給水管及び給湯管はポリブテンパイプ13φ
  （保温付サヤ管28φ)とする。
- サヤ管には消音テープを施し、ヘッダ゛ー分岐部には系統を示す
  表示プレートを取り付ける。



一級建築士事務所登録(伊那)K第7X201号
株式会社 田原建築設計事務所
〒396-0022 伊那市御園1223-3 TEL(0265)72-7171
一級建築士 登録第 279775 号 田原 健一（管理建築士）
一級建築士 登録第 279775 号 田原 健一

担当	製図	備考	CONSTRUCTION NAME	DRAWING NAME	SCALE	PLACE	DATE	SHEET NO
			令和７年度 市営住宅若宮団地リフォーム工事（195～200号）	2LDK（195～200号）給排水設備図	A2:S=1/50 A3:71%縮小	伊那市	R 07・04	M-06



2LDK（195～200号）換気設備図 S=1/50

200 → 199 198 197 196 195

ＬＤＫレンジフード排気量計算	
計算方法　理論廃ガスによる計算	
排気量：V=N×K×Q	
フード型式	Ⅰ型 N=30
ＬＰＧ	K=0.93
2口ガスコンロ発熱量 参考（ﾘﾝﾅｲ、RTS65AWG34V）（全ガス消費量）同等品	Q＝8.6KW
排気量：V＝30×0.93×8.6＝240 CMH	
ﾚﾝｼﾞﾌｰﾄﾞ排気量＝450CMH＞240CMH ∴OK	

居室機械換気設備（24時間換気）

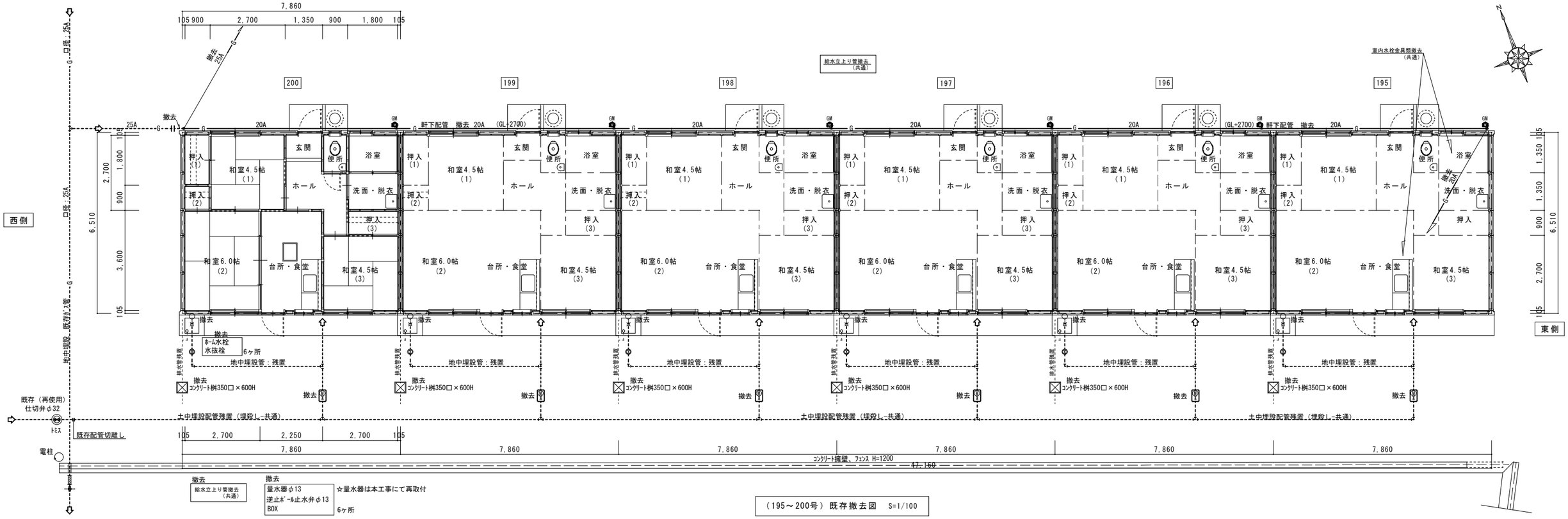
室　名	床面積 [m2]	平均天井高 [m]	気積 [m3]	必要換気回数 [回/h]	必要換気量 [m3/h]	換気種別	排気機による排気量 [m3/h]	台数	記号	機種	備考
洋室-1	11.61	2.3	26.8	0.5	13.4	3					
洋室-2	10.4	2.3	23.9	0.5	12	3					
ＬＤＫ	17.1	2.3	39.4	0.5	19.7	3					
玄関・ホール	5.01	2.45	12.3	0.5	6.2	3					
洗面脱衣	3.0	2.3	6.9	0.5	3.5	3					
	47.12		109.3		54.8		60	1	VF-1	VD-10ZVC6 同等品 24時間換気機能付 風量：(強)-100CMH (弱)24時間-60CMH	単100V*2.6W
ＷＣ	1.98	2.33	4.62	10.0	46.2	3	50	1	VF-3	VD-10ZC14 同等品 風量：50～80CMH	単100V*9.3W

24時間換気扇圧力損失計算書

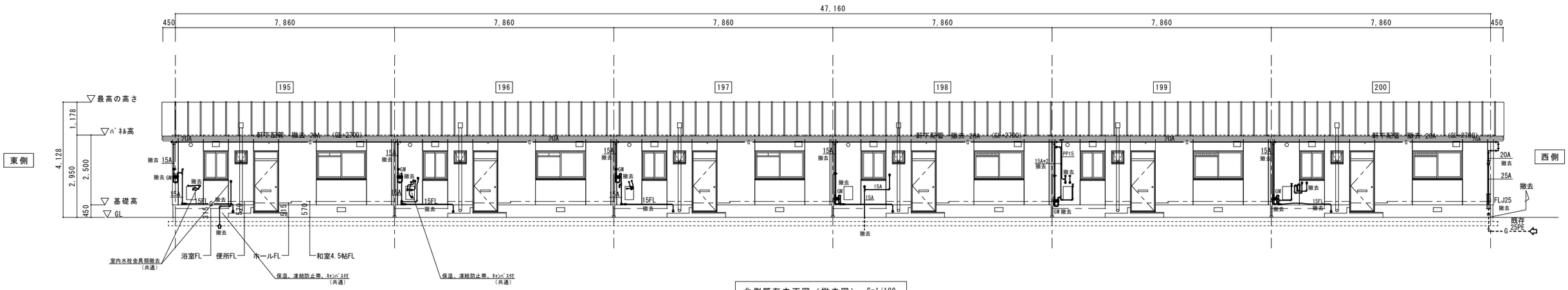
圧力損失計算-1	VF-1　洗面脱衣室　VD-10ZVC6同等品　60m³/m ――― 機外静圧：50Pa	※ﾒｰｶｰP-Q曲線による
①ﾀﾞｸﾄ直管の合計長さ	φ100　4m	
②曲部の直管相当長さ	φ100-90°L：R/D=1.0→10D＝10×0.1＝1m×4個＝4m	
③直管の圧力損失	①＋②＝8m　8×1.2（20%余裕）＝9.6m　0.9Pa/m×9.6＝8.64 Pa（60m³/m時）	
④部品の圧力損失（Pa）	ﾍﾞﾝﾄｷｬｯﾌﾟ：P-13VSQ4　60m³/Hの場合　6 Pa	
合計	③+④　8.64+6=14.64 Pa ＜ 50Pa　OK	

一級建築士事務所登録(伊那)Ｋ第7X201号
株式会社 田原建築設計事務所
〒396-0022 伊那市御園1223-3 TEL(0265)72-7171
一級建築士 登録第 279775 号 田原 健一（管理建築士）
一級建築士 登録第 279775 号 田原 健一

担当	製図	備考	CONSTRUCTION NAME	DRAWING NAME	SCALE	PLACE	DATE	SHEET NO
			令和７年度 市営住宅若宮団地リフォーム工事（195～200号）	2LDK（195～200号）換気設備図	A2:S=1/50 A3:71%縮小	伊那市	R 07・04	M-07

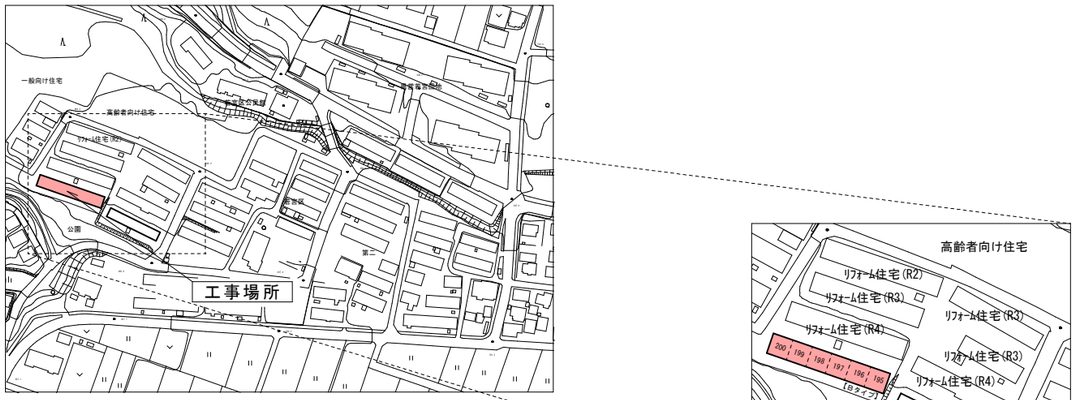


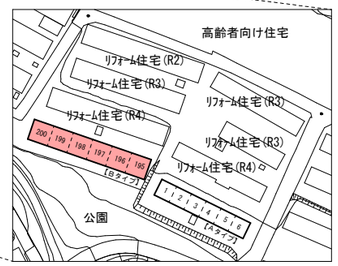
（195～200号）既存撤去図　S=1/100



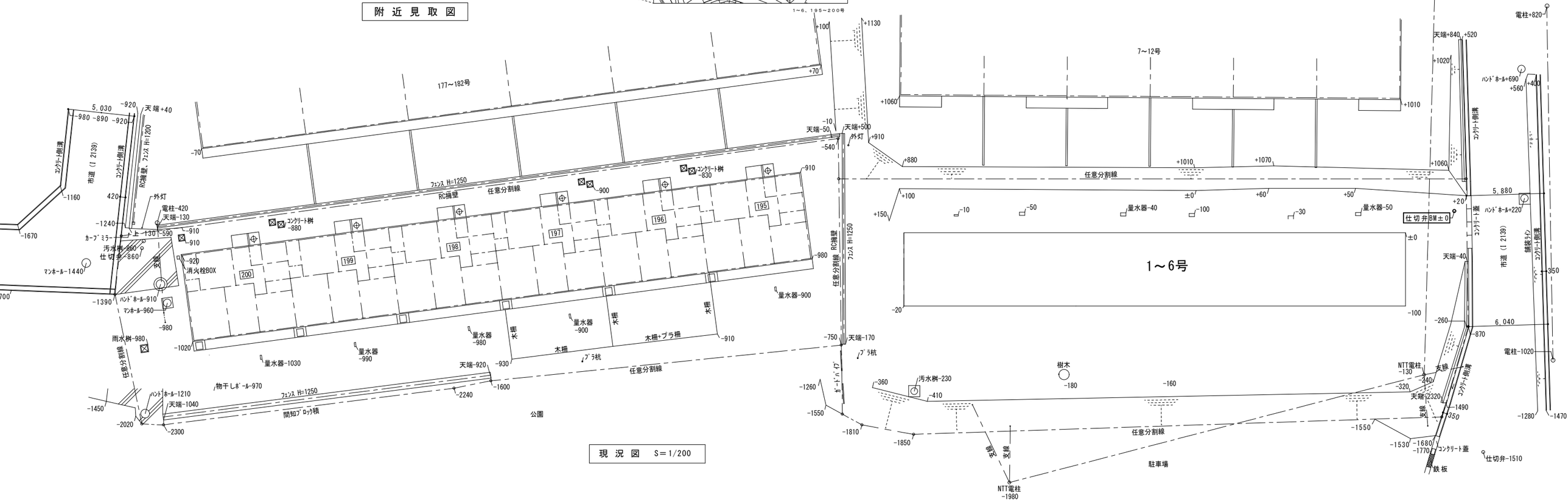
北側既存立面図（撤去図）　S=1/100

一級建築士事務所登録(伊那)K第7X201号 株式会社 田原建築設計事務所 〒396-0022 伊那市御園1223-3 TEL(0265)72-7171	一級建築士 登録第 279775 号 田 原 健 一（管理建築士） 一級建築士 登録第 279775 号 田 原 健 一	担当	製図	備考	CONSTRUCTION NAME 令和７年度 市営住宅若宮団地リフォーム工事（195～200号）	DRAWING NAME 2LDK（195～200号）既存撤去図	SCALE A2:S=1/100 A3:71%縮小	PLACE 伊那市	DATE R 07・04	SHEET NO M-08





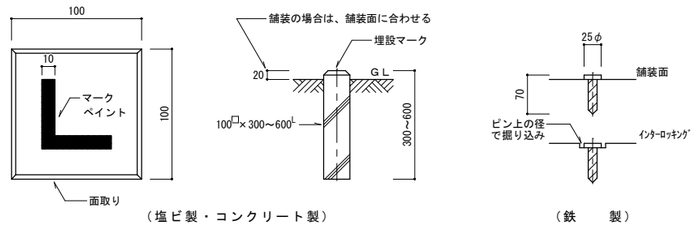
附 近 見 取 図



現 況 図　S＝1/200

一級建築士事務所登録(伊那)K第7X201号 株式会社 田原建築設計事務所 〒396-0022 伊那市御園1223-3 TEL(0265)72-7171	一級建築士 登録第 279775 号 田 原 健 一（管理建築士） 一級建築士 登録第 279775 号 田 原 健 一	担当	製図	備考	CONSTRUCTION NAME 令和７年度 市営住宅若宮団地リフォーム工事（195～200号）	DRAWING NAME 現況配置図、付近見取図	SCALE A2:S=1/200 A3:71%縮小	PLACE 伊那市	DATE R 07・04	SHEET NO M-09

機材１０１　地　中　埋　設　標

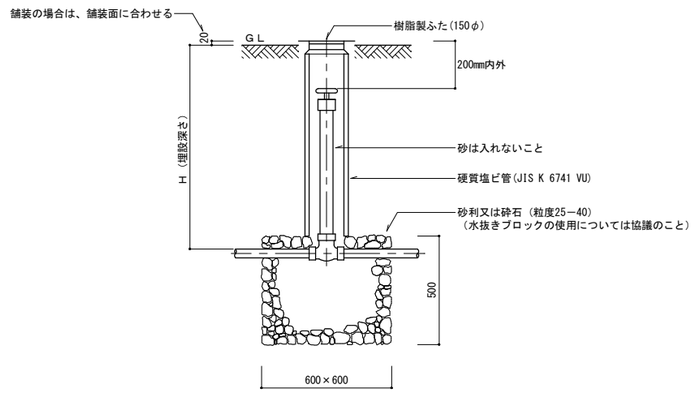


（塩ビ製・コンクリート製）　　（鉄　　製）

1. 使用区分は、舗装部分はコンクリート製又は鉄製とし、その他の部分は塩ビ製またはコンクリート製とする。
2. 頭部は上図の例により、マークを彫り込み、色別表示する。（上図は、曲がり部分の例を示す。）
3. 鉄製の頭部は、用途及び矢印の表示がある物とする。
4. 上記により難い場合は、監督員と協議する。

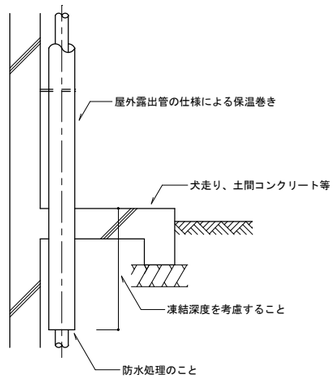
表示の色別
飲用水：青
雑用水：黄
消火水：赤
ガ　ス：緑
油　：赤
排　水：黒
LPGは指定業者品

機材１０２　不凍栓ボックス　ＶＣ－６

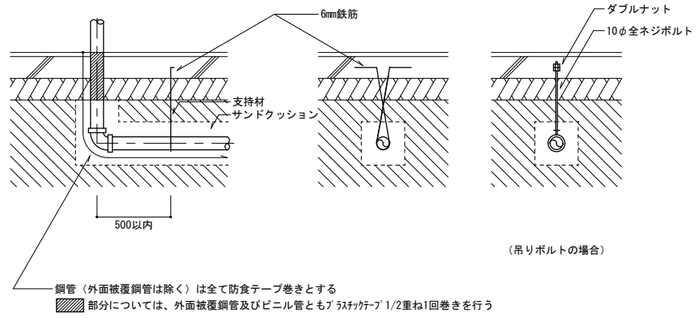


1．アスファルト舗装部分に入る場合は、すり付けとする。

施工１０３　屋外露出管の保温の処理

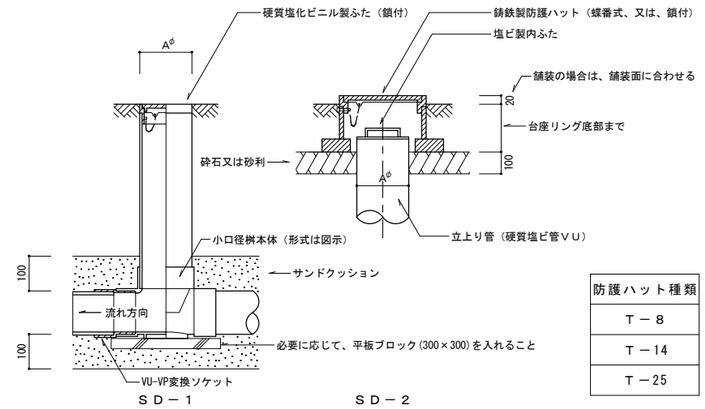


施工１０４　土間配管の防食及び保護



1．吊り間隔は標準仕様書の横走り管の吊り間隔による
2．給湯、冷温水管等保温を行う管及び上記により難い管の場合は、標準仕様書及び特記による

施工１０５　小　口　径　塩　ビ　桝　ＳＤ－１・２



防護ハット種類
Ｔ－８
Ｔ－14
Ｔ－25

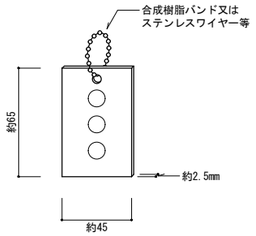
記号 ＼ 管底		Ｈ≦1200	1200＜Ｈ≦2500	2500＜Ｈ	ふ　た
ＳＤ－１	Ａ	150	200	300	硬質塩化ビニル製ふた
ＳＤ－２	Ａ	150	200	300	塩ビ製内ふた＋防護ハット（耐荷重は図示）
	Ｂ	350	400	500	

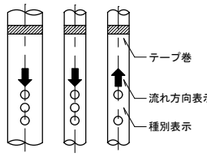
1．桝の深さがGL-1,500mmを超える合流桝については、要所に国土交通省仕様の桝を設けること。設置箇所は図示による。
2．排水管がＶＰ管の場合は、桝本体との接続にあたり変換用のソケット（ＶＵ－ＶＰ）を用い、管内において段差を生じないようにする。
3．車輌の乗り入れが予想される場合は、鋳鉄製の防護ハットを用い、桝本体に荷重がかからないようにする。（防護ハットの耐荷重は図示によるが、図示なき場合はT-8以上とする。）
4．桝及びふたの性能については、原則として、「日本下水道協会」規格又は「ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ･ﾏｽﾏﾝﾎｰﾙ協会」規格による。
5．公共下水道へ放流する場合は、下水道事業者が定める排水基準等による。

一級建築士事務所登録(伊那)Ｋ第7X201号
株式会社 田原建築設計事務所
〒396-0022 伊那市御園1223-3　TEL(0265)72-7171
一級建築士 登録第 279775 号　田原　健一（管理建築士）
一級建築士 登録第 279775 号　田原　健一

担当	製図	備考	CONSTRUCTION NAME	DRAWING NAME	SCALE	PLACE	DATE	SHEET NO
			令和７年度 市営住宅若宮団地リフォーム工事（195～200号）	施工要領図－１	―― A3:71%縮小	伊那市	R 07・04	M-10

施工１０６　文字入れ・名札等





１．名札（合成樹脂製又はステンレス製）

（1）全てのバルブ類について取り付け、通常状態（例：常時開常時閉等）を明示する

（2）文字は、彫り込み又は容易に消えない方法で表示する

（3）寸法は標準的なものを示し、必要に応じて変更してもよい

２．文字入れ

（1）機械室内、ＰＳ内、床下ピット内の配管について、種別及び流れの方向を明示する

シールに印刷したものを貼付ける場合は、貼付面の汚れ、油脂分を除去し、はがれない様にすること

（2）その他、必要に応じ、JIS Z 9102（配管系の識別表示）に準じ、テープ巻等により色別表示を行う

〈参考〉JIS Z 9102(配管系の識別表示)より抜粋

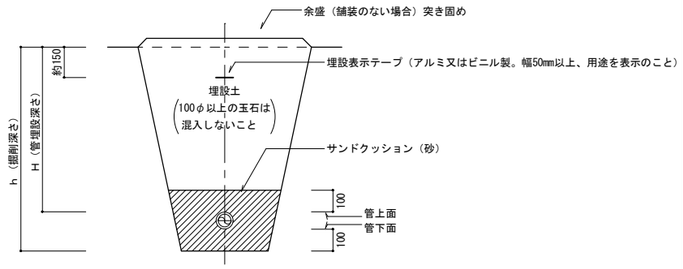
■ 識別表示　管内の物質の種類の識別は、下表に示す７種の色の識別色で表示する

物質の種類	水	蒸気	空気	ガス	酸又はアルカリ	油	電気
識別色	青	暗い赤	白	うすい黄	灰紫	茶色	うすい黄赤

■ 色の指定　識別表示に用いる12種の色の指定は、下表による

色	赤	暗い赤	うすい黄赤	黄赤	茶色	うすい黄	黄	青	灰紫	赤紫	白	黒
色の参考値	7.5R 4/15	7.5R 3/6	2.5YR 7/6	2.5YR 6/14	7.5YR 5/6	2.5Y 8/6	2.5Y 8/14	2.5PB 5/8	2.5P 5/5	2.5RP 4/12	N9.5	N1

施工１０７　土中埋設管の布設

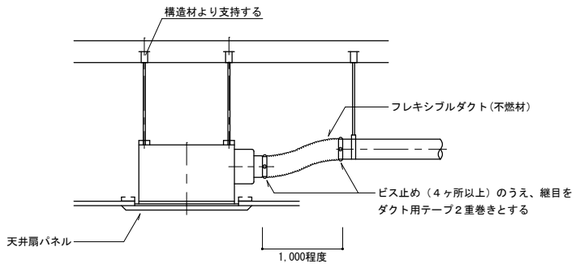


１．給水管と排水管が平行する場合、原則として両配管の水平距離を500mm以上とし、かつ、給水管は排水管の上方に埋設する

２．給水管と排水管が交差する場合も、同様とする。ただし、給水管が凍結深度以下となる場合は除く

３．排水管については、埋設表示テープは不要とする

施工１０８　天井換気扇･ﾌﾚｷｼﾌﾞﾙﾀﾞｸﾄの取付要領



１．天井換気扇の吊りの本数は、製造名メーカーの標準仕様とする。

２．空調用断熱材付フレキシブルダクトの接続は、ステンレス製バンドで固定したうえ、継目をダクト用テープ巻２重巻きとする。

一級建築士事務所登録(伊那)Ｋ第7X201号
株式会社田原建築設計事務所
〒396-0022 伊那市御園1223-3　TEL(0265)72-7171
一級建築士 登録第 279775 号 田原 健一（管理建築士）
一級建築士 登録第 279775 号 田原 健一

担当	製図	備考	CONSTRUCTION NAME	DRAWING NAME	SCALE	PLACE	DATE	SHEET NO
			令和７年度 市営住宅若宮団地リフォーム工事（195～200号）	施工要領図－２	A3:71%縮小	伊那市	R 07・04	M-11